

朝日カルチャー
センター提携講
座@東京工業大

隣りのチャイナ

—— 胡錦濤政権の発展戦略 ——

2006. 1. 18
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣りのチャイナ』(夏目書房)ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ チャイナ原論

- 1) 文明としての中国/ローカル文化としての日本
 - ・中国は、古代に成立した「中華共同体」(CU)である Cf EU
 - ・中国の方言は、互に通じない 広東語/北京語/上海語⇒英語/ドイツ語/仏語…
 - ・表意文字である漢字が、中国を統一 中国語は人工言語(数・変化・時制などなし)
- 2) 中国社会の基本構造
 - ・上部に官僚組織 貴族/地主/読書人/軍人/宦官 →読書人が勝ち残る(皇帝専制)
 - ・下部に地方組織 宗族(父系血縁集団・同姓) 承包(丸投げ)の体制
 - ・数百年に一度、政治的混乱⇒王朝の交代 所有権の否定 セキュリティとしての親族
- 3) 儒教の本質
 - ・差別道徳：重要な人間関係を選別、集団における権力と正統性の所在を明示
 - ・君主に服従(忠/義)～官僚機構 年長者に服従(孝/長幼の序)～宗族
 - ・忠と孝では孝が優先 君主が暴君なら討伐してよい(湯武放伐論)～孟子の革命説
- 4) 中華人民共和国とは何か
 - ・毛沢東の革命 農民を主体に、地主を打倒：伝統的革新 農本主義的ユートピア
 - ・共産党の官僚組織は、伝統的なものよりも、社会の下部に達している：「単位」制度
 - ・社会主義市場経済……資本主義×一党独裁 歴史的概念としては「ファシズム」

□2□ 深化する改革開放 —— 胡錦濤-温家宝政権の課題

* この内容は、胡鞍綱 Hu AnGang『影響決策的国情報告』『新発展観』をもとに、最近出版した『隣りのチャイナ 橋爪大三郎の中国論』(2005. 11、夏目書房)に基づきます。

1) 経済成長

- ・1978年から年率9%の成長が続く 実質で日本を追い抜き、アメリカに追いつく勢い
- ・ボトルネック要因…失業や貧困/腐敗/伝染病/水資源/資源価格/金融/海外投資/台湾問題など政治的緊張 ジニ係数は80年代初の0.28→1999年の0.44に急上昇

2) 失業問題

- ・1993～1997年のレイオフ累計は1200万人、失業率は7% 国有企業整理の峠は越えた
- ・東北三省(遼寧省、吉林省、黒竜江省)と中西部では、国有企業の比重が高く失業深刻
- ・全人代：2003年に800万の職場創出 労働集約産業/中小企業/非公有/非正規就業
- ・給与年金の遅配欠配 全労働者の六分の一 国有企業が退職者の生活を支え負担が大

3) 農村問題

- ・戸口(戸籍)制度：農村から都市への移動制限(1958年から厳格に適用)
- ・農民工：累計1億人 農村非農業人口1億7千万人 改革開放で2.4億人が都市へ
- ・三農問題(農業、農村、農民) 農産物価格の40%下落(1997-2000) インフラ投資の遅れ

4) 地域格差問題 「一個中国、四個世界」

- ・北京・上海(2.7%) / 天津、浙江省…(21.8%) / 山東省…(27.8%) / 四川省…(50.6%)
- ・貧困人口は20% 「小康社会」：十六大の重点目標に 富裕/小康/温飽/貧困
- ・先富論⇒共同富裕論 西部大開発 ひとつの大切、五つの優先 富民為本=雇用確保/社会保障改革/社会の安定/分配の公平/都市の低所得層の利益、を優先する

5) 腐敗問題

- ・「官倒爺」(官僚の横流し)→許認可をめぐる不正→「壟断」(官僚主導の寡占独占)
- ・腐敗による経済損失はGDPの13～16% 汚職/関税逃れ/壟断(電気代など)/税の未納/税の無駄/公共投資の損失/国外逃亡資金/違法な徴収/金融の損失
- ・電力改革：政企分離/廠網分解/全国ネット 鉄道改革 電信改革 航空改革

6) 環境問題

- ・土壌流出(国土の38%) / 荒地地拡大/森林赤字/砂漠化(草原の1/3が消滅) / 大気汚染と酸性雨/水質汚染 原因…人口増加+都市化+経済成長+貧困

7) 政治指導者

- ・小平が終身制を廃止 江沢民が定年制・任期制を採用 → 幹部の交代が予測可能に
- ・若返り 十二大73.8歳→十三大63.6歳 高学歴化 十二大10.3年→十五大15.9年
- ・閣僚級幹部のうち、85%が、省級幹部経験者 ただし地域に偏りがある

8) 国際関係

- ・2020年、中国は強盛期に 経済的実力+総合的国力+生活水準 党と大衆の結合
- ・中国はアメリカとの友好関係を必要とするが、すでにアメリカと戦略的対抗関係に

9) 政治改革と民主化

- ・「人民内部の矛盾」「人民大衆を敵とみなすのは誤り」(劉少奇)
- ・中国建国以来の誤り 1)階級闘争を優先 2)性急な経済建設 3)人口政策の失敗 ~毛
- ・2002年十六大報告：意思決定の科学化・民主化を進めよう

□3□ 世界のなかの日中関係

1) 21世紀前半は米中関係が基軸

- ・アメリカ～新大陸/中国～旧大陸 対照的で相互補完的 アメリカの中国封じ込め
- ・日米関係、日中関係は、米中関係の従属変数 日本の対米、対中戦略を構想すべき

2) 「歴史問題」は、東アジアの主導権問題だ

- ・中国反日デモの背景…党の黙認/党の統制/対日問題(安保理拡大、MD)
- ・中国、韓国は戦勝国でない～戦後処理に主導権を握れず～国際法の後出しジャンケン
- ・中国は靖国神社がうらやましいのでは 人民英雄記念碑 地方での追悼は禁止

3) 台湾問題

- ・国民党主席の直接選挙(2005. 7)…台湾民主化の完成 ⇒共産党になぜできない?
- ・アメリカは台湾を防衛⇒日本も同調⇒中国は対米衝突を避けたいので、むしろ助かる

4) 長期的な対中戦略を

- ・地域的な重心は中国に傾く+韓国・朝鮮 アメリカは牽制してインド、日本にテコ入れ
- ・中国とアメリカが握手しても、喧嘩しても、日本は割りを喰う ⇒その中間に活路

言語研究会@
東大法文I号
館215号室

ルイ・アルチュセール
『再生産について』
橋爪大三郎
(東京工業大)

Louis Althusser 1995 *Sur la reproduction*, Presses Universitaires de France=2005
西川長夫・伊吹浩一・大中一彌・今野晃・山家歩訳『再生産について——イデオロギーと国家のイデオロギー諸装置』平凡社
—— 1970 "Idéologie et appareils idéologiques d'État (Notes pour une recherche)", *La pensée* 151:3-38. =2005 西川長夫訳「イデオロギーと国家のイデオロギー諸装置——探究のためのノート」in Althusser [1995=2005:319-378]

□1 はじめに

1-1

- 何らかの理由によって、著者により捨ておかれたテキスト『再生産について』が、翻訳刊行された。
- この「時期外れの帰還」が、より若い世代の人びとにどのように受け取られるものか、私には想像がつかない。著者がこの論文で試みた思索の全体を、なるべく当時のままに再構成し追体験するように、読んでみる。

1-2

- この論文は、とても急いで書かれている。そして、啓蒙的な動機にもとづいている。その結果、今日からみれば古くさい教条的な決まり文句の貼りまぜと、イデオロギー装置をめぐる新しいアイデアの混合物になっている。
- この論文は、当時でも、相当に古くさくて、教条的に見えた。
- 著者がこの論文を書くときもっとも注意したのは、マルクス主義の標準的な理論と、イデオロギー装置による再生産の理論とが、整合すること。そこに齟齬が生じたから、この論文は発表できなくなったと思われる。

1-3

- 著者がマルクス主義の標準的な理論（そして、共産党）にとどまったのは、本気で革命を実行しなかったから。
- ヨーロッパで革命が成功するためには、ソ連の後押しが不可欠。
- 革命が本物であるためには、再生産を説明するイデオロギー装置の理論が不可欠、と著者は考えた。
- これが著者なりの、スターリン主義に対する回答であったと思われる。

□2 読者へのまえがき／第1章／第2章／第3章

2-1 哲学

- ・《なぜ…哲学に関する問いを、…全面に押し立てるのか。…理論的および政治的な理由から、…共産主義者として、そうした》(28) 科学～弁証法的唯物論
- ・《地球上のあらゆるところで社会主義の勝利を目撃することになる一世紀に突入する》『マルクスレーニン主義の理論と階級闘争の経験で武装する手段を与えることは急務である。』(33)
- ・《哲学とは何か？という問いは、哲学には…属さない》(34)

哲学←(哲学についての)科学的認識=史的唯物論←プロレタリア階級の哲学的立場
∴論述は《どうどう巡り》になる

- ・《あらゆる哲学に固有なものは、与えられた階級の立場を理論において表現することである。》(29)
- 哲学は、科学ではない。とすれば、イデオロギーであろう。そして、プロレタリア階級のイデオロギーが科学(真理)を基礎づける、という関係になっている。

2-2 哲学と階級

- ・《哲学における大きな変化のすべては、階級諸関係と国家において注目すべき諸変容が生じるとき、…歴史のなかで発生する》(46)
- 《十九世紀のインド、中国…(中略)…社会諸階級は含んでいたが…科学を含むことになかったそれらの社会は、…厳密な意味で哲学…を知っていたかどうか疑わしい》(50)

2-3 生産様式

- ・四つの古典的テーゼ
 - 1) 《すべての具体的な社会的構成は一つの支配的な生産様式に従属する》(53)
 - 2) 生産様式は、生産諸力と生産諸関係との統一
 - 3) 生産諸力は物質的土台だが、《決定する役割を果たすのは、生産諸関係》(55)
 - 4) 上部構造(法、国家、イデオロギー)を下部構造(生産諸力と生産諸関係の統一)が決定する。

2-4 資本主義とは

- ・《資本主義的生産諸関係は、資本主義的搾取の諸関係である》(77)
- 従業員は、労働者(プロレタリア)／技術者(搾取の機能)／管理者(抑圧の機能)の三つに分かれる。
- ・《生産諸関係は純粋に技術的な関係もしくは法的な関係…と考えるはならない》(82)

□3 第3章／第4章

3-1 生産諸条件の再生産

- ・《社会構成体は、以下…を再生産しなければならない。1) 生産諸力、2) 現存する生産諸関係》(86)
- ・ 生産諸手段の再生産 ←マルクス『資本論』
労働力の再生産 《労働力の再生産は、自己を再生産する物質的手段を労働力に与えることによって、つまり賃金によって保証される》(88)
- Cf 《労働力の専門技能の再生産は、…学校のシステムによって…保証される傾向》
- ・《労働力の再生産は、規制秩序の尊重に関わる諸規則に対する服従の再生産…を要求する》(91)

3-2 『資本論』の復習

○生産要素は、資本／土地／労働

土地は、経済システムによっては生産できない
資本は、経済システムによって生産(=再生産)できる
労働力の再生産は、賃金その他によって、経済システムの外部で行なわれる

○資本主義経済では、

搾取：賃金(労働力の再生産に必要な商品の価値) < 労働力のうみだす価値
が存在することが、経済システムの存立の必要十分条件。

Cf 森嶋通夫 1974 『マルクスの経済学』東洋経済新報社

3-3 下部構造と上部構造

- ・《上部構造の存在と性質を考えると可能となり、また必要となるのは、再生産から出発することによってである》(95)
- もともと経済学的概念であった「再生産」が、社会全体に拡張されている。

□4 第5章/第6章

4-1 法

- ・《法は、…生産諸関係にまったく言及することなく、それどころか…生産関係を隠蔽しながら、生産諸関係を「表現する」。》(101)
- ・《生産諸手段の集団的もしくは社会主義的所有によって社会主義的生産様式を定義するのは誤っている》
《それは生産諸手段の集団的所有について語ることによって、社会主義的生産諸関係について語っているのではなく、社会主義法について語っているからである》(102)
国家の死滅～法の死滅～商品交換を非商品交換に置き換えること
- ・《法は必然的に抑圧的である》(106) 強制～懲罰～抑圧～抑圧装置～国家
- ・《法的-道徳的イデオロギーは、…警官の代理をするのであって、それが警官の代理をする限りで、警官ではない》(112)
《法の実践は圧倒的に多くの場合「法的-道徳的イデオロギーによって…機能する」》(113)

4-2 国家装置

- ・《国家とは、国家(の抑圧)装置である。》(119)
《マルクス主義理論における国家装置は、政府、行政機関、軍隊、警察、裁判所、刑務所を含んでいる》(121)

4-3 国家のイデオロギー装置

- ・《国家の抑圧装置とは異なったまた別の現実…を、国家のイデオロギー装置(AIE)とよぶ》(121)
学校装置/家族装置/宗教装置/政治装置/組合装置/情報装置/出版放送装置/文化装置
- ・AIEは、制度や組織に対応している。
AIEを構成する制度と組織は、一つのシステムを形成している。
AIEは、イデオロギー的だが、物質的な実践として実現されている。
注) 詳細な説明は、125頁を参照
- ・《国家のイデオロギー装置は、暴力によってではなく、イデオロギーによって機能するという点で、国家装置と区別される》(126)

4-4 一次イデオロギー/二次イデオロギー

- ・《特定の装置やそれらの実践のなかで現実化され存在する国家のイデオロギー》/
《この装置のただなかで、それらの実践によって生産されるイデオロギー》(132)
- ここで著者が主張することを、いまひとつすっきり理解できた気がしない。誰かヒントを下さい。

4-5 レーニン

- ・《学校や家族のような国家のイデオロギー装置の調子が悪いとき、ありがたいことに、他のイデオロギー装置が臨時にもちこたえる》(138)

- ・《抑圧装置を破壊するだけでは不十分であり、さらに国家のイデオロギー諸装置を破壊し置き換えなければならない》(140)
- イデオロギー装置という考え方は、レーニンにさかのぼることができる。

□5 第7章/第8章

5-1 階級闘争

- ・《AIEのある部分が、プロレタリア階級闘争のイデオロギーの現実化でありつつ、ブルジョワ的AIEのシステムのなかに立ち現れることができる》(147)
…共産党や共産党系組合は、長年の階級闘争の結果、フランス国家のイデオロギー装置のなかに割り込んだ。《ブルジョワジーは…プロレタリアートの諸組織の影響力を無効化とする》(150)

5-2 共産党

- ・《プロレタリア政党のイデオロギーは、国家のイデオロギーとは根本的に敵対的であるが、それにもかかわらず、このプロレタリア政党が立ち現れる国家のイデオロギー装置の諸形態と諸実践のなかで現実化される。》(159)
- ・《われわれは組合のシステムをひとつの国家のイデオロギー装置とみなすことができ、…同じ概念のもとで政治システムを扱うことができる。》(161)

5-3 政治的イデオロギー装置

- ・《ブルジョワ国家は単なる政府とは全く別のもの…。国家は、政治的イデオロギー装置とは別のたくさんのイデオロギー装置を手中にしている。》(163)

5-4 搾取と抑圧

- ・《上部構造と下部構造の区別、…抑圧の…下部構造による…決定というこの区別は、…マルクス主義の基本的な真理である。…この真理に…疑義を呈する者は、この点において、純然たる修正主義者以外の何者でもない。》(184)
- ・《最終審級において決定的なもの…は搾取であって抑圧ではない。…決定的なものは資本主義的生産諸関係である(これは同時に搾取の関係である)。決定されるもの…は抑圧である。…国家はこの抑圧の最終的な中心であり、そこから、直接的な物理的抑圧にせよ、間接的な物理的抑圧(行政)にせよ、国家の抑圧装置の抑圧というかたちをとった抑圧のあらゆる形態が、そしてまた国家のイデオロギー装置のイデオロギー的従属のあらゆる形態が、放射されるのである。》(185)
- ・《労働者階級は、資本主義的搾取の階級的諸関係を破壊するために、ブルジョワ国家の権力の奪取、国家装置の破壊、等々を行なわなければならない…。なぜなら、国家とは搾取のシステムの再生産の諸条件を保証するものであ…るから》(186)。

5-5 国家

- ・《定義—国家とは、…国家権力のもとにある、…国家の抑圧装置と、…国家のイデオロギー諸装置である。》(199)

□6 第9章/第10章/第11章

6-1 学校

- ・《かつての支配的な国家のイデオロギー諸装置に対する激しい政治的イデオロギー的階級闘争の結果として、成熟した資本主義的構成体において支配的な地位を占めるに至った国家のイデオロギー装置は、学校的イデオロギー装置である。》(205)

6-2 社会革命

- ・《強い意味において、社会革命とは…、旧来の国家諸装置の破壊と新たな国家諸装置の建設によりその再生産が保証される新たな生産諸関係をしかるべき場所に据えるために支配階級から国家権力を、すなわち現存する生産諸関係の再生産を保証するその国家諸装置に対する自由な使用を、取り上げること》(213)
- ・《警察・機動隊・軍隊は、…打撃を与えるのは…極度に難しい。反対に、国家イデオロギー諸装置は、はるかに傷つきやすい。…階級闘争…の大部分が展開されるのは、まさしくこれらの装置のただなか…である。》(217)

6-3 イデオロギー装置と物質的存在

- ・《イデオロギーは…、諸観念のうちには存在しない…。…書かれた言説あるいは話された言説…のもとに存在しうる。…諸観念は、理念的、観念的、精神的な存在をもつものではなく、物質的存在をもつものだ…。》(221)
- ・《イデオロギーは、諸制度のなかに、そしてそうした制度に属する諸実践のなかに存在する。…そうした諸装置に属する実践のなかに存在するとさえ述べたい》(221)
- ・《国家のイデオロギー諸装置は、個人の「意識」のもっとも「秘められた」部分に至るまで、生産諸関係の再生産を保証しうる》(222)

□7 第12章 イデオロギーについて

7-1 イデオロギー一般の理論

- ・《イデオロギー一般の理論は…マルクス主義理論のうちにはまだ存在していない》(242)

7-2 イデオロギーは歴史を持たない

- ・一方で《諸イデオロギーはそれ自身の歴史をもつと主張することができる》、他方で《イデオロギー一般は歴史をもたないと主張することができる》(245)
- ・《このテーゼがいわゆる「無階級社会」にも拡大されうるし、されなければならないということを示すつもり》(246)

7-3 第一のテーゼ/第二のテーゼ

- ・《第一のテーゼ イデオロギーは諸個人が自らの現実的な存在諸条件に対してもつ想像的な関係を表している》(252)
- ・《第二のテーゼ イデオロギーは物質的存在をもつ》(256)
《一つのイデオロギーはつねに一つの装置のなかに、…その装置の実践…諸実践のなかに、存在する…。この存在は物質的である。》(257)
《パスカルはほぼ次のようなことをのべている。「ひざまずき、唇を動かして、祈りの言葉を唱えなさい。そうすればあなたは神を信じるだろう」》(259)

○ここで主張されていることは、言語ゲームの考え方と似かよっていると思う。

7-4 イデオロギーと主体

- ・《1/ イデオロギーによって、またそのもとでしか、実践は…存在しない。》
《2/ 主体によってしか、またさまざまな主体に対してしか、イデオロギーは存在しない。》(262)
- ・《あなたと私は、つねにすでに主体であり、…イデオロギー的な再認の儀式をたえまなく行っている。》(264)

○再認していることを再認できない、というあたりの著者の主張は、再び、言語ゲームの議論とよく似ている。

7-5 主体への呼びかけ

- ・《あらゆるイデオロギーは、主体というカテゴリーの機能によって、具体的な諸主体としての具体的な諸個人に呼びかける》(265)

7-6 イデオロギーと科学

- ・《イデオロギーによるイデオロギーのイデオロギー的性格の実際上の否定は、イデオロギーの諸効果のひとつ》(267)
- ・《私はイデオロギーのなかにいる…いた…と言いうるためには、イデオロギーの外に、つまり科学的認識のなかにいる必要がある。》(267)
- ・《マルクスレーニン主義的な革命的な政治イデオロギーは、ある科学(…マルクス主義的な科学)によって強く働きかけられ変革されたイデオロギーであるという、歴史上先例のない…特質をもつ》(276)

7-7 上部構造と下部構造

- ・《上部構造と下部構造とのあいだの…厳密な結びつきが、…国家のイデオロギー諸装置によって作り出されている》(283)
- ・《何も起こらない時代…は、国家のイデオロギー装置が完璧に機能しているとき…。…機能しなくなるとき…「出来事」が起こる。…いつの日にか、長い歩みの果てに、「出来事」は革命を伴うものとなるだろう。》(286)

○革命が、終末の日の到来のように、律儀に信じられている。

□8 考察

8-1 生産と再生産

- 本書《第一巻は資本主義的生産諸関係の再生産について論じる》(26)というが、その通りの中身になっている。
- 経済学的な意味で言えば、資本は、経済システムのなかで(再)生産され、労働力は、経済システムの外で再生産される。
- 「資本主義的生産諸関係の恒常的な運行」を可能とする条件をすべて、再生産と考えるならば、経済システムを包含する社会システムの運行そのものが、(経済システムの行なう生産に対して)再生産であるということになる。
- すなわち、資本主義社会の運行それ自体=資本主義的生産諸関係の再生産、となる。
- これは、再生産の概念の、社会学的な拡張である。

8-2 搾取と抑圧

- 《資本主義的生産諸関係は、資本主義的搾取の諸関係である》(77)。すなわち、搾取なしに、資本主義経済はかたときも運行することができない。
- この事実は、マルクスの理論が『資本論』で明らかにしたのであって、人びとの目からはふだん隠されている。人びとは、経済システム・社会システムについて、この事実とは異なった想像をする。すなわち、イデオロギーを抱く。
- 人びとが、こうしたイデオロギーを抱いて、自然に社会を運行させ、資本主義的生産諸関係を再生産することが、イデオロギー諸装置の効果である。
- 生産諸関係は、所有と階級によってできあがっており、それを保証するために、国家抑圧装置と、法的イデオロギー、国家的イデオロギーがある。
- 著者は、搾取が根本で、抑圧は派生的であると考えている。そこで、『資本論』が根本で、初期マルクスの疎外・物象化論は二義的であるという判断が導かれる。

8-3 搾取は論証できるか

- 『資本論』は、生産財産部門と賃金財産部門からなる、線型連立方程式（レオンチェフの投入産出モデル）によって表現される数学モデルを採用している。
- このモデル上で、投入時間で計測される単純労働の価値が定義されるが、無条件ではない。（条件は、すべての労働が単純労働に還元できること、規模の経済がないこと、結合生産がないこと、など。）詳細は、森嶋通夫 1974 『マルクスの経済学』を参照。
- 現実の経済では、条件が満たされないので、価値が定義できない。したがって、剰余価値が定義できない。したがって、搾取が定義できない。
- つまり、『資本論』は一般に、現実に妥当しない。
- したがって、『資本主義的生産諸関係は、資本主義的搾取の諸関係である』(77)とは言えない。
- 著者が考えるような、『資本論』の認識=科学/それ以外の想像=イデオロギー、という対比は、根拠のあやういドグマ(=イデオロギー)ということになる。
- この観点から本書をみれば、「国家のイデオロギー諸装置」は、単に「社会の諸装置」と言っているのにはほかならないことになる。

8-4 イデオロギー

- 著者のイデオロギーの定義は、広範囲なもので、具体的な個人が主体として呼びかけられ、相互に主体として再認し、国家のイデオロギー諸装置のなかで実践を行なうたびに、イデオロギーにとらわれ、イデオロギーをわけもっていると言われる。
- プロレタリア政党（フランス共産党）も、イデオロギー諸装置の一部であるという。とすれば、マルクスの理論も、本書そのものも、その一部であることになる。
《著者と読者は…イデオロギーのなかで「自発的に」…「自然に」生きている》(263)
- すべてがイデオロギーであるならば、イデオロギーという概念は意味をもたない。著者は、科学・理論を、イデオロギーと対比させている。
《このような再認はもっぱらわれわれが行なうイデオロギー的な再認のたえざる実践の「意識」を与えるが、…この再認のメカニズムにかんする認識(科学的な)を少しも与えない。…イデオロギーのなかで、…イデオロギーにかんする科学的な言説(主体のない)を始める…ためにイデオロギーと断絶しようとしている言説のあらましを示そうとすれば、到達すべきはまさにこのような認識なのである。》(265)
このロジックは、任意の言語ゲームは対象化できるが、それはもうひとつの言語ゲームに内属する場合だけである、というロジックと似ているところがある。
- 科学は、主体がない活動、とされている。したがって、イデオロギーではない、とみなされていると思われる。だが、そのことの論拠はどこにも与えられていない。
- 前々項の引用(365)からすると、科学は、イデオロギー的な再認に対する認識(メタ認識)を与えるもののようである。科学は、科学であることから、そのようなメタ認識を可能とするのか、それとも、そのようなメタ認識を試みることができるから、科学が可能なのか。
- 《マルクス-レーニン主義的な革命的な政治イデオロギーは、ある科学(…マルクス主義的な科学)によって強く働きかけられ変革されたイデオロギーである》(276)という論述からすると、著者はつぎのように考えているのかもしれない。
マルクス主義は、イデオロギーと科学の両面をもつ。科学としてのマルクス主義は、それ自体として存在可能で、それがマルクス主義のイデオロギーを駆動した。科学としてのマルクス主義は、主体であるマルクス主義者とは独立に、真理として存在しうる。
- そのようであるとすれば、かなり素朴な真理への信憑であると言えないか。
- よくある知識社会学的循環に陥ってしまうのではないか。

8-5 この書物の構造

- この書物は、マルクス主義の基本諸命題(生産力/生産関係、搾取、上部構造/下部構造、国家抑圧装置、……)に、再生産に関する命題(イデオロギー諸装置)をつけ加えたものになっている。
- 再生産に関する命題をつけ加えたのは、「搾取」が維持される条件を特定し、その条件を解除する「社会革命」の構想を示し、マルクス主義政権の抑圧的性格(スターリン主義)に対抗しようと、著者が考えたからだと思われる。
- この結果、議論は、社会の全体をカヴァーするもの(社会学)になった。
- そして、本書の議論のなかに、本書そのものや、その著者/読者が、位置づけられなければならないようになった。著者はそのことを自覚し、それらがイデオロギー装置の効果のもとにあると述べている。
- この点は、フーコーと似ている。違いは、フーコーが「遍在する権力」を認めるのにひきかえ、著者が「遍在するイデオロギー」を認める点。フーコーの主体が、規律訓練型であるのに対し、著者の主体は呼びかけによるため、はるかに一般的である。
- 再生産は、循環する。したがって本書では、すべての概念が相互に連関し、《どうどう巡り》する。各章の配列は、哲学から始まって、第2巻で再び哲学に帰還する構成となっていた。本書が、循環し再生産する社会と同じ構造をもつことで、社会を正しく反映させようという意図を、著者は持った。
- 第1巻は、史的唯物論(階級と搾取の理論)によって、各章が展開する。それは、経済システムの論述から始まり、イデオロギー装置とイデオロギーに至って終わる。
- これは、疎外・物象化論の配列と重なってみえる。しかし、著者は第2巻で、これを反転させ、階級闘争→イデオロギー→科学→哲学→科学と革命への哲学の介入 という順序で論述を行なうと予告した。

8-6 中断の理由

- 第2巻が完成しなかったのは、科学~哲学~イデオロギー~主体の関係を、はじめ予想したようには、考えつめられなかったからではないか。
- 著者のように、イデオロギーを、社会全体を覆うイデオロギー諸装置のもとで想定するならば、イデオロギーでないものの領域をどこにどうやって確保するかという問題が生ずる。
- これが、科学・理論・哲学として確保できたとしても、その論証は危ういものとなる。科学が正しいのは、イデオロギーでないから。科学がイデオロギーでないのは、哲学に駆動されているから。哲学にそれができるのは、(階級)理論を踏まえているから。理論にそれができるのは、科学だから。
- 要するに、再生産の論述は、循環であり、イデオロギーとイデオロギーでないものとの関係も循環である。
- 再生産の図式によって、論述すると、マルクス主義では目立たなかった議論の循環的な構成が、はっきり目立つようになる。
- 著者は、この循環的な構成の「恣意性」が、耐えられなかったのではないか。
- ここから抜け出るひとつの方法は、科学(搾取理論)を否定すること。すると、イデオロギーの概念は消去され、自己準拠する社会システムの図式が残る。
- もうひとつは、イデオロギーでないものの領域を認めないこと。すると、相対主義的な循環が残る。
- もうひとつは、革命的な主体を認めないこと。すると、資本主義的生産諸関係の永続する再生産が残る。
- 要するに、著者は、マルクス主義の基本テーゼと、(拡張された)再生産に関する命題とが、調和的に共存できないということを、洞察したのであろう。
- 著者が、共産党を離脱した事実は、これと符合する。

がんばろう日本！
第72回定期講演会
於：アカデミー市ヶ谷

格差社会とは何だろう

2006. 3. 14
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 格差とは何か

1) 差異と格差

- ・差異 difference は単なる違い。なくせない。/格差は、あるべきでない差異。
- ・個人の差異 性別/年齢/民族/宗教/人格/個性/経歴/… 多様性は豊かさ
- ・集団の差異 共同体 community/民族/階層/階級/カースト/身分/…
- ・平等のなかの差異→格差 格差=×平等 cf 差別=×公正・正義

2) 格差の種類

- ・所得格差……フローの所得に関する格差
- ・資産格差……ストックの資産に関する格差
- ・社会格差……学歴、文化資産などに関する格差、威信格差、……

□2□ 所得格差

1) 所得の決定に関する理論

- ・すべての商品の価格は、市場における需要/供給の関係によって決まる～近代経済学
- ・賃金率(ω)…単位時間あたりの労働生産性に対する対価
- ・マルクス経済学: Thすべての労働が単純労働であり、地代・利子がなければ、均衡価格は投下労働時間(価値)と一致する。→所得の差異は存在すべきでない
- ・労働の質(経験や知識による生産性の違い) 熟練/未熟練/専門/管理/…
→生涯賃金の差異はどのように生まれるのか?
- ・給与と所得の理論 同一労働でも企業の社員は、自営業者より給与が少ない(リスク回避)
- ・雇用形態による格差 正社員/派遣社員(割高)/パート社員(割安)

2) 農業所得

- ・零細で生産性の低い農家は、労働生産性が低く、所得が少ない ←所得補償(自民党)
- ・高度成長が、都市化(人口移動)と農家所得補償を可能にし、「総中流」を形成した

3) 地代・利子

- ・地代: 土地の限界生産性に対する配当 cf リカルドの差額地代説
- ・利子: 資本の限界生産性に対する配当 利子=貯蓄に対する報奨?(諸説あり)
- ・マルクス『資本論』: Th 利子 >0 ≡資本主義企業が利潤をあげる ≡搾取が存在
- 4) ジニ係数: 所得の不平等を計測する指標 0:完全平等 0.5:かなり不平等
- ・所得格差の是正策 税制(所得税～定率課税/累進課税)、生活保障、福祉政策

□3□ 資産格差

1) 不労所得と相続

- ・資産: 不動産、株券債権など有価証券、預金、… 資産の大部分は貯蓄
- ・資産の一部は、相続や贈与によって移転 私有財産制のもと、相続をゼロにできない
- ・相続は正当化できるか 相続をなくすと、①家族に影響、②怠惰や浪費をうむ

2) 階級と資産

- ・土地所有は、階級制度の基礎となった 貴族=封建領主=不労所得で暮らす統治者
- ・土地改革(資産格差の解消)と土地商品化は、市民社会の基礎となった cf 仏大革命
- ・中産階級: 十分生活できる程度の資産(地代収入)のある階級 ↔無産階級

3) 資本主義

- ・資本家: 資本(生産手段)の所有者 資本主義: 資本・労働・土地の市場が存在
- ・マルクス主義……資本家の資本所有は不当である 原始蓄積→搾取(資本の再生産)
- ・近代経済学……土地や資本の所有者が対価を受け取るから、資源配分の合理性が実現

4) 許容できる資産格差とは

- ・資本主義社会で、資産格差は不可避である。
- ・資産格差の是正策 資産課税、相続税(アメリカでは高い) →法人に逃避

□4□ 威信格差

1) 都市/農村

- ・産業化は、都市を中心に起こる → 農村の魅力喪失 → 言葉/文化/情報の格差
- ・都市の集積効果↔農村は、社会インフラ整備の効率が悪い 一人当たり便益の低下

2) 教育格差

- ・学歴の階層構造 職種・所得の制約 公教育の機能不全→学校歴(学校格差)
- ・学歴: 業績 achievement → 属性 ascription 社会的閉塞感の蔓延

3) 情報格差(デジタル・デバイド)

- ・文化資本: 家庭教育によって階層的に再生産される情報資産 →知識や所得格差を説明
- ・消費社会 微少な差異が価値を生み出す マスメディア→セグメント(差異の生産)
- ・情報とリテラシー 知的生産～知的資本装備 知的所有権～知価社会

4) フリーター/ニート

- ・下流社会論 知的無産者(パート・アルバイト) 企業のコスト削減・アウトソース
- ・正社員/契約社員/パート社員 ……正社員は既得権化 →完全自由市場か格差か

5) 格差社会とは何か

- ・平等の理念: 機会の平等/結果の平等 機会の平等は、実証しにくい
- ・アファーマティブ・アクション……機会の平等が侵されている際に、結果の平等をはかる過渡的措置
- ・SSM(社会階層流動性調査)……親の属性(職業・学歴・階層)と子の属性の相関
民主社会では、親の属性と子の属性は相関がないはず。実際にはある程度の相関。
流動性=構造要因+機会の平等(開放性)要因 高度成長期、構造要因が大きかった
- ・そこにある差異/乗り越えられない壁 格差をつくる社会的要因を除去する政策を

朝日カチャー
ン 提携講
座@大岡山

アレント『全体主義の起源』

2006. 4. 21
橋爪大三郎
(東京工業大)

Hannah Arendt 1951 *The Origins of the Totalitarianism*, Harcourt, Brace & World.

Hannah Arendt 1955 *Elemente und Ursprünge totaler Herrschafts*, Europäische Verlagsanstalt.

ハナ・アレント 1972-1974『全体主義の起源 1~3』大久保和郎・大島通義・大島かおり訳、みすず書房

川崎 修 1998『アレント 公共性の復権』講談社 →2005『アレント 公共性の復権』(現代思想の冒険者たち Select)講談社

□1□ ハナ・アレント(Hannah Arendt 1906-1975)の生涯

1906 ドイツのハノーヴァー郊外に生まれる。ユダヤ系の中流家庭で、両親は社会民主党員。

1913 父パウル、病気で死亡。

1919 スパルタクス団蜂起でローザ・ルクセンブルク殺害される。ワイマール憲法施行。

1924 マールブルク大学で、ハイデガーの学生となり哲学を学ぶ。恋人同士となるが、翌年には解消。ハイデルベルク大学でヤスパースの学生となる。

1926 シオニストのクルト・ブルクマンフェルトと出会う。

1928 博士論文「アウグスティヌスにおける愛の概念」を完成。

1929 ギュンター・シュテルンと結婚。数年で破綻。

1933 反ナチ活動で逮捕。母と共にフランスに亡命。ハイデガーがフライブルク大学総長に就任、ナチ党員となる。

パリでシオニズム運動に加わる。アレクサンドル・コジェーヴ、サルトル、アルベール・カミュ、ベンヤミンらと親交。

1940 ハインリッヒ・ブリュッヒャーと再婚。

1941 フランスを脱出、アメリカに亡命。評論活動を行なう。しだいにシオニズム運動から離れる。

1945 「ユダヤ文化再建委員会」に従事。

1950 ドイツにハイデガーを訪問。

1951 アメリカの市民権をうる。『全体主義の起源』出版。

1958 『人間の条件』出版。

1963 『イェルサレムのアイヒマン』出版。

1968 ニュースクール・フォー・ソーシャルリサーチの教授に就任。

1975 心臓発作で死去(69歳)。

□2□ I 反ユダヤ主義 Antisemitism

1) ☆緒言(一九六八年の英語分冊本より)

・《十九世紀の世俗的なイデオロギーとしての反ユダヤ主義…この反ユダヤ主義という名称は一八七〇年代以前には知られていなかった…と、…宗教的なユダヤ人憎悪とは、明らかに同一のものでない。》(iii)

・《ユダヤ人の…キリスト教の環境からの疎隔は、…キリスト教徒や非ユダヤ人の敵意で

はなく、…自発的な分離によるところが大きかった》(vii)

・《シオニズムは一種の反イデオロギー、つまり反ユダヤ主義に対する回答だった》(ix)

2) ☆第一章 反ユダヤ主義と常識

・×《反ユダヤ主義がナチイデオロギーの核心…をなしたことは偶然でしかなかった》(1)

×《反ユダヤ主義をショービニズム(排外主義)や外国人嫌いと同じ視》(2)

○《反ユダヤ主義は伝統的な国民感情…が強度を失っていくのに正確に比例して成長》

・《反ユダヤ主義は、ユダヤ人が社会生活のなかでその機能とその影響力を失い、富のほかに何もも所有しなくなったときに頂点に達した》(4)

・《テロルというものが…敵を威嚇し追払うため…ではなく、完全に従順な大衆を…支配する恒久的な支配手段となっているということが、全体主義的な支配形式》(6)

中間段階…《テロルはイデオロギー的に正当化されねばならぬ》(7)

・《近代反ユダヤ主義の成立と成長は、ユダヤ人の同化の過程、ユダヤ教の…世俗化および消滅…と時を同じくしている》(9)

3) ☆第二章 ユダヤ人と国民国家 ☆1 解放の曖昧さとユダヤ人の御用銀行家

・《宮廷ユダヤ人はすでに十七世紀にごく普通のものになりはじめ…十八世紀中葉には…ヨーロッパのほとんどすべての宮廷に属していた》(18) 特権→請願

・ユダヤ人は《産業資本にはほとんど…参加していなかった》(21)

・十九世紀、《絶対主義君主制は…国民国家に変わった》(24) ⇒《ブルジョワジーも国家業務から遠ざかっている…という贅沢な真似はできず、…ユダヤ人は帝国主義時代の最初の二三十年間、つまり十九世紀末葉のあいだに、国債および国家への貸付業務における独占的地位を急速に失った》(25)

・《ユダヤ人と国家との関係の異常性は、みずからの政治的代表を持たない一つの民族がある政治的役割を無理やりに負わされてしまったという事実》(40)

・ユダヤ人の経験…《地方官庁に頼るよりも一国の最高権威に依存するほうが有利で安全であり、真の危険はつねに下層民から来る》⇒しかし、予想外なことに《国家の権威によって指導された合法的な反ユダヤ主義》(41)が現れた。

《国家の権威と衝突したすべての社会階層は反ユダヤ主義的になった》(46)

・ロスチャイルド家 《国際的な商業カースト…家族的コンツェルンとしてのユダヤ人の観念は繰返し現れ、やがて…全能の秘密結社といった幻想に変わる》(50)

4) ☆2 プロイセンの反ユダヤ主義からドイツにおける最初の反ユダヤ主義まで

・《反ユダヤ主義とユダヤ人憎悪は同じものではない。…かすかなユダヤ人憎悪すら感じなかった反ユダヤ主義者が存在した…もっとも危険》(51)

・《近代の反ユダヤ主義の最初の徴候》~1807年敗戦後のプロイセン~ユダヤ人解放

改革→貴族の苦境→持参金を持ったユダヤ娘を妻に→《自由主義的市民階級が…ユダヤ人と貴族と…同一視》(58)→《人々が歓迎し必要とするユダヤ人と…望ましくないユダヤ人との…区別》(58) メッテルニッヒの体制 金融ユダヤ人/貧乏ユダヤ人

・19世紀末の反ユダヤ主義←《プロイセン君主制をドイツ国民国家に変える…改革》(63)

・《ヨーロッパにおけるすべての急進的小市民運動・政党…銀行資本に反対する…は…はっきりと反ユダヤ主義的だった》(67)

・《初期の反ユダヤ主義政党は、…重要でないように見えたが…自分らは…「諸政党の上にある政党」であると…言明した》(69)…《ファシスト運動の…最初の明確な例》(70)

《国家に対する敵意…の点で初期の反ユダヤ主義政党は…帝国主義運動と濃厚な類似を示している》(71) 《民族・国家・領土というネイションの三位一体をぶちこわし…国民国家の組織を破壊するような民族概念をみつけようとする傾向が…認められる》(73)

←労働者運動~経済問題は自国内で解決~インタナショナルな志向はうわすべり

- ・《ユダヤ民族の特殊なあり方が、反ユダヤ主義者の超国民的な計画と…社会主義者の連邦主義的な観念に…手本となった》(76)
- 5) ☆3 左翼の反ユダヤ主義
 - ・ハプスブルグ帝室～宮廷ユダヤ人 ⇒《帝室…と対立した民族は、まず第一にユダヤ人を攻撃》(79)⇒《反ユダヤ主義はオーストリアには、…ドイツにおけるのとは格段に違った激しさでは行って行った》(79) 《オーストリアの汎ゲルマン主義者は…ドイツの反ユダヤ主義政党や汎ドイツ主義者と共有していた民族概念からすでに真の意味で帝国主義的な結論をひきだしていた》(84)
 - ・《フランスの反ユダヤ主義は…二十世紀においてもなお、十九世紀の国民国家的な思考の…限界と範疇のなかにとどまっていた》(84)
 - ・《ナチ独裁は…ドイツ的な…ヘーゲル的な国家崇拜>によって説明されるという馬鹿げた偏見がまかり通っている。実は《全体主義の運動は<国家崇拜>どころか普通の公民的な心情すら崩れ去ってしまっただけでなければ成り立たない》(86)
- 6) ☆4 黄金の安定期
 - ・黄金の安定期：《第一次大戦前の…反ユダヤ主義の一時的な消滅をともなった…二十年間》(94)《ユダヤ人の影響力が国家機構から文化事業の領域へ…急速に移っていった》(96) ⇒《ユダヤ人は社会一般の象徴となり、…指導的な地位から締め出されているすべての人びとの憎悪の的になった。…反ユダヤ主義は…山師やえせ治療師どもの手に完全に握られてしまった》(100)
- 7) ☆第三章 ユダヤ人と社会
 - ・《社会の偏見は、ユダヤ人が同化したと称して市民社会のなかに浸透しようとする度合いに応じて増大した》(101) 《人種妄想は…平等の概念がすべての人を自分と同じものとして認めることを要求することに対する反動でもあった》(103)
- 8) ☆1 例外ユダヤ人
 - ・《社会はユダヤ人ではなく、ユダヤ民族の例外者——例外ユダヤ人——に対してのみサロンを開いた》(105)《ユダヤ人はすべての人間は人間であることの証明になった》(107)《例外的ユダヤ人のカースト的高慢さは徐々に出来あがった》(122)
 - ・《ユダヤ人実業家は事業をなし得るためには何としてもユダヤ人としてとどまらねばならなかったが、…ユダヤ人知識人も飢え死にするのがいやだったらせめて外見だけでもユダヤ人たることを放棄しなければならなかった》(125)
- 9) ☆2 ベンジャミン・ディズレリーの政治的生涯
 - ・《この例外的ユダヤ人にとっては、ユダヤ人だけが秘密結社であるのではなかった。…彼は世界中の闘争は実は秘密結社のあいだで行なわれているのだという考えだった。》(146)《後に反ユダヤ主義者が考えたユダヤ人の世界制覇のイメージが…どれほど…完全にディズレリーの頭のなかに描かれていたかを見れば人は啞然とするだろう》(147)
 - ・《富裕な家の出のユダヤ人たちが左翼政党に向かう傾向…。彼らの父親は工業家でなく商人および銀行家だったので、労働者階級と公然と衝突することは…なかった》(148)
- 10) ☆3 フォーブル・サン＝ジェルマン
 - ・《プロイセンの貴族はユダヤ人のサロンへやってきたのに対して、フランスのユダヤ人は貴族のサロンへ出かけて行かなければならなかった》(155)
 - ・《例外的ユダヤ人の歴史はフォーブル・サン＝ジェルマンのサロンで終わる》(169)
- 11) ☆第四章 ドレフュス事件
 - ・《一八九四年末、フランスのユダヤ人参謀将校アルフレッド・ドレフュスは軍事法廷でドイツ帝国のためのスパイ行為を告発され、悪魔島への終身流刑を言渡された》(172)《ピカール大佐が参謀本部情報部長に任命され…一八九六年五月に…参謀総長ボワフデ

- ルにドレフュスの無罪と…エストラジー大佐の有罪を確信すると打ち明けた。…ピカールはチュニスへ追放された。》(173) →クレマンソー、ゾラ、…
- ・《ドレフュス事件の名残…は、ユダヤ人に対する憎悪と、…国家機構全体とに対する軽蔑だった》(178)
- 12) ☆1 ユダヤ人と第三共和制
 - ・パナマ運河開鑿会社の破産→五〇万人の中産階級の生活破綻 《パナマ運河会社…と国家機構との斡旋は…独占的と言えるほどユダヤ人の手で行なわれていた》(184)
- 13) ☆2 軍・聖職者 対 共和国
 - ・《貴族階級の社交界へ…ユダヤ人が入り込んだことの直接の結果として、ユダヤ人たちは…高級将校への進路を求め》た。→《教会の力の及ぶことのないユダヤ人将校たちが高い地位に進むことにたえられないイエズス会の意志にぶつかった》(198)《ドレフュスは参謀本部に入った最初のユダヤ人》(200)
- 14) ☆3 民衆とモップ
 - ・《モップはありとあらゆる階級脱落者アラッセ からなる。…モップは自分を締め出した社会と、自分が代表されていない議会を憎んだ》(204)
 - ・《参謀本部によるモップの組織化は驚くべきものだった。…学生、王党派、事件屋、暴力団を組織し街頭へ繰り出させた。…ゾラの家が投石される。…ケストネールは街頭で襲われ、…「ユダヤ人を殺せ！」の呼び声は…都市に響きわたった》《反ユダヤ主義の突撃隊は街頭を支配し、ドレフュス派の全ての集会を本物の戦闘で終わらせた》(210)
 - ・《当時の人びとにとって目新しく意外だったのは…モップの組織であり、モップの指導者たちに上流社会とエリートが示した英雄崇拜だった》(212)《モップが議会主義の圏外で組織化され、一握り…のドレフュス派にテロルを加え始めたとき、…阻むものはなかった》(214)
- 15) ☆5 大いなる和解
 - ・《フランスのユダヤ人のあいだにドレフュス派がほんの少ししかいなかった》(223) ∴同化ユダヤ人は、非ユダヤ人社会が彼らに距離を置いたように、「東方ユダヤ人」に対して距離を置き、反感を彼らに転嫁できると信じた。

□3□ II 帝国主義 Imperialism

- 1) ☆第一章 ブルジョワジーの政治的解放
 - ・《帝国主義とは通常一八八四年から一九一四年に至る三十年間を指して》いる。(1)《ヨーロッパ…においては、ブルジョワジーの政治的解放が帝国主義時代の国内政治上の中心的出来事だった》(2)
- 2) ☆1 膨張と国民国家
 - ・《政治の不変最高の目標としての膨張が帝国主義の中心的政治理念である》(6) →《工業生産と経済取引の絶えざる拡大》(6)
 - ・《国民国家は征服者として現れれば必ず被征服民族のなかに民族意識と自治の要求を目覚めさせ…これに対しては国民国家は原理的に無防備だった》(8)
 - ・《真の帝国の構造…は、本国の政治諸制度が…帝国に移しかえられて帝国の骨組みを作る…が、…帝国主義の場合には、本国…に…監督権は認められているものの、植民地行政がそれから切り離されているのが特徴である》(14)
 - ・イギリス海外領土の分類 1) オーストラリア、カナダ settlements, colonies 2) インド trade stations 3) 喜望峰 maritime and military stations (17)
- 3) ☆2 ブルジョワジーの政治的世界観
 - ・帝国主義…《輸出资本の利潤が従来の純粋な商業利潤よりはるかに大きい》(22)

- 《権力は…政治体から切り離されて暴力として輸出されたとき、政治的行為の一つの要素からその本質となり、政治理論の一つの問題からその中心問題にのしかかった》(27)
ブルジョワジー：政治的無関心→政治支配 ホッブズの政治理念に共感
- 《無限に進行する富の蓄積は「抵抗しえない権力」に基づいてはじめて維持される》(36)
- 4) ☆3 資本とモップの同盟
 - 《過剰となった資本と過剰となった労働力…を結びつけ…故国を離れさせたのは、帝国主義だった》(47)
 - アフリカ争奪戦(1880年代) 国民国家は抵抗、大企業・銀行・知識人は賛成
《在外資本に対する国家の保護を要求》(46)
 - 《帝国主義政策に対する…民衆の反対が全然なかった…。…膨張は分裂した国民に再び共通の関心を与え、いま一度統一をもたらす…とさえ思われた。》(50)
- 5) ☆第二章 帝国主義時代以前における人種思想の発展
 - 《人種主義が帝国主義の政治的武器であることは余りにも明白な事実》(62)、《人種思想は最初からナショナルな性質の境界を、地理的境界であれ、言語的境界であれ、あるいは伝統的慣習によって決まっていた境界であれ、まったく無視していた》(63)
- 6) ☆1 貴族の「人種」対市民の「ネーション」
 - 18世紀フランス最初の人種思想：ブーランヴィリエ伯 《ゲルマン系民族が、それより古い原住民族のゴール人を征服》、∴《没落しつつある貴族階級の代弁者として第三身分…に対抗し、貴族の支配の正当性を新しい論拠によって実証しようとした》(65)
- 7) ☆2 国民解放としての種族的一体感
 - ドイツの人種思想 《政治的解放を勝ち取ることに失敗したドイツ市民階級は、せめて社会的解放を遂げることによって、…貴族の驕慢から逃れようとした…。この闘いの最適の武器が「持って生まれた個性」》(76)
 - 《「持って生まれた個性」の欠如、気の利かなさ、生産性の不良、生得の商売人根性など、要するに貴族が市民階級のものとして嘲笑していた属性のすべてが、今度は…ユダヤ人に押しつけられた》(77)
- 8) ☆3 ゴビノー
 - 《ゴビノーの『人種不平等起源論』は一八五三年に出版されたが、有名になったのはその五十年後》(79)
 - 《なぜ貴族がその地位を失…ったか…。その必然性を説明するためにゴビノーが発明したのが…人種退化説》(82) 《アーリア人種は非アーリア系の下層民階級による民主主義化の途上で絶滅させられる危機に瀕している》(83) 《過去の歴史的出来事は、各個人における人種混合として、自分自身の魂の深層の葛藤において跡をたどることができるようになった》(86)
- 9) ☆4 「イギリス人の権利」と人権との抗争
 - 《イギリスのナショナリズムが階級闘争…によって妨げられずに発展できた理由は…名門貴族と市民階級との中間に位置していた…ジェントリーがブルジョワジーの上層部を絶えず同化し貴族化させ…貴族への上昇可能性が開けていた…。この過程によって貴族は国民の一部となり…強い国民的責任感を抱くようになった》(89)
 - 《結果…、淘汰とか生物学的遺伝子とかの観念がイギリスの人種理論では…支配的になった。…優生学はすべてイギリスに起源をもっている。》(89)
 - 《ヨーロッパ人がアフリカやオーストラリアで初めて原始的民族にぶつかったとき、人類成立についての聖書神話は…深刻な試練に立たされた》(90)

10) ☆第三章 人種と官僚制

- 帝国主義時代の《官僚制とは、政治に代わって行政が、法律に代わって政令が、決定者の責任が問われうる公的・法的決定に代わって役所の匿名の規定が登場する支配形態》(104) 《ナチ支配において人種妄想と官僚制との幾重もの関係を目撃してきたわれわれにとっては、この二つの原理が本来の帝国主義にあってはそれぞれ別個に発展してきたことを認識することが重要》(106)
- 11) ☆1 暗黒大陸の幻影世界
 - ケープコロニーのブーア人… 《十七世紀半ばにオランダ人の移民がここで下船させられ》た。彼らは《短時日のうちに現地の野蛮な生活と余り変わらなくなってしまった。…家族単位に孤立し、広大な土地に依存した生活を営むようになり、…氏族組織へと分解していった。》(115)
 - 《アフリカ型の奴隷労働が…違う点は、奴隷が単に賤しい労働だけでなくあらゆる種類の生産労働に使われたこと》(116) 《他人の労働への完全な依存、あらゆる生産に対する絶対的蔑視は…オランダ人家族を、…ブーア人へと変えてしまった。》(117)
《彼らは旧約聖書、特に…イスラエル宗教が民族宗教として最も強くその姿をあらわす箇所を拠り所にした。》(118)
 - 《大陸全体に轟く住民としての黒人を見たときのヨーロッパ人を襲った根源的恐怖は、他に比すべきものを持たなかった。》(121)
- 12) ☆2 黄金の血
 - 《一八七〇年頃にキンバリーでダイヤモンド鉱床が発見された。…金鉱の発見がこれに続いた。》(124) 《ユダヤ人は…帝国主義発展の初期段階にとってきわめて重要な金融家の地位をほとんど独占していた…。ブーア人の外人憎悪がユダヤ人に集中し反ユダヤ主義がブーア人の人種世界観に組み込まれるようになったのは当然…だった。…「白人」と区別されて一つの特殊な「人種」と見られ…白人と有色人との…区別を混乱に陥れる悪魔的原理の化身のように扱われることになった》(130)
- 13) ☆3 帝国主義的伝統と帝国主義的性格
 - 《帝国主義伝説の創作者はラディヤード・キプリング…。エリートは伝説…に…惹きつけられ、…平均的人間はイデオロギーに…、…モップは地下の世界帝国の陰謀団の暗躍物語にうつつをぬかした》(138)
 - 《収奪者と被収奪者は…ともかくも同じ世界に生き…ている…。完全…な隔絶は》…《支配される側の人間を…純然たる管理対象にまで貶めてしまう》(144)
 - 《官僚制…の特徴は、合法性、つまり普遍妥当性をもつ法律の不易性が放棄され、その代わりに…次々に乱発される政令が登場するという点》(149)
 - アラビアのロレンス
- 14) ☆第四章 大陸帝国主義と汎民族運動
 - 《ナチはオーストリア版の汎ドイツ運動(汎ゲルマン主義)から、…決定的影響を受けている》《またスターリン流のボルシェビズムが汎スラブ主義に負うところは大きい》(161)
 - 《大陸帝国主義は、おそらく海外帝国主義への反動として成立し…、最初から人種主義の方向をとった》(164) 《海外帝国主義は、国民国家の…政治的組織形態をとともかくも保存し…た。それに対し大陸帝国主義…は終始一貫して国家に敵対しており、…汎民族運動は…当時の革命運動の一つとみなされるべきである》(166)
 - 《具体性の欠如と誇張された擬似神秘主義は汎ゲルマン主義と汎スラブ主義双方の…著しい特質》(167)
 - 《帝国主義時代の特徴をなすモップと資本の同盟においては、南アフリカを例外として主導権は資本の代表者の側にあった。汎民族運動では…もっぱらモップが主導権を握っていた》(168)

- ・《種族的ナショナリズムは中欧および東欧のすべての国と民族の国民的感情を決定的に規定…するものとなった》(168) 民族自決権の口実 ←膨張と征服の下心

15) ☆1 種族的ナショナリズム

- ・《大陸帝国主義と汎民族運動の原動力をなしている種族的ナショナリズムは、西欧型のナショナリズムと…決定的な違いを見せている》(174) 《社会学的に言えば国民国家は、解放されたヨーロッパ農民階級に正確に対応する政治体》(175)
- ・《種族的ナショナリズムはこれら民族の根無し草的性格から生まれた》～東南欧(179)
- ・《汎民族運動は自民族の起源が神にあることを説き、…人間の起源が神にあることを信ずるユダヤ教・キリスト教に対抗した》(181) 神は人間を造ったか民族を造ったか
- ・《同時に起こったのが…諸民族はヒエラルヒーを構成するとみなし、その中で各民族は…「自然」に生まれながらの特性を与えられていると考える「国民的使命」の観念だった。人種イデオロギーに至っては、遂に人類の共通の起源を完全に否認し…た》(183)
- ・《同じ民族に生まれたすべての人間は…同一家族のように相互に信頼しあえるという観念が登場した》(184) ～社会的故郷の代用品
- ・《反ユダヤ主義は比較的後になって運動のなかに入っている》(190) 《種族主義理論…からすれば、ユダヤ人こそ民族の唯一のモデル》(191) 《同化ユダヤ人の意識こそ種族主義ナショナリズムに驚くほど似ていた》(192)

16) ☆2 官僚制——専制の遺産

- ・《汎スラブ主義の「哲学」の中心に立つのは神性と権力の同一視…。権力への奉仕はここでは文字通り神への奉仕である》(206)

17) ☆3 政党と運動

- ・《汎民族運動の決定的な発明は…政党制に対し根本的に異なる組織形態を対置しようとしたことである》(211)
- ・《二大政党制においては一方の政党はつねに政府と同じ…。政党はここでは一時的に国家とな》(213)。《大陸の政党制は、各政党はみずからを全体の一部と自覚的に規定し、全体は政党をこえた国家によって代表されるとする》(214)
- ・ファシスト党独裁 特殊利害を背景に《一党独裁のかたちで権力すなわち国家機構を握ることだけを目標にしていた》(219)
- ・《ナチは自分たちがイタリアのファシズムの忠実な弟子以外の何者でもないというふりを出来るだけ長く装い続けるのが有利であることに気がついた》(220)
- ・《現在では忘れられがちであるが、第二次世界大戦の勃発に際してヨーロッパのほとんどの国は政党制を廃止し…この革命的変革は革命的蜂起なしに行なわれた》(228)

18) ☆第五章 国民国家の没落と人権の終焉

- ・第一次大戦とオーストリア・ハンガリー帝国の解体の結果 《どの民族も互いに、…近い民族を憎み合》(237)
- ・《少数民族…無国籍者と亡命者…の異常性は、…いかなる国家によっても公式に代表されず保護されないという点にある》《全体主義政権は…国民国家を内部から崩壊させるためこの無国籍者のグループを増大させるべく意識的に努力した》(238)

19) ☆1 少数民族と無国籍の人びと

- ・《少数民族は自分たちの仲間が国家民族となっている隣国を頼り領土併合を求めたのに対し、構成民族のほうは国家機構の奪取をめざす激しい戦いと断乎たる分離運動を展開し始めた》(242)
- ・《ヴェルサイユ平和会議の目的はヨーロッパに現状を回復することだったため、西欧の原理を東欧に適用する以外に…なかった》(244)
- ・《国家は帰化市民に対しては自国領土に生まれた市民と同じ奪うべからざる諸権利を認める用意がなかった》(253)

- ・《ナチ・ドイツではニュルンベルク法が帝国市民（完全な市民）と国籍所有者（政治的権利のない二級の市民）の区別を設けたが、これによって…「異種血統の」国籍所有者が政令により国籍を剥奪される道がひらかれた》(268)

20) ☆2 人権のアポリア

- ・《人権は譲渡することのできぬ権利、奪うべからざる権利…。人権を守るための特別な法律を作ったとすれば理に反することになる》(272)
- ・《ところが今、政府の保護を失い市民権を享受しえず、…生まれながらに持つはずの最低限の権利に頼るしかなくなった人びとが現れた瞬間に、彼らにこの権利を保証しうる者はまったく存在…しないことが…明らかとなった。》(273)
- ・亡命者は《そもそも自分が亡命者であることを証明することができなかった》(277)
- ・《完全に罪ない人間から法的人格を奪うことのほうが、その他いかなる人間から…奪うよりも明らかに容易である》(277)
- ・《諸権利をもつ権利…というようなものが存在する》(281) 《…この人間としての特質の喪失に対応する権利、これまで人権として言及されたことすらない権利は、十八世紀の諸カテゴリーでは把握することができない。》(282)
- ・「世界政府」は解決にならない。《人間を一人残さず…一つの組織に統合するようになった人類が、ある日…民主的な方法で…人類全体にとっては一部の人間を抹殺するほうがよいと決定する…ことは考えられないわけではな…い》(285)

□4□ III 全体主義 Totalitarianism

1) ☆第一章 階級社会の崩壊

- ・《全体主義の指導者は、自分の過去の犯罪を比類のない率直さで自慢し将来の犯罪を比類のない正確さで「予告」することで、出世のスタートを切る》(4)
- 《現代の大衆をモップから区別しているのは…没我性と自分の幸福への無関心》(5)

2) ☆1 大衆

- ・《全体主義運動は大衆運動であり、…すべての政党と異なっている》(6)
- ×利益政党、世界観政党（国民国家の階級代表） ×二大政党制（アングロ・サクソン）
- ・全体的支配…歴大な数の人間が余っているとき / 全体主義運動…大衆が存在するとき
- 《全体主義運動の興隆に特徴的な点は、…政治的には全く無関心だと思われていた大衆…からメンバーをかき集めたことである。》(10)
- 《政治的プロパガンダに内戦の手法を持ち込む…。論駁する代わりに殺害し、…説得する代わりにテロルで嚇す》(12)
- ・《全体的支配…にとっては、大衆の組織化を人種の名において行なおうと階級の名において行なおうと、…それほど重大な違いはない》(14)
- ・《階級制度の解体は自動的に政党制度の崩壊を意味していた。これらの政党は…代表すべき利益がなくなってしまった。…政党は世界観的な「原理」しか訴えるものがなくなったため…プロパガンダは硬直しファナティックとなり、弁解がましさを帯びる》(18)
- ・《種族的ナショナリズムも敵意…に満ちたニヒリズムも、…モップを…容易に虜にし…たが、…大衆に対しては…それほどの威力を発揮…できない》(23)
- ・《スターリンが…とった方法は、インターナショナリズムの名において新しい少数民族を、階級なき社会の名においてソ連の新しい諸階級を絶滅したことだった》(28)
- ・《肅清の大波が荒れ狂っている間は人々が自分自身の信頼性を証明する手段はただ一つ…自分の友人を密告すること》(35)
- ・《どんなにマルクスとレーニンの理論を学ぼうと、党の方針が明日はどの方向…かの予測には役に立たず、…前の日にスターリンが言ったことを伝える…新聞からしか得られ

ない。》(38)

- ・《階級制度の解体は自動的に政党制度の崩壊を意味していた。これらの政党は…代表すべき利益がなくなってしまった。…政党は世界観的論議を拒否したのと同じ効果》(38)
- 《考えと意志をもつのは命令者で…、彼の考えと意志を説得か権威か…暴力で、思考も意志も持たない人々に遂行させる》(39)

3) ☆2 モップとエリートの一時的同盟

- ・《全体主義運動の行動主義は、…テロル活動への偏愛に特にはっきり現れており、彼らはテロルをその他すべての政治的行動に優るものと看做している。》(49)
- 《知的エリートがモップと同じく全体主義のテロルに惹き寄せられたのは、…真の意味におけるテロリズム、一種の哲学となったテロリズムがあったから》(49)
- ・《大衆はいわゆる職業的犯罪者よりもはるかに大きな犯罪——その犯罪が完璧に組織されて日常的な仕事にまで変えられていさえすれば——を犯す能力を持っていた》(58)
- ・《ヒトラーにもっとも近い側近のうちには、モップの代表は一人も入っておらず、ヒムラーとゲッベルスを除くと古参党員は全然いなかった。…かつてのモップ層…は初期のナチ運動に最も有用な共犯者を供給したにもかかわらず、…ゲッベルスを除くと誰一人として真に全体主義的となった支配にふさわしく身を処す術を知らなかった》(58)

4) ☆第二章 全体主義運動 ☆1 全体主義のプロパガンダ

- ・《モップ分子とエリート分子に対して全体主義運動が揮う魅力はプロパガンダとほとんど無関係で…、既成のものすべてを革命とテロルの嵐に投げ込む…行動力が与える魅力である。それに反して大衆はプロパガンダによってしか獲得できない。》(63)
- ・《全体主義運動は政権を握ると…テロルは…無差別に誰にでも向けられるようになる》(64) 《例えばボルシェビキ政権が…とった方法は、プロパガンダで失業者はいないと言いくるめるのではなく、…失業給付を一切廃止してしまう…方法だった》(64)
- ・《プロパガンダは確かに「心理戦争」の不可欠の要素である。しかし…テロルは依然として基本的に全体主義政権の支配形式である。》(67)
- ・《内容がいかに荒唐無稽であろうと、…その正しさを証明しうるのは不確定の未来のみだとされる…と、…プロパガンダはきわめて強大な力を発揮する。》(71)
- ・《大衆の基本的特質は、…何らの社会的組織にも政治体にも属さず、…個別的な利害の真の混沌を示している、という点にある》(74)
- ・《殺すつもりの手相を死にかけた者と定義するこの方法は、…全体主義的独裁の条件のもとでのみ完全に貫徹される》(77)
- ・《首尾一貫性の虚構の世界…は現実そのものよりもはるかによく人間の心情にかなっていて、…根無し草の大衆は…世界に適應することが可能になる》(83)
- ・《全体主義の指導者は…デマゴグではないし、…ウェーバーのいう「カリスマ的指導者」でも…ない。彼らが抜きん出ているのは、事実と対立する完全な虚構の世界を築くに適切な要素を既成のイデオロギーから選び出す…確かさなのである。》(96)
- 《ナチは実際の行動において、あたかも世界はユダヤ人に支配されており、それに対抗する陰謀をもってしか世界を救うことはできないかのように振舞った》(97)
- ・《イデオロギーとしてのナチズムは運動の組織と第三帝国の組織のなかで余すところなく「実現」されていたため、…実際にナチの虚構が崩れ去ったときには、…あとかたもなく消え失せた》(99)

5) ☆2 全体主義組織

- ・《全体主義運動の組織形態は他に類のない独創性を示している。…本質的に新しい独創的な組織方法として注目をひくのは、党員とシンパサイザーの区別である。》(100)
- 《ナチの用語で言えば、全体的支配の「最高の法」となるのは、…ダイナミックな「総統の意志」である(彼の命令ではない)。》(101)

《できる限り多くの同伴者を…かき集め、他方、党員そのもののほうは可能な限り制限する》(102)

- ・《前面組織は、党員に対して外部世界の本来の性格を欺くのと全く同じように効果的に外部世界に対しては運動の本来の姿を隠蔽する役割を果たす》(104)
- シンパ/党員/精鋭組織(SA/SS/行動部隊/髑髏隊/公安部/人権・移住本部)
- 《絶えず新しい階層や機関をつけ加え、…権力中枢を移動させる流動的ヒエラルヒー》
- ・レーム: 《権力奪取後はSAを直接に国防軍に編入しよう》(110) → 肅清 (107)
- ・《重複組織をつくるという技術は、…全体主義国家にとっては非常に大きな意味をもっている。運動の擬制的世界を完結化するのに役立つ、…まだ全体主義化していない社会の…職業部門の…職業倫理を破壊するこの上ない道具となる。》(112)
- ・《精鋭組織の任務は外部世界に運動の危険性をはっきり示し…隊員に対しては共犯者とすることによって…運動に絶対的に縛りつけること》(115)
- ・《指導者側近の者たちは彼の個人的能力について何の幻想も抱いていない…が、…無条件の忠誠をいささかも変えはしない。…指導者の最高の任務は…運動の一員や幹部が行なった一切の活動…悪行に対して、全面的な責任を一身に引き受けること》(118)
- ・《指導者は、自分の部下に対する批判を許すことができない。…過ちを修正しようと望むなら、その執行にあたった者を抹殺してしまう以外に方法がない》(119)
- ・《全体主義の指導者は運動の内部にあっては過激派中の最高の過激論者となりながら、外部に対しては尊敬すべきナイーブな共感者といったふりをすることができる》(120)
- ・《全体主義政権が軍ではなく警察をもっとも信頼できる支柱とみ…るのは、陰謀的な秘密結社と…秘密警察との…本質的な類似性に起因している。》(128)
- ・《シンパサイザーは外部世界に対し、…嘘を…ある程度まで信じられそうに見せかけてくれるし、運動内の段階的なシニシズムは、指導者が…いかさまの紳士から正真正銘の紳士になってしまう危険を取り除いてくれる》《党員は…党外向けの公式発表を一切信じないが…あの包括的説明とイデオロギーのステロ版を固く信じている》(134)
- ・《全体主義の指導者は、…たとえ自分が殺そうと決めた当の相手からでも絶対的な献身を期待する。》《理由は、全体主義政権においては後継者問題が相続法その他の法によって規定されていないという点にある。…宮廷革命の成功が戦争での敗北と同じような破壊の結果を運動にもたらす可能性がある。》(138)

6) ☆第三章 全体的支配

- ・《全体的支配はまず第一に、権力掌握によって全体主義運動がその組織構造もそのイデオロギーも変えなかったこと、インタナショナルな運動から国境のなかでの政党への転換が行なわれなかったことを意味する。》(142)
- ・《永久革命…を単にスローガンとして受け取るならば、国家と運動…との矛盾、世界支配の野望と半分だけ正常な対外政策…との矛盾を全体的支配が解決するのに用いた技術を的確に言いあらわす言葉は…見つかるまい。…一方では…運動の擬制的世界を…日常生活全体を支配する確固たる現実として確立しなければならず、…他方…この新しい革命的世界が自分勝手に安定して日常となることを妨げねばならない。》(144-146)
- ・《全体的支配の逆説は、権力掌握ということと、一国内で国家機構と暴力とを占有しているということが、…有利である…と…同じ程度に危険でもあるということ》(146)

7) ☆1 国家機構

- ・《第三帝国の初期…ナチは…重要な官庁はすべて二つ設けて、同じ職務が一つは官吏によって、もう一つは党員によって執行されるようにすることに熱心だった》(154)
- 《この支配機構の特徴としては無構造化しかない》(158)
- ・《全体的支配機構の内部での運動の機動性は、指導部が真の権力中枢を絶えず移動し、別の組織に移し、しかもこうして権力を奪われた集団を解体…しなかったことから来て

いる》(160)

- 《(ソ連では)あらゆる業務部門にその独自の秘密警察部が付置され、…黨員もその他の職員も監視しなければならない…。…ほかに党自身は、秘密警察の探偵をも含めてすべてのものを監視する秘密調査部を保持する。この二つ…は隠密に活動するから、双方…とも相手…のことを全然知らない。…報告はすべて最後には、モスクワの中央委員会と政治局に行く。…権限を与えられるのは…党のスパイ機構かもしれないし、…地域当局かもしれない。》(165)
- 《同一の任務を与えられている各機関の競争は、支配者への反対やサボタージュをほとんど不可能にする。》(166)
- 《とかく全体主義を誤って専制政治の意味に解する…、ギャングもしくは徒党の政権であると…思いやすい。…個人の孤立化とアトム化が指導部の最上層にまで及ぶ》(171)
- 《(ナチスの末期)国防軍所属者の入党禁止は解かれ、…軍隊は事実上SS指揮官の隷下に置かれた。…国防軍軍人たちはますます大量虐殺に関与させられた。》(178)
- 《外国領土を占領した場合には…恣意的な立法が行なわれ、自国…法規が、すべての国に適用されうる法として公布された》(185)

8) ☆秘密警察の役割

- 《全体主義的な支配機構(ナチとボルシェビズム)…は、他のさまざまな独裁的、圧制的、専制的な暴力とは本質的に異なる。…一党独裁から発展してきたものではあるが、…真に全体主義的な特徴はそれまでになかったもので…、単一政党支配から導き出さるものではない。…全体主義運動は、はじめから国家と運動の本質的な相違を維持し、…国家機構と融合することなしにいかにして国家機構を掌握するかという問題を、…重要でない黨員だけを国家機構のなかに登用するというやり方で解決した。》(193)
- 《全体主義支配機構の権力中枢…唯一の機関は、秘密警察である。…目立つことはまず…軍に対する奇妙なまでの軽視である。…軍は一貫して警察機構に籍をおく官僚の命令権下に置かれ、…国防軍…は警察が配置した精鋭組織の下風に立たされる。》(195)
- 《全体主義特有のテロルと真の秘密警察支配は、…反対派が…存在しなくなったときにやっと始まる》(197)
- 《政権掌握以前から…展開していたイデオロギーに賛同するか否かによって敵味方を規定する…ことは、全体主義運動の本質である》(200)
《全体主義の警察は犯罪を摘発するという任務を持たない。いかなる犯罪が行なわれ、…誰がその時点で犯人…かを決めるのは最高指導者である。》(206)
- 《全体主義社会の昇進の仕方…。…スパイの昇進にしかみられなかったような原則…。すべての高級官僚が粛清のおかげで、…その地位をえている…。》(215)
- 《人が罰することのできるのは犯罪人で…、望ましからぬ者や生きる資格のない者は…地表から抹殺してしまう…。》(222) 《殺害が行なわれた、もしくは誰かが死んだことを教える屍体も墓もなかった。》(224)

9) 強制収容所

- 《強制収容所および絶滅収容所は全体的支配機構にとって、人間は全体的に支配されるものであるとする全体主義体制の主張が正しいかどうか実験される実験室》(230)
《科学的に厳密な条件のもとで人間の行動様式…自発性を排除し、…動物ですらないもに変える恐るべき実験》(231)
- 《強制収容所は決して全体主義運動の発明したものではない。…はじめて出現したのはブーア戦争のとき…、さらに南アフリカおよびインドで好ましからざる分子を収容するために利用された》(234)
- 《生き残りの報告はたくさんあるが…理解不可能だというアパシーに突き落とされてしまう。》(232) 《経験それ自体は陳腐なニヒリズムしか伝ええない…。そのもとはもはや人間が生きられえないような状態を打ち破ること…を戦争の必要を認める唯一の基

準と…すること》(237)

- 《強制収容所は…正規の刑執行とは別の枠に入れられ、被収容者は「刑法に触れる…」収容所に送られることはありえない。》(246)
強制収容所は、1)法的人格、2)道徳的人格、3)個性、を破壊し生きた屍を作り出す
《強制収容所は死そのもの…を無名とすることで、死…の意味を奪った。》(234)
《犯罪者、政治囚…ユダヤ人たちが収容所運営を大幅にゆだねられ、…自分たちの友人を死に送るか…知らない別の人間の虐殺に手を貸すかという解決不能の葛藤を味あわされた》(235)
- 《自然発生的な野獣性(SAの拷問)は、SSが収容所の運営にあたるようになってから次第々々に後退し、それに代わって人間の尊厳を破壊するために人間の肉体をきわめて冷徹に…計画的に…破壊する方法がとられた》(257)
- 《全体主義の運動の内部では、「死滅する」階級や寄生人種をや頽廃した民族を実際に死滅させることほど論理的な首尾一貫したことはない》(262)
- 《全体的支配は、通常の推論の…意味連関をことごとく破壊するいっぽう、超意味とでもいうべきものを作り上げる。》(263)
- 《全体主義…のなかでは利潤動機も権力渴望も決定的な役割を演じない。全体的支配は自己の領土を拡張し…最終的には地球全体の支配を遂げようと努力はするが、…もっぱらイデオロギー的理由から…フィクティブな全体主義世界を地球全体の上に打ち建てるためなのだ。》(264)

10) ☆第四章 イデオロギーとテロル ——新しい国家形式——

- 《当事者すべてが主観的には罪を感じないやり方で数百万人の殺戮を組織する…。死刑も無意味である。殺害者は決して人殺しの動機で行動しているわけではない。》(269)
→《責任を負うことができない》
- 《政治的には一国の政府はすべてその前任政府の行なったことについて責任を負う。…そのような引き継ぎなしには歴史の連続性…は決して存在しない…。われわれが知らず手もかさぬうちに人間が世界のどこかで犯した罪についても責任を引き受けねばならない。そうでなければ人類の統一性…は存在しまい。》(270)
- 《全体主義…の出現によってわれわれの政治学の範疇が粉碎された》(271)
- 《全体主義の法律は最初から…運動に内在する掟たることを定められている…。すべての法律が政令となってしまった》(273)
- 《全体主義の支配は歴史あるいは自然の過程を発進させその運動法則を人間社会のなかで貫徹させるためにテロルを必要とする。…テロル…は全体主義の支配の固有の本質》(276)

君主制～合法的統治/共和制～立憲的統治/専制～法なき支配/全体主義～テロル
《全体主義の支配の本質をなすものはそれ故、…あるがままの人間たちを無理やりテロルの籠のなかに押し込み、…行動の空間を消滅させてしまうことにある》(281)

- 《イデオロギー的思考は、いったんその前提…が確定すると、原則的にいかなる経験からも影響を受けないし、いかなる現実からの教訓も受け付けない》(288)

11) ☆エピローグ(英語版第四章 イデオロギーとテロル——新しい国家形式——)

- 《自分自身の実定法をも含めてあらゆる実定法を無視する全体主義の態度は、なんらの consensus iuris(合意による法の承認)なしにあらゆることをなしようと…信じており…無法と専断と恐怖の専制国家に陥ると…思っていないことを意味している》(304)
- 《ナチが自然の法則を、ボルシェビキが歴史の法則を語る時…、自然も歴史も…安定的な権威の源泉ではなく、…運動そのもの》(304)

法教育推進協議
会第5回/於・
法曹会館寿の間

社会における法の役割

2006. 4. 25
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』（以上、勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『正義・戦争・国家論』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房/ちくま文庫）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』（共著、朝日新聞社）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』（以上、PHP新書）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書）、『隣のチャイナ』（夏目書房）ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 法とは何か

- 1) 法は、強制力をもつ。
 - ・なぜ、強制力をもつのか 物理的実力だから？ 法は正しいから？
 - ・人びとが、法を正しいと思い、承認し、支持する ⇒強制力
- 2) 法は、ルールである。
 - ・人びとのふるまいは秩序（規則＝ルール）に従う 言葉/行為/…
 - ・契約：意識できるルール 意識できないルールもある
- 3) 法は、1次ルールと2次ルールの結合である。
 - ・ハート『法の概念』の定式 1次ルール⇒言及⇒2次ルール ルール～言語ゲーム
 - ・1次ルール：責務を課すルール 2次ルール：承認の…/裁定の…/変更のルール

□2□ 社会における法とは何か

- 1) 社会はルールでできている 社会＝Σ言語ゲーム＝Σルール
 - ・社会を生きる……ルールを身につけ、ルールに従って生きる
 - ・宗教法：ルールに従うことは宗教的義務 世俗法：ルールに従うことは人間の義務
- 2) 近代市民社会
 - ・すべての法は、根拠が明確で、合理的でなければならない 社会契約 憲法
 - ・根拠が明確で、合意にもとづく法を作り出す装置としての、議会

3) 学校は、ルールを学ぶ場

- ・学校……家庭から社会へ踏み出す、最初の一步 学校は、官僚機構なのか社会なのか
- ・学校のルールは、社会のルールと一致していることが望ましい cf校則
- ・法は自分を守ってくれる/法は必要/法は正義 といった感覚が身につくことが大切

□3□ 法教育はどうあるべきか

- 1) 知識でなく行動
 - ・法を身につける～法感覚を身につける～法にもとづいて行動する
 - ・法を意識し、法にもとづいて行動できることが、法教育
- 2) 生徒間紛争の解決
 - ・いじめ 持ち物を尊重/嫌なことを言ったり書いたりしない/勉強をじゃましない
 - ・ルール違反 ⇒象徴的制裁措置……居残り/軽作業/権利停止
 - ・盗難 生徒Aが「生徒Bが千円を返さない」と校長に直訴→校長は生徒Aに千円を返す→生徒Bは、校長に千円を返さざるをえなくなる(例)
 - ・学校のなかで、法が生きていた、という体験は貴重な財産
- 3) 法の役割演技
 - ・法が大事な役割を果たす場面を、実際に体験してみる(事前の予行演習)
 - 問題点……役割演技では、財産も生命も威信も、大切なものが賭けられていない

松下政経塾第27期生
哲学・宗教(1)

一神教とは何か

2006.6.8
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(ちくま文庫)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何か

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなもの 優れているから普及すると限らない
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒15億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
 - ・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

□2□ ユダヤ教

- 1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか
 - ・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を発明したか?
 - ・ヤハウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 ユダヤ民族にとって救済とは?
- 2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか
 - ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できる?
 - ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜)
- 3) 「予言者」「法学者」はどういう活動をするのか
 - ・予言者～神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…
 - ・パリサイ人～モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴーグは教会なのか?
 - ・ラビ～世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動

□3□ キリスト教

- 1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか
 - ・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの磔
 - ・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」
- 2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか
 - ・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?
 - ・人間は死んだらどうなるのか 誰が「神の国」に入る?
 - ・なぜキリスト教は政教分離か? 教会(法律を守る) 皇帝(信仰を守る)
- 3) なぜ、いくつも教会があるのか
 - ・東方教会(正教)～ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)～ローマ教皇
 - ・プロテスタント教会 ルターが免罪符の販売に抗議
カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
 - ・英国国教会(アングリカン・チャーチ)
 - ・イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)～反宗教改革

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

- 1) ムハンマドは、教祖なのか?
 - ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
 - ・カリフ(神の使徒の代理人):ムスリム共同体(ウンマ)の統治者
- 2) イスラム法は、合理的なシステム
 - ・法源:クルアーン/スンナ/イジュマ/キャース 上位の法源が優先
 - ・スンナ:ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)
 - ・イジュマ:法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
 - ・キャース:三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法
- 3) イスラム教は「原理主義」なのか
 - ・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制
 - ・救済:地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国
 - ・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

□5□ 聖書を読む

- 1) 創世記 Genesis
 - ・人間は、2通りに造られた 1.27 男と女の創造、2.21-23 男から女を創造
 - ・バベルの塔～言葉と民族の起源 11.1 同じ言葉 11.7 言葉をばらばらにする
 - ・神の言動はときに矛盾する 17.16 神の祝福 22.2 神はイサクの犠牲を命じる
- 2) 出エジプト記 Exodus
 - ・神には名前がない 3.6 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神
 - ・十戒 Ten Commandments 20.1-17 20.16 偽証してはならない(法廷での規範)
 - ・人道的律法 22.20-26 寄留者、寡婦、孤児、貧窮者の保護規定
 - ・偶像崇拜 32.1-6 金の子牛を造る 32.10 神は絶滅を決意し翻意 32.28 三千人を殺害
- 3) 新約聖書
 - ・イエスの系図 ㉗1.1-17 ダビデの子 ㉗ 出生の記事なし ㉗1.18 独り子の神
 - ・悪魔の誘惑 ㉗4.1-11 →参考「日本人はなぜ論争が下手なのか」

蔵前工業会八
王子支部@八
王子Eメール 4 F

中国がアメリカを追い抜く日

—— 胡錦濤-温家宝政権の発展戦略 ——

2006. 6. 10
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣りのチャイナ』(夏目書房)ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ チャイナ原論

- 1) 文明としての中国/ローカル文化としての日本
 - ・中国は、古代に成立した「中華共同体」(CU)である Cf EU
 - ・中国の方言は、互に通じない 広東語/北京語/上海語=英語/ドイツ語/仏語…
 - ・表意文字である漢字が、中国を統一 中国語は人工言語(数・変化・時制などなし)
- 2) 中国社会の基本構造
 - ・上部に官僚組織 貴族/地主/読書人/軍人/宦官 →読書人が勝ち残る(皇帝専制)
 - ・下部に地方組織 宗族(父系血縁集団・同姓) 承包(丸投げ)の体制
 - ・数百年に一度、政治的混乱⇒王朝の交代 所有権の否定 セキュリティとしての親族
- 3) 儒教の本質
 - ・差別道徳:重要な人間関係を選別、集団における権力と正統性の所在を明示
 - ・君主に服従(忠/義)~官僚機構 年長者に服従(孝/長幼の序)~宗族
 - ・忠と孝では孝が優先 君主が暴君なら討伐してよい(湯武放伐論)~孟子の革命説
- 4) 中華人民共和国とは何か
 - ・毛沢東の革命 農民を主体に、地主を打倒:伝統的革命 農本主義的ユートピア
 - ・共産党の官僚組織は、伝統的なものよりも、社会の下部に達している:「単位」制度
 - ・社会主義市場経済……資本主義×一党独裁 歴史的概念としては「ファシズム」

□2□ 深化する改革開放 —— 胡錦濤-温家宝政権の課題

*この内容は、胡鞍鋼 Hu AnGang『影響決策的国情報告』『新発展観』をもとに、最近出版した『隣りのチャイナ 橋爪大三郎の中国論』(2005.11、夏目書房)に基づきます。

1) 経済成長

- ・1978年から年率9%の成長が続く 実質で日本を追い抜き、アメリカに追いつく勢い
- ・ボトルネック要因…失業や貧困/腐敗/伝染病/水資源/資源価格/金融/海外投資/台湾問題など政治的緊張 ジニ係数は80年代初の0.28→1999年の0.44に急上昇

2) 失業問題

- ・1993~1997年のレイオフ累計は1200万人、失業率は7% 国有企業整理の峠は越えた
- ・東北三省(遼寧省、吉林省、黒竜江省)と中西部では、国有企業の比重が高く失業深刻
- ・全人代:2003年に800万の職場創出 労働集約産業/中小企業/非公有/非正規就業
- ・給与年金の遅配欠配 全労働者の六分の一 国有企業が退職者の生活を支え負担が大

3) 農村問題

- ・戸口(戸籍)制度:農村から都市への移動制限(1958年から厳格に適用)
- ・農民工:累計1億人 農村非農業人口1億7千万人 改革開放で2.4億人が都市へ
- ・三農問題(農業、農村、農民) 農産物価格の40%下落(1997-2000) 1777投資の遅れ

4) 地域格差問題 「一個中国、四個世界」

- ・北京・上海(2.7%)/天津、浙江省…(21.8%)/山東省…(27.8%)/四川省…(50.6%)
- ・貧困人口は20% 「小康社会」:十六大の重点目標に 富裕/小康/温飽/貧困
- ・先富論⇒共同富裕論 西部大開発 ひとつの大切、五つの優先 富民為本=雇用確保/社会保障改革/社会の安定/分配の公平/都市の低所得層の利益、を優先する

5) 腐敗問題

- ・「官倒爺」(官僚の横流し)→許認可をめぐる不正→「壟断」(官僚主導の寡占独占)
- ・腐敗による経済損失はGDPの13~16% 汚職/関税逃れ/壟断(電気代など)/税の未納/税の無駄/公共投資の損失/国外逃亡資金/違法な徴収/金融の損失
- ・電力改革:政企分離/廠網分解/全国ネット 鉄道改革 電信改革 航空改革

6) 環境問題

- ・土壌流出(国土の38%)/荒地拡大/森林赤字/砂漠化(草原の1/3が消滅)/大気汚染と酸性雨/水質汚染 原因…人口増加+都市化+経済成長+貧困

7) 政治指導者

- ・鄧小平が終身制を廃止 江沢民が定年制・任期制を採用 →幹部の交代が予測可能に
- ・若返り 十二大73.8歳→十三大63.6歳 高学歴化 十二大10.3年→十五大15.9年
- ・閣僚級幹部のうち、85%が、省級幹部経験者 ただし地域に偏りがある

8) 国際関係

- ・2020年、中国は強盛期に 経済的実力+総合的国力+生活水準 党と大衆の結合
- ・中国はアメリカとの友好関係を必要とするが、すでにアメリカと戦略的対抗関係に

9) 政治改革と民主化

- ・「人民内部の矛盾」「人民大衆を敵とみなすのは誤り」(劉少奇)
- ・中国建国以来の誤り 1)階級闘争を優先 2)性急な経済建設 3)人口政策の失敗 ~毛
- ・2002年十六大報告:意思決定の科学化・民主化を進めよう

□3□ 世界のなかの日中関係

1) 21世紀前半は米中関係が基軸

- ・アメリカ~新大陸/中国~旧大陸 対照的で相互補完的 アメリカの中国封じ込め
- ・日米関係、日中関係は、米中関係の従属変数 日本の対米、対中戦略を構想すべき

2) 「歴史問題」は、東アジアの主導権問題だ

- ・中国反日デモの背景…党の黙認/党の統制/対日問題(安保理拡大、MD)
- ・中国、韓国は戦勝国でない~戦後処理に主導権を握れず~国際法の後出しジャンケン
- ・中国は靖国神社がうらやましいのでは 人民英雄記念碑 地方での追悼は禁止

3) 台湾問題

- ・国民党主席の直接選挙(2005.7)…台湾民主化の完成 ⇒共産党になぜできない?
- ・アメリカは台湾を防衛⇒日本も同調⇒中国は対米衝突を避けたいので、むしろ助かる

4) 長期的な対中戦略を

- ・地域的な重心は中国に傾く+韓国・朝鮮 アメリカは牽制してインド、日本にテコ入れ
- ・中国とアメリカが握手しても、喧嘩しても、日本は割りを喰う ⇒その中間に活路

松下政経塾第27期生
哲学・宗教(2)

仏教と儒教

2006. 6. 15
橋爪大三郎
(東京工業大)

□6□ 仏教

1) 初期仏教

- ・法前仏後 (cf 神前法後) 法~dharma → 覚り → 仏陀 (覚者) Bhudda
- ・釈尊 (釈迦牟尼世尊) 修行→中道 三(四)諦・八正道 無常 苦 × 輪廻 × 靈魂
- ・サンガ (僧伽) 羯磨 和合 戒律~波羅提木叉 授戒 阿含經 仏典結集
- ・經・律・論 三歸依 (仏・法・僧=三宝) 阿毘達磨
- ・部派仏教 仏像 仏塔信仰 (卒塔婆) 上座部 (南伝) / 大衆部 × 小乗

2) 大乘仏教

- ・大乘非仏説論 (富永仲基) 般若經→浄土經・法華經→華嚴經 大乘教仏塔信仰起源説
- ・菩薩 歴劫成仏 過去仏 現在多仏 (阿弥陀仏、阿閼仏、…) 極楽往生

3) 密教

- ・大日經~胎藏界曼荼羅 金剛頂經~金剛界曼荼羅 即身成仏 真言陀羅尼

□7□ 中国と日本の仏教

1) 天台宗

- ・漢訳仏典 教相判釈 天台の五時教判 禪宗~達磨大師 大乘戒

2) 禪宗

- ・達磨大師 戒律を否定→清規 只管打坐 不立文字 公案

3) 浄土宗・浄土真宗

- ・法蔵菩薩の四十八願 阿弥陀三尊 専修念仏 親鸞~非僧非俗 悪人正機説

4) 日蓮宗

- ・法華專持 (天台の五時教判の拡大解釈) 日本~仏国土 cf 仏教原理主義
- ・日蓮正宗 日蓮=本仏 (釈迦仏と同格) 仏典+御書 板曼荼羅=本尊 → 創価学会

Q オウム真理教は、仏教なのか?

□8□ 儒教

1) 孔子

- ・經・論・疏 十三經 礼=政治制度 徳治主義 士・大夫 王道/覇道
- ・官僚制原理~義 (忠) vs 親族原理~孝 孝は絶対的だが、忠は条件つき

2) 孟子

- ・湯武放伐論 君主が暴君の場合、反逆は許される→易姓革命 文武両道

3) 朱子学

- ・太極→理・氣→五行→万物化生 読書人 (正気を多く受けるひと) → 科挙 → 官僚
- ・正統論 南宋 (正統王朝) が元 (夷狄) に圧倒される 朱子は抗戦派

□9□ 日本儒学と国学

1) 日本儒学

- ・山崎闇斎 仏教→儒学→神道 幕府の正統性を否定 ⇒ 浅見綱斎 『靖献遺言』
- ・伊藤仁斎 朱子の注釈を批判 孔子の原義に戻る ⇒ 荻生徂徠

2) 国学

- ・賀茂真淵 ⇒ 本居宣長 『古事記伝』: 古代日本語の復元 ⇒ 平田篤胤
- ・水戸学 『大日本史』 南北朝正閏論争、武家政権論争 ~ 『神皇正統記』

3) 日本は儒教社会なのか

- ・儒教... 官僚の行動マニュアル 父系社会 (年長者絶対) + 官僚制 (君主絶対)
- ・日本的儒学 忠孝一如 (父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒ 天皇制、日本株式会社

□10□ 神道

1) 神と仏を、同時に拝むことができるか?

- ・仏教... 哲学的合理主義... 世界の实在を否定 × 自己 × 靈魂 × 先祖崇拜 × 葬儀
- ・本地垂迹説: 仏陀の神々 法華經の本仏思想がヒント
- ・切支丹弾圧 → 宗門人別帳 → 仏壇・位牌・葬式仏教

2) 「英霊」は神道の考えなのか

- ・垂加神道 (山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神の子孫
- ・平田神道 (平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 → 霊は現世に实在 ~ キリスト教
- ・「国事殉難者」を祭祀する儀礼: 招魂社 (臨時) → 靖国神社 (常設) 英霊共同体
- ・国家神道: 天皇を現人神とする儀礼 「神道は宗教にあらず」: 1945までの公式見解

3) 政教分離とは何か

- ・もともと、宗教は強力なので、政治に干渉してはならない、という意味だった。
⇒ 政治は強力なので、宗教に干渉してはならない、という意味になった。
- ・文化財としての神社仏閣に対する援助? 宗教教育をする私立学校に対する助成?
公共建築や土木工事の儀礼 (地鎮祭など)? 閣僚が「公式参拝」をすること

○参考図書

- 中村元 1980 『ナーガールジュナ』 講談社 → 2002 『龍樹』 (改題) 講談社学術文庫
- 山本七平 1983 『現人神の創作者たち』 文藝春秋 → 1997 山本七平ライブラリー-12
- 菅野覚明 2001 『神道の逆襲』 講談社現代新書

□ 第三部 キリスト教のコモンウェルスについて □

第32章 キリスト教の政治学の諸原理について

○聖書と理性が、政治学の主要原理になる。

神の言葉 → 預言者 (奇蹟・教義) ⇒ 聖書 → 理性による推論 ⇒ 政治学の原理

第33章 聖書の諸篇の数、ふるさ、意図、権威、および解釈者たちについて

○聖書は、神の言葉であり、神の法である。

《各国民において、主権的権威によって、正典的なものとして確立されている諸篇だけが正典であり、すなわち法》である (35/248) ○政府が正典と認めたものが聖書。

《モーシェの五篇とよばれるからといって、…それらがモーシェによってかかれたという十分な論拠ではない。》(37/249)

《旧約の全聖書が…公表されたのは、ユダヤ人がバビロンにおける…捕囚からかえったのち、そして、プトレマイオス・フィラデルフスの時代よりまえであった》(44/253) 《それらが、自然理性を使用しうるすべての人びとがよむことのできる、神の法であり、権威をそなえたものであることは、うたがない。》(49/256) ~トマ・アキナスの説と一致
⇒○政治的主権者は、神のもとで絶対なのか、それとも、普遍的教会に従属するのか？

第34章 聖書の諸篇における、霊、天使、および靈感の意義について

○天使や霊は実在しない。

聖書にいう「霊」とは、《風あるいは息》《理解力》《愛着》《予言の才能》《生命》《権威への従属》《空気のような物体》のこと。(59-64/259-263)

《天使たちの創造については、聖書のなかになにもべられていない。》(65/263) 《天使は、神の特別で異常な作用によって発生させられた、幻影による超自然的な現出にはかならない》(72/266)

第35章 聖書における、神の王国、神聖な、神にささげられた、および聖礼の意味について

○神の王国は、現実の王国である。

《神の王国は、…神がなんらかの主体 (臣下) たちのうえに、かれら自身の同意によって獲得した、神の君主政治すなわち主権のこと》(78/268)

《神の王国》は《聖書のたいていの場所で、イスラエルの人民の特定のやり方による投票で設立された、王国と名づけられるのが正当なものを、意味する》(78/268)

《神の王国は、現実的な王国であって、比喩的な王国ではない。》(85/272)

アダムを統治 → アブラハムと契約を結び統治 → モーシェによる契約の更新 (《神が王であって祭司長が…副王あるいは代理人たるべき王国》) (83/271) → サウルを王に選び、神の王国を投げ捨てた → キリストが神の王国を復興する

第36章 神のことばについて、および予言者たちについて

○予言者は神のことばを伝える。だが、主権者がいれば、予言者よりも上である。

《いつわりの予言者のほうがほんとうの予言者よりもずっと数が多い》(114/287f) 《主権者が根拠があると思うに依りて彼ら (予言をする者) を支持するか禁止するかを、主権者にゆだねるべきである。》(117/289)

予言者の真偽を人びとが判断する規準: ①モーシェの教義と一致、②奇蹟

第37章 諸奇蹟とそれらの効用について

○奇蹟については、教会の首長に聞け

《神の人民の主権的統治者、つまり教会の首長が、…われわれが自称奇蹟あるいは自称予言者を信用するまえに…助言を求めるとき相手なのである。》(132/295)

《自己の私的な理性または良心を判定者とすべきではなくて、公共の理性、つまり神の至高の代理人の理性を、判定者とするべき》(133/296)

第38章 聖書における、永遠の生命、地獄、救済、来世、および贖罪の意味について

○地獄は永遠の責め苦である (第二の死、ではない)。

《主権者以外の誰かが、生命より大きな報酬を与え、死より大きな処罰を課す権力をもつところでは、コモンウェルスが存在することは不可能である。》(135/297)

《イエス・キリストは…すべての信者に対して、アダムの子によって失われた永遠の生命を回復した》→ 《すべての人は地上において生活させられるであろう。》(136f/297f)

→ 《それは、モーシェのもとに設立された神の王国の、復活》(138/298) 《天使たちのあいだにおいて結婚や生殖がないのとおなじく、そこには生殖がないであろうし、…結婚がない》(139/299)

《神の国は、政治的コモンウェルス Civil Commonwealth であって、そこでは神自身が…主権者なのであり、…彼の代表人または代理人によって支配する》(143/301)

《復活ののちの神の王国が地上にあるならば、敵と彼の王国もまた、地上にあるに違いない。…サタンによって意味されるのは、教会の地上におけるあらゆる敵なのである。》(150/304) cf 第35章 ○地獄や悪魔は、実体として存在するわけではない。

《聖書のなかには、三つの世界があげられている。「ふるい世界」「現在の世界」「来るべき世界」である。》(159/309)

第一の世界 (古い世界) ……アダムからノアの洪水まで

現在の世界 (この世界) cf 「王国はこの世界のものではない」ヨハ18.36(159/309)

来るべき世界……イエス・キリストが天から再臨して支配する地上の世界

第39章 聖書における教会という語の意味について

○政治的主権者の許可のない教会は、不法である。

《私は教会をつぎのように定義する。キリスト教の信仰を告白する人びとの集まりで、ひとりの主権者の人格において結合しており、その命令によって集会をもつべきで、その権威なしに集会をもつことができないもの。》(166/312)

《地上には、すべてのキリスト教徒が服従しなければならぬような、普遍的教会は存在しない。》(166/312)

《教会は、キリスト教徒たる人びとからなる政治的コモンウェルスと同一物であって、その主体が人間であるために政治国家 Civill State とよばれ、その主体がキリスト教徒で

あるために教会とよばれる。》(167/312)

第40章 アブラハム、モーシェ、祭司長たち、およびユダヤ人の王たちにおける、神の王国の諸権利について

○ユダヤ人の共同体の歴史。誰が主権者であったか。

《神が直接に語らなかった人びとは、神の実体的な諸命令を、かれらの主権者からうけとるべき》である(170/314)

《神の代行者がモーシェ自身の時代にはモーシェだったのであり、その職務の継承は、アロンと、かれののちにはその世つぎたちに、さだめられて、神にとって永久に祭司の王国たるべきものとされた。この設立 constitution により、ひとつの王国が神の手に入った。…彼(モーシェ)の権威は、他のすべての王侯の権威のように、人民の同意 consent と、かれに服従するというかれらの約束 promise とにもとづかなければならない。》(172 f/314f)

《サウルのときまで祭司長が、最高権威をもっていた…。…政治的および教会的権力は、ともに、一にして二ならぬ人格、すなわち祭司長において、結合されていた》(178/318)

祭司長=主権者 →サウル王の即位：祭司長は王権のもとにおかれる →捕囚

第41章 われわれの祝福された救世主の職務について

○キリストの三つの職務。キリストが王であるのは、審判のその日の後である。

三つの職務：贖罪者(救済者)／牧者(教師、予言者)／王(永遠の王)

《われわれの救世主は、…かれが地上で肉体化していた期間には、…人びとの王ではなかったことは明らかである。…キリストの王国は、普遍的復活までは、はじまらないはずである。》(190f/323f)

第42章 教会権力について

○教会に統治権はなく、人びとの服従を要求できない。

《教会権力は、使徒たちにあった…。…これらの人びとののちには、その権力はふたたび…他の人びとに、伝達された。》(202/329)

ベラルミーノ枢機卿：ローマ法王の教会権力は、主権的であり強制的である。

《キリストの王国はこの世のものでない…。したがって彼らの代行者たちも(かれらが王でない限り)、彼の名において服従を要求することはできない。》(207/332) 《キリストは、この世における彼の代行者たちには、彼らが政治的権威をも付与されたのではない限り、他の人びとを支配するいかなる権威をもゆだねなかった。》(211/334)

《地上的主権者の権威は、審判の日までは倒されない》(219/338)

《破門は、…ユダヤ人の慣習からひきだされた語で…。破門の効用と効果は…破門されなかった人びとは、破門された人びとと交際するのを避けるべきだ、ということ以上ではなかった。》(223f/341) 《すべての場所はとうぜん、コモンウェルスの領土内にあるの

だから、破門されたものも、かつて洗礼されたことのないものも、同様に、市民的為政者 Civil Magistrates からの委任によって、それらの場所(合議の場)に入ってよかつたのである。》(225/341) 《意見のちがいのために、破門することについては、聖書のなかになんの権威もみあたらず、使徒のなかになんの実例もみあたらない。》(227/342) 《ひとつの教会が他の教会によって破門されるということはありません》(229/343) 《主権者たる王侯または合議体が破門されるとすると、その判決文は何の効果もない。》(229/344)

《(旧約聖書の)諸篇は、主権者の政治権力によってでなければ、けっして法とはされなかつたことは、明白である。》(242/351)

《新約は、キリスト教徒である主権者たちのもとで、はじめて規範的になった。》(242/351)

《内面の信仰は、それ自身の本性において、みえないものであり、したがって、あらゆる人間的な裁判権から除外されている》(244/352)

《コモンウェルスがキリスト教の信仰を奉じたときまでは、どの教会のなかにも、強制する権威はありえなかつた。》(255/357)

《どんな諸教義が平和にふさわしく、臣下に教えられるにふさわしいかを、審判する権利は、すべてのコモンウェルスにおいて、主権者の政治権力により不可分に結びついている》(268/364f)

《キリスト教徒たる王たちはいぜんとして、かれらの人民の最高牧者なのであり、教会に教えるため…かれらの好むままに牧者たちを叙任する権力をもつ》(269/365)

《最高の牧者をのぞくすべての牧者は、政治的主権者の権利において、すなわち彼の権威によって、すなわち政治的権利によって、…責務を執行する。だが、王および他のすべての主権者は、最高の牧者という彼の責務を、神からの直接の権威によって…執行する。》(272/367)

《かれら(政治的主権者)は、宗教のことがらに関する彼らの臣下の統治を、法王にゆだねてもいいのだが、その場合には、法王は、その点ではかれらに従属し、他人の領土でその付託を、政治的権利によって、すなわち政治的主権者の権利において、実行するのであり、神的権利によって、すなわち神の権利においてではないのである。それだから、主権者が、かれの臣下たちの利益のために必要だとおもうならば、法王はその職務を解除される》(280/371)

・以下、枢機卿ベラルミーノの最高の司教についての諸篇の考察

《ある国王が政治権力を持ち、法王が霊的権力をもつとして、だからその王は、…法王に従うように拘束される、ということはおこらない。》(319/391f)

《法王はキリストの唯一の代理であったにしても、かれはかれの統治を、われわれの救世主の再来まで、行使することができない》(320/392)

《霊的コモンウェルスは、この世にひとつも存在しない。それはキリストの王国と同じものだから》(323/394)

第43条 人が天の王国に受容されるために必要なものごとについて

○神の法とコモンウェルスの法は矛盾しない。
《キリスト教の諸コモンウェルスの…内乱の…口実は、…神と人間の命令が対立する場合に、双方に同時に服従することが困難だということだった。…ひとがふたつの相反する命令を受け、そのひとつが神の命令だとわかっていれば、それに服従すべきで、他方が合法的な主権者の命令であっても、…それに服従すべきでないのは十分に明白である。》(337/398)

○煉獄があるという証拠はない。(353/406f)
《神の法とコモンウェルスの法とのあいだには、矛盾はありえない》(360/410)

□ 第四部 暗黒の王国 □

第44章 聖書のまちがった解釈からくる霊的暗黒について
○人間の魂や靈魂といったものは存在しない。
霊的暗黒の四つの原因……1) 聖書を知らない、2) 異教徒の魔物学、3) アリストテレスのまちがった哲学、4) 虚偽の伝説・虚構の歴史

《聖書の最大かつ主要な悪用は、…神の王国が、現在の教会のことであるとか、…ということを実証するために、聖書をねじまげることである。》(20/413)
⇒《キリスト教徒たる王は、その冠を司教によってうけることが必要だ…、…法王に対する絶対的服従の誓をたてるのだ、という》(22/414) 《レヴィ人に支払われた十分の一税…が、…教会人によって…要求され、キリスト教徒からとられてきた》(23/415)
⇒《現在の教会が神の王国であるという、この同じ誤解から、市民法と教会法との区別が生じた。》《同じことから、どのキリスト教国家においても、…政治国家の諸貢納と諸法廷を免除される、一定の人びとがいることになる。》(25/415f)

《もうひとつの一般的な誤謬は、永遠の生、永劫の死、および第二の死という語のあやまった解釈からくる》(29f/418)
⇒《すべての人は、彼の魂が不死なのであるから、本性上、生命の永遠性をもつというのである。》(30/419)
《聖書のなかの魂は、つねに生命か生命ある被造物をあらわし、肉体と魂はいっしょになって、生きている肉体をあらわす。》(31/419)
⇒《贖宥の教義とは、…一時的にあるいは永久に煉獄の火からまぬかれるという教義であり、その火のなかで、これらの無形の実体が、やかれることによって、きよめられて天国にふさわしいものとされるのだと、称せられる》(32f/420)

第45章 魔物学およびその他の異邦人の宗教の遺物について
○ローマの儀礼の混入が多い。
《現在ローマの教会のなかで行なわれている、諸聖人、諸映像、諸遺跡の崇拜…は、…神の語によって許されていないし、…異邦人たちの最初の改宗に際して、そのなかに残され

たのであり、…ローマの司教たちによって、奨励され…たのだ》(90/447)
《聖者たちの叙列は、異邦人の流儀の…遺物、…ローマのコモンウェルスそのものとともに古い、慣習なのである。》(95/449)
《法王たちが最高祭司長の名称と権力を受け取ったのも、ローマの異教徒からである。》(95/449f)
《行列をつくって諸映像を運びまわすことは、ギリシャ人およびローマ人の、もうひとつの遺物である。》(96f/450)

第46章 空虚な哲学および架空のいつたえから生じた暗黒について
○ギリシャ哲学が有害なのは、靈魂が実在するという考えを導くからである。
《私の信じるところでは、自然哲学において、今日アリストテレス形而上学とよばれているもの以上に背理的なことを、…政治学において言ったことの多くよりも、統治に反することを、…かれの倫理学の大部分よりも無知なことを、…言うことはできない。》(111/455)
《聖書とまぜあわされてスコラ神学をつくることになった、かれらの形而上学から、われわれは、この世には諸物体から分離されたある諸本質が存在する、ということを知られる》(114/456)
《アリストテレスの政治学から、かれらは、民衆的以外のすべてのやりかたのコモンウェルスを、圧政とよぶことを学んだ。》(128/464)

第47章 そのような暗黒からでる利得について、およびそれが誰に帰属するか
○キリスト教会は、根拠のない教義によって、権力と経済的利益を手に入れている。
ローマ皇帝 ⇒最高祭司長(政治国家に臣従する役人)の称号 ⇒聖ペテロの権利
「教会が神の王国」と主張
暗黒とはたとえば……法王の無謬/司教は法王に臣従/聖職者の免税/聖なる称号/結婚は聖礼である/祭司の独身/告白/列聖/贖罪/煉獄/魔よけ/スコラ神学

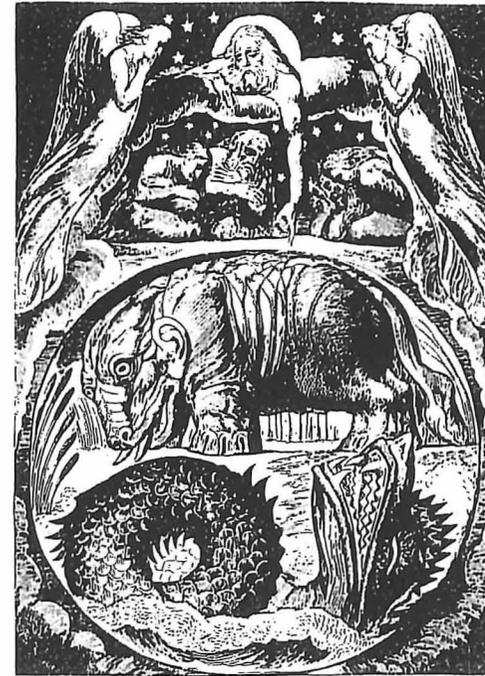
《法王制が死滅したローマ帝国の幽霊で、その墓のうえに冠をいだいてすわっているものにほかならない》(150/473f)

□ 総括と結論 □

《結論すれば、この全論究のなかに…、私が考えうるかぎり、神の語にも善良な風俗にも反するものはなく、公共の平穩をみだすものもない。したがって、私は、それが印刷されるのが有益であるだろうと思うし、…諸大学で教えられるのがもっと有益であろうと思う》(171/483)

コメント

- ホップズの論証は、聖書の引用と聖書研究の成果にもとづいており、論理的かつ合理的なものである。
 - 合理的とは、魂、煉獄、天使、聖人崇拜、法王無謬性といった、ローマ教会が持ち込んだ非合理的な要素をすべて払拭していることをいう。
 - ホップズは、彼の政治学が、現にキリスト教の信仰をもつすべての西欧社会の人びとに受け容れられることを望んだ。
 - ホップズのキリスト教理解は、プロテスタント神学を下敷きにしている。
 - ホップズがアリストテレス哲学を嫌うのは、それがスコラ哲学を基礎づけ、靈魂の存在を支持するからである。
-
- 『リヴァイアサン』の後半は、ある信仰や信念、イデオロギーをもつ人びとの集団（教会や党）と、政治的国家との関係について論じている。
 - たとえ、超越的な信念やイデオロギーが支配的である社会でも、政治的国家（主権）がその信念をもつ集団に優越すべきであることの論証が、主張の眼目である。
 - ホップズの政治学は、近代西欧的な政教分離の規準となった。
-
- 20世紀は、ファシズム、マルクス主義国家によって、近代政治の原則が否定されたことを軸に展開した。
 - イスラム世界の政治問題は、ホップズ的問題関心のなかで解かれるべき問題である。
 - 現代の中国は、資本主義の自由経済と、イデオロギー党派の単一支配の組み合わせであり、歴史的な概念としては、ファシズムに該当する。
 - 中国は、党と国家の優劣関係をめぐって複雑な様相を示しており、ホップズの考察が密接に関連する。
-
- ホップズの権力の一般理論（『リヴァイアサン』前半）は、後半の教会論と照応してはじめて、具体的現実的な内容をもつ。
 - ホップズは国教会の洗礼を受けているが、キリスト教を文字通り信仰していることかは疑問。むしろ自らの政治学者としての信念に従ってとった態度ではないか。
 - ホップズの教会論は、キリスト教の信仰を「人びとの信念一般」に置き換えた場合に、その今日的意味が明らかになる。



ベヘモットとレビヤタン。ブレイク画。

15 とくと見よ、ベヘモットを、わたしがあなたと共に造ったもの、

25 あなたはレビヤタンを魚鉤で引きずり出せるか、網でその舌を押さえることができるか、

26 紐でその鼻を押さえ、その顎に棘の木を突き通せるか。

二 神は野生動物を圧倒する原始の怪物ベヘモットを第二回弁論のはじめに登場させる。ベヘモットおよび本章後半で登場するレビヤタンは、オリエントからシリア・パレスティナ、エジプトの神話に共通するカオス（混沌）の勢力をヨブ記作者がここの叙述にふさわしい形に具象化した怪物である。ベヘモットはナイル河の河馬を、レビヤタンはナイル鱈を下敷きしているが、それらをそのままモデルとしてはいない。後者には竜の要素も加わっている。多神教的世界の神話に特色的な神と竜などのカオスの勢力との闘争神話は旧約聖書においても痕跡を残している（イザヤ1、五9、詩篇13、14、六11他）が、一神教的な神観に徹するヨブ記においては原初の闘争はまったく認められず（詩篇一〇四章も同様）、ベヘモットもレビヤタンも神の創造物であると主張され、彼らはカオスをもたらす力を発揮しないように、神によって管理されている。「ベヘモット」は「ベヘマー」（家畜）の複数形で、力の卓越した動物であることを示す。この語はヨブ記以外には見られず、ヨブ記作者の造語であろう。彼の存在は三アで予告されていた。

THE INTRODUCTION

NATURE (the Art whereby God hath made and governes the World) is by the Art of man, as in many other things, so in this also imitated, that it can make an Artificial Animal. For seeing life is but a motion of Limbs, the begining whereof is in some principall part within; why may we not say, that all Automata (Engines that move themselves by springs and wheelles as doth a watch) have an artificiall life? For what is the Heart, but a Spring; and the Nerves, but so many Strings; and the Joynts, but so many Wheelles, giving motion to the whole Body, such as was intended by the Artificer? Art goes yet further, imitating that Rationall and most excellent worke of Nature, Man. For by Art is created that great LEVIATHAN called a COMMON-WEALTH, or STATE, (in latine CIVITAS) which is but an Artificiall Man; though of greater stature and strength than the Naturall, for whose protection and defence it was intended; and in which, the Sovereignty is an Artificiall Soul, as giving life and motion to the whole body; The Magistrates, and other Officers of Judicature and Execution, artificiall Joynts; Reward and Punishment (by which fastned to the seate of the Sovereignty, every joynt and member is moved to performe his duty) are the Nerves, that do the same in the Body Naturall; The Wealth and Riches of all the particular members, are the Strength; Salus Populi (the peoples safety) its Businesse; Counsellors, by whom all things needfull for it to know, are suggested unto it, are the Memory; Equity and Lawes, an artificiall Reason and Will; Concord, Health; Sedition, Sicknesse; and Civill war, Death. Lastly, the Pacts and Covenants, by which the parts of this Body Politique were at first made, set together, and united, resemble that Fiat, or the Let us make man, pronounced by God in the Creation.

[2] To describe the Nature of this Artificiall man, I will consider

First, the Matter thereof, and the Artificer; both which is Man.
Secondly, How, and by what Covenants it is made; what are the Rights and just Power or Authority of a Sovereigne; and what it is that preserveth and dissolveth it.
Thirdly, what is a Christian Common-wealth.
Lastly, what is the Kingdome of Darkness.

com-mon-wealth [kómənweðl̩, kóm-] n. 1 (C-) 連邦, 連合体: the (British) C- (of Nations) 英連邦 / the C- of Australia オーストラリア連邦. 2 (the C-) コモンウェルス: Puerto Rico の公式名. 3 (C-) 州: 米州 Kentucky, Massachusetts, Pennsylvania, Virginia の4州の公式名. 4 (共通の利害関係を持つ) 団体, 社会: the ~ of science 科学界. 5 民主国家, 共和制: 集合的 (その成員としての) 国民. 6 (the C-) 英史: 自由共和国 (the Commonwealth of England): 1649-53 (or 60) 年の英国政体.

stat-ure [stætʃər] n. ① (動物, 特に人の) 身長, せい, だけ: (まれ) (物の) 高さ (height): a man of ordinary (tall, middle, small) ~ 普通の背丈の [背の高い, 中背の, 背の低い] 人 / The ostrich attains a ~ of eight feet. タチウは身長8フィートに達する. ② (心から) 道徳性などの 発達 (程度), 成長 (度), 進歩: 才能: 達成 (の水準): a statesman of great ~ 高徳の政治家 / moral ~ 道徳の水準.

sov-er-eign-ty [sɒvərɪn'ti] n. (pl. -ties) ① 君主であること (の身分). ② 主権, 統治権. ③ ④ 独立国, ...

mag-is-trate [mædʒɪ'strɪt, -rət] n. ① (法の執行を職務とする) 行政官, 執政官; the chief (or the first) ~ 行政長官; 大統領; 国王; 元首; 知事; 市長. ② 下級司法官, 下級判事: 裁判官などを数く; 治安判事などの下.

judi-ca-ture [dʒʊdʒə'keɪʃən] n. ① 司法政; 司法 (権), 裁判権; 裁判官職権. ② (集合的) 裁判. 司法当局: the Supreme Court of J- (英国) 最高法院.

ex-ec-u-tion [ek-səkju:ʃən] n. ① 実行, 実施, 遂行; 達成, 成金; (芸術作品などの) 制作, 演奏; そのできばえ: put (or carry) a plan into ~ 計画を実行する / the ~ of a bust 彫像の制作 / The conductor's ~ was excellent. 指揮者の導きは最高だった. ② (判決・命令・遺言などの) 執行, 実施: the ~ of the sentence 判決の執行. ③ (法) 強制執行 (合状); (肉) 刑・遺言執事などの作成; 履行. ④ ⑤ 死刑執行, 処刑: a place of ~ 処刑場. do execution (殺戮的) 威力を発揮する; (ある) 効果 [作用] を及ぼす: A nuclear bomb does greater ~. 核弾頭はものすごい威力を示す.

mem-ber [mémbr] n. ① (集団) の一員, 会員, 社員, 団員 (▷ 形容詞的に用いることも多い); (特に米・英の) 下院議員 (米) Member of Congress, (英) Member of Parliament; (一般に) 議員: a ~ of the family [a club] 家畜 [クラブ] の一員 / a church ~ 教会員 / the ~ nations of the United Nations [国際連合加盟国]. ② (人・動物) からのもので, 一器官; 手足, 翼, 羽; 男根: ~s of Christ (基督的) キリストの手足, キリスト教徒. ③ 政党支部. ④ (建物・構造物) の部材, 構材: 【数】 (方程式) の辺; (集合) の元, 要素. ⑤ 文法上 節, 文中の一単位. ⑥ (英) プリティヴィングイア5等勲士 (最下級) (cf. M.B.E.); ロイヤルビクトリアオーダー4等 [5等] 勲士 (cf. M.V.O.). [ラテン語 membrum より] -bered adj. ...の会員のい. ...less adj.

con-cord [kɒŋkɔ:rd] n. ① (意見・態度・感情) などの一致 (agreement); (事物間の) 調和, 和合 (harmony), (= discord): in ~ with ...と調和 [一致] して. ② (文法) = agreement 3. ③ 平和; 友好, 親交: live in ~ 仲良く暮らす. ④ ⑤ (国際間の) 協定, 協約 (treaty). ⑥ (英) 協和音 [古フランス語より, もとはラテン語 concordia (con- 共に + cori 心 + -ia -ia = 同じ心を持つこと → 調和)]

se-di-tion [sɪdɪʃən] n. ④ (反政府的な) 扇動; 治安妨害. ⇨ TREASON (語源): stir up ~ 反乱をあおる.

pac-t [pækt] n. ① (個人間の) 約束: make (or sign) a ~ with ...と契約を結ぶ. ② (国家間の) 協定: a peace ~ 平和条約. [中フランス語より, もとはラテン語 pactum (pacere 一致する + -tum) ⇨ PACT].

cov-er-nant [kəvənənt] n. ① ② 契約, 約束, 誓約. ③ 契約: keep (break) ~ with ...との約束を守る [破る]. ④ 契約条項, 約款; 捺印 (証書) 契約 (もともとの) 協約. ⑤ ⑥ (C-) 協約: restrictive ~s 制限 [不作為] 約款. ⑦ (教金) 誓約. ⑧ (史) = National Covenant. ⑨ (the ~) 聖約 (1) (神の人間に対する) 約束, 契約. (2) (神がイスラエルに与えた) 契約: Ark of the C- 契約の箱 (ユダヤ教典) または石板を収めた箱 / land of the C- 聖約の地 (naan). ⑩ 国際連盟規約. — vt. [I 語] (…を) 契約する [for ...], (人と) 誓約する (with ...). — vt. [III 語] do (that is) ...を (人と) 誓約する (with ...). -nant [mental] adj.

fi-at [fiət] n. ① 法令, 制令, 命令; 裁可, 認可. ② (…すべしという) 専断的な命令 [布告] (that ... should 節).

ホップズ「リヴァイアサン」 (世界の大思想9) 水田洋・田中浩訳

序説

自然 (神が世界を作り給い、統治し給う技) は、人間の技術によって、他の多くのばあいと同じように、人工的動物を作りうるという点においても模倣される。生命とは四肢の運動にほかならず、その運動はある内部の中心部分からはじまる、ということを考えて、すべての自動機械 (時計のようにぜんまいと歯車で自動的に動く機械装置) は、人工的生命をもつとってならない道理があるか。すなわち、心臓はなにかといえ、それはぜんまいにほかならず、神経はそれだけの数の細い線、関節はそれだけの数の歯車にほかならないのであって、それらは、神が意図し給うたような運動を全身に与えるものではないだろうか。技術は、さらに進んで、自然のうちで、理性的でもっともすぐれた作品、すなわち人間をも模倣するに至る。というのは、技術は、コモン・ウェルスあるいは国家 (ラテン語のキウィタス)、と呼ばれるかの偉大なリヴァイアサンを創造するが、それは、人工の人間にほかならないからである。もっともこの人工の人間は、本来の人間を保護し防衛する目的をもっているから、本来の人間よりも大きくて強い。そして人工の人間にあっては、主権は、全身に生命と運動を与えるような人工の魂であり、各部の長官たちやその他の司法・行政の役人たちは、人工の関節である。賞罰 (それによってすべての関節や四肢は、主権の地位に結びつけられて、その義務を遂行するために働かされる) は、神経であって、本来の人間の肉体と同じ働きをする。すべての個々の成員の富と財産は体力である。人民福祉、人民の安全をはかることは、人工の人間のなすべき役目である。顧問官たちは、人工の人間が熟知していなければならぬあらゆることについて提案するから記憶である。衡平と法は、人工的理性と意志である。平和は健康、騷擾は病氣、内乱は死である。最後に、この政治体の各部分を最初に作りだし、集め、結合した、約束および信約は、創世のさいに、神が宣し給うた、人間をつくらうという、あの命令にたとえられる。

*【リヴァイアサンとは、ヨブ記40, 41章にでてくる怪獣の名前。これは人間の力をこえた、きわめて強い動物で、しかも、神の力はこの動物をもたおすほど強いのである。】

この人工的人間の性質を叙述するにあたり、わたくしは次のことを考察する。
第一に、その素材と創造者——それはともに、人間なのだが——について
第二に、いかにして、またどのような信約によって、それは作られるか。主権者の諸権利並びにその正当な権力また権威とはなにか、さらに、それを維持・瓦解させるものはなにか。

第三に、キリストのコモン・ウェルスとはなにか

最後に、暗黒の王国とはなにか

朝日カチャーセンター
提携講座@東
工大西9-607

旧約聖書『創世記』を読む

2006. 7. 21
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 旧約聖書とは

- 1) TANAKH (タナハ) = Torah + Nevi'im + Kethuvim トーラー+預言者+諸書
…ユダヤ教の聖典 キリスト教の旧約聖書 Old Testamentは配列が多少異なる
- 2) 構成
 - ・トーラー(Pentateuch モーセ五書) : 創世記/出エジプト記/レビ記/民数記/申命記
 - ・預言者 : ヨシュア記/士師記/サムエル記上/サムエル記下/列王記上/列王記下/イザヤ書/エレミヤ書/エゼキエル書/十二小預言者書(ホセア書…)
 - ・諸書 : 詩篇/箴言/ヨブ記/雅歌/ルツ記/哀歌/伝道の書/エステル記/ダニエル書/エズラ記/ネヘミヤ記/歴代誌上/歴代誌下
- 3) 成立年代
 - ・古代ヘブライ語で書かれる モーセ五書はバビロン捕囚(前6世紀)前後に成立
 - ・マソラ本文(10世紀の写本)、ギリシャ語訳(七十人訳)、ラテン語訳(ウルガダ訳)、欽定訳(KJV)、文語訳、口語訳、共同訳、新共同訳、など
 - ・本日使用するテキスト
 - a 月本昭男訳『創世記』(旧約聖書I) 岩波書店、1997 ←読みやすくお勧め
 - b 新共同訳『聖書 旧約聖書続編つき 引照つき』日本聖書協会、1987
 - c 文語訳『舊新約聖書』日本聖書協会、1887
 - d Tanakh: A New Translation of the Holy Scriptures according to the Traditional Hebrew Text, Jewish Publications Society 1985
 - e Good News Bible: Today's English Version, Collins/Fontana, 1966
 - f Metzger, Bruce M. and Murphy, Roland E. eds. The New Oxford Annotated Bible with the Apocryphal/Deuterocanonical Books: New Revised Standard Version, Oxford University Press, 1991

内容構成

第一部 原初史(1: 1-11: 26)	
1 天地創造(1: 1-2: 4a)	
2 エデンの園(2: 4b-3: 24)	
3 カインとアベル, 他(4: 1-26)	
4 アダムの子孫(5: 1-32)	
5 洪水物語, 他(6: 1-9: 29)	
6 地上の諸族(10: 1-32)	
7 バベルの塔(11: 1-9)	
8 セムの系譜(11: 10-26)	
第二部 父祖たちの物語(11: 27-36: 43)	
1 アブラハム(11: 27-25: 18)	
2 イサク(25: 19-26, 26: 1-35)	
3 ヤコブ(25: 27-34, 27: 1-33: 20, 35: 1-29)	
[ディナと二人の兄](34: 1-31)	
[エサウの系譜](36: 1-43)	
第三部 ヨセフ物語(37: 1-50: 26)	

□2□ 『創世記』Genesis

- 1) トーラーの冒頭の書物
 - ・原初神話/父祖たちの物語/ヨセフ物語、の三部よりなる
 - ・ヤハウエ資料(J)、エロヒム資料(E)、祭司資料(P)、申命記資料(D)などが編集されたようだが、はっきりしない。
- 2) 外部からの影響
 - ・洪水物語はメソポタミアに同様の説話がある。
 - ・聖所の起源神話などを織り込む。
- 3) 民族の起源神話
 - ・アブラハムが神に選ばれる~契約~祝福
 - ・周辺諸民族との系譜関係
 - ・十二部族の成立について

□3□ 原初神話の読みどころ

註1) 神の息吹き(ルーアッハ)は、霊でない

- ・ c 「…神の霊水の面を覆ひたりき」 b 「…神の霊が水の面を動いていた」 d a wind from God sweeping over the water f while a wind from God swept over the waters (創世記1:2)
- ・ b 「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた」 e Then the Lord God took some soil from the ground and formed a man out of it; he breathed life-giving breath into his nostrils and the man began to live. (2:7)
- ・ b 「私の霊は人の中に永久にとどまるべきではない」 d My breath shall not abide in man forever (6:3)
- ・ ユダヤ教は、靈魂の存在を認めない。翻訳に「霊」とあったら、注意すべきである。

註2) 人間の創造物語は、2回ある

- ・ b 「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」(1:27) b 「人が独りでいるのはよくない。彼に会う助ける者を造ろう」…主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その後を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造りあげられた」(1:18-22)
- ・ 男性と女性をつくったのは神であり、人間が罪を犯すまで羞恥心はなかった。

註3) スチュワードシップ(管理責任)

- ・ a 「神は彼らを祝福して、彼らに言った、「生めよ、増えよ、地に満ちて、これを従わせよ。海の魚、空の鳥、地を這うすべての生き物を支配せよ。」神は言った、「見よ、わたしは全地の面にある、種をつけるすべての草と種をつける果実のなるすべての木とをあなたがたに与えた。それはあなたがたの食物となろう。また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地上を這う生命あるすべてのものにも、すべての緑の草を食物として与えた。」 ⇒自然資源の利用権が、人間に与えられたと解釈
- ・ ノアの洪水の前は、人間も動物も肉食主義だったという解釈もある。

料外4) 楽園追放

- ・ a 「大地はあなたのゆえに呪われるものとなった。あなたは生涯、労苦のなかで食物をうることになる。……あなたは塵だから、塵に戻る。」(3:17-19)
- ・ 労働は、神の与えた苦役である、という思想(←→勤勉の思想)
- ・ 人間が死ぬのは、罪のゆえである、という思想(←→復活の思想)
- ・ 罪=神に背くこと ⇒原罪=人間は生まれつき神に背く性質をもっている

○カインとアベル

- ・ 農夫のカインと羊飼いのアベルの対立 貢ぎ物を受入れられないカインは神を恨む
- ・ カインがアベルを殺害 追放になったカインの身柄を保護すると神が約束する

○人びとの罪、神の怒り、洪水

- ・ a 「彼ら(神の子ら)が選り好むものをすべて妻にめとった」(6:2) 「地上には人の悪がはびこり、その心が凶る企てという企ては、終日、ひたすら悪であった」(6:5)
- ・ 神は人間やその他の生き物を創造したことを後悔し、洪水を起こすが、義人ノアとその一族を箱船で救うことにする。ノアは神に命じられた通りに行なう。

料外5) ノアの契約

- ・ 契約(ベールース) covenant
- ・ a 「わたしは、よいか、地上に大洪水をもたらす。それによって、生命の霊をもつ肉なるものすべてを天の下から滅ぼすためである。…しかし、あなたとはわが契約を立てよう。…あなたとあなたの家族全員は箱船に入りなさい。わたしはあなたがこの世代にあって、なお、わが前に義しい、と認めただからである。」(6:17-7:1)
- ・ a 「神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに言った、「生めよ、増えよ、知に満ちよ。…大地にうごめくあらゆる生き物とあらゆる海の魚については、それらはあなたがたの手に委ねられた。生きてうごめくものはすべてあなたがたの食物となろう。…」(9:1-3) 「私はあなたがた(注:動物を含む)とわが契約を立てよう。すべて肉なるものは、もはや、大洪水の水によって絶たれることはないし、大洪水が地を破滅させることもないであろう。…わたしは雲のなかに虹を置いた。それがわたしと地との間の契約のしるしである。」(9:11-13)

○バベルの塔

- ・ 「ひとつの民、ひとつの言語」であった人びとは、都市と塔を建てた。神はそれをみて人びとを散らし、言葉を混乱させた。

□4□ 父祖たちの物語の読みどころ

○アブラハムは、神の声に従う

- ・ a 「テラハはアブラム、ナホルそしてハランをもうけ、ハランはロトをもうけた。…テラハは息子アブラム…を連れ、カルデアのウルを出立し、カナンに向けて行った。彼らはハランまで来ると、そこに住み着いた。…テラハはハランで死んだ。」(11:27-32)
- ・ a 「ヤハウェはアブラムに言った、「あなたの地、あなたの親族、あなたの父の家を出て、私の示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民の父祖としよう。…」(12:1-2) 「その地には、カナン人がいた。ヤハウェはアブラムに顕れて言った、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えよう」」(12:7)

- ・ 族長に率いられて移動する人びとと家畜の群れを、ウェーバーは「小家畜飼育者」とよんだ。彼らは都市の住民と契約を結び、一定期間をそこで過ごす。

料外6) 寄留民(ゲーリーム gerim)

- ・ 寄留民は部族外の者だが、法的に保護される。手工業者や商人の大半も寄留民だった。(『古代ユダヤ教』第1章6節)
- ・ ヤハウェは、アブラハムの子孫にこの地を与えると約束しただけであって、アブラハムにではない。

- ・ a 「アブラムはエジプトに下った。そこに寄留するためである。」(12:11)
- ・ a 「あなたの子孫は異郷の地で寄留者となり、四百年間、奴隷として人びとに仕え、人びとは彼らを抑圧しよう。」(15:13)
- ・ a 「わたしはあなた、およびあなたの後の子孫に、あなたの寄留地であるカナンを永遠の所有地として与えよう。」(17:8)
- ・ a 「アブラハムはそこからネゲブの地に移り、…ゲラルに寄留していた時、…」(20:1) ほかに、21:23 にも寄留地の言及あり。
- ・ a 「アブラハムは多くの日々ペリシテ人の地に寄留した。」(21:34)
- ・ a 「私はあなたがたの間では寄留のよそ者です。どうぞ、あなたがたのもとにある墓を譲って下さい。」(23:4)
- ・ a 「ヤハウェは彼(イサク)に顕れて言った、「エジプトに下ってはならない。…この地に寄留なさい。」(26:2-3)

- ・ イスラエルの民は、都市周辺の山地に居住していた、もともと素性の異なる諸部族や集団が、ヤハウェ神をいただき祭司同盟を結んで、都市定着民と対抗し、侵入していった結果、自分たちをひとつの民族と考えるようになったものと思われる。
- ・ このとき、もっとも重要なのは、ヤコブの12人の息子(後の12部族)の神話だった。
- ・ アブラハムとイサクの物語は、それにあとから付加されたと考えられる。
- ・ とは言え、アブラハムの物語は、その昔の族長時代の記憶を残している。

○ハガルとイシュマエル

- ・ 子のないサラは仕え女ハガルに、夫アブラムの子をませる。ハガルは妊娠すると態度が大きくなりいじめられるが、イシュマエルを生む。サラがイサクを生むと、ハガルとイシュマエルは砂漠に追い出される。イシュマエルは荒野で弓を射る者となる。

料外7) アブラハム契約

- ・ a 「ヤハウェはアブラムと契約を結んで言った、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えよう。エジプトの川からかの大河ユーフラテスまでを。」」(15:18)
- ・ a 「わたしはエル・シャッドイ。…わたしはわが契約をわたしとあなたとの間に置き、あなたの子孫を限りなく増やそう。…あなたは多くの国民の父祖となる。…あなたの名はアブラハムとなろう。…あなたの子孫から多くの王が出よう。」(17:1-6)+(17:8)
- ・ a 「代々にわたり、わが契約を守らなければならない。…あなたがたの男子はすべて割礼を受けよ。」(17:9-10)

○イサク誕生の約束

- ・ 神はサラに男児が生まれると祝福する。アブラハムは、90歳のサラに子が生めようかと笑う。神は契約を立て、生まれる子をイサクと名づけよと言う。

- ・三人の客人（神を含む）がやって来て、サラが子を産むという。サラは笑う。

創18) アブラハム、神と論争する

- ・ヤハウェはソドムを滅ぼそうとして、その意図をアブラハムに告げる。アブラハムは、50人の義人がいれば、ソドムを滅ぼさないかと神に問い、滅ぼさないと言質をとると、それを40人、30人、20人に値切る。
- ・人間は神と論争を挑んでもよい。神はそのことを咎めないし、怒らない。

創19) イサクの犠牲

- ・ a …神はアブラハムを試みた。…「あなたの息子、あなたの愛するひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがそこで指し示す山のひとつで、彼を全焼の供犠に献げなさい。」翌朝、アブラハムは早く起き、…。(22:1-3)
- ・ a …息子イサクを縛り、祭壇上の薪の上にのせた。アブラハムは手をのばして刃物を取り、息子イサクを屠ろうとした。すると、天からヤハウェの使いが彼に呼びかけて、言った、…「少年に手をのばすな。…いま、わかった、あなたが本当に神を畏れる者であると。あなたはわたしのために息子さえ、あなたのひとり子でさえ、惜しむことをしなかった」(22:9-12)
- ・ 神の命令は矛盾している。
- ・ 神の命令は、道徳や人間の善悪判断に反している。
- ・ アブラハムは、神の命令どおりに実行しようとした。
- ・ 神のために、自分のひとり息子を犠牲にしようとしたアブラハムを、神は祝福した。
- ・ このエピソードを裏返すと、人間のために、神がそのひとり息子を犠牲にする、というイエス・キリストの物語になる。

創22) イサクとリベカの結婚

- ・ イサクはアブラハムの兄弟ナホルの土地におもむき、その孫リベカをみそめる。
- ・ イサクはリベカを連れ帰る。

創27) 父の祝福を奪うヤコブ

- ・ リベカは双子の兄弟、エサウとヤコブを生む。イサクは兄エサウを愛し、リベカは弟ヤコブを愛する。
- ・ 死期の近づいたイサクは、エサウを祝福しようとする。ヤコブは兄になりすまし、祝福を奪い取る。
- ・ イサクは、ヤコブをリベカの兄ラバンの地にやり、妻を探させる。

- ・ ヤコブは、神の使いたちが天を梯子で昇り降りする夢をみる。(28:12)

- ・ ヤコブはラケルを妻とするため、ラバンのもとで7年働くが、姉レアと先に結婚するはめになり、さらに7年間働く。

- ・ ヤコブは家族を連れて帰還する。途中、神と格闘する。
- ・ 贈り物を用意して、兄エサウと和解する。

創28) 祭壇を築く、石の柱を立てる、など

- ・ アダムーシェトーエノシュ a 「このころ、ヤハウェの名を呼ぶことが始まった」

(4:26)

- ・ a 「ノアはヤハウェのために祭壇を築き、すべて清い家畜のなかから、またすべて清い鳥の中から取って、その祭壇で全焼の供犠を献げた。」(8:20)
- ・ a 「アブラムは、彼に顛れたヤハウェのため、そこに祭壇を築いた。そこから彼はベテルの東の山に移り、…そこに祭壇を築き、ヤハウェの名を呼んだ。」(12:7-8)
- ・ a 「アブラムは天幕を移して、やって来て、ヘブロンにあるマムレの檜の林に住み、そこにヤハウェのための祭壇を築いた」(13:18)

- ・ a 「翌朝、ヤコブは早く起きて、そこで枕としていた石を取り、それを柱として立て、そのてっぺんに油を注ぎかけた。…ヤハウェこそが神となり、私が柱として立てたこの石を神の家とします。」(28:18-22) 石柱については、31:51 も参照

- ・ a 「ラバンは羊の毛を切るため野に出ていた。そこでラケルは父親のテラフィムを盗んだ。」(31:19) テラフィム：家族の守護神像と思われるが、詳細は不明

- ・ 祭壇はしばしば、檜の林など特別の場所につくられる。
- ・ 小家畜飼育者として移動生活をしていた間は、随時祭壇がつくられていたものが、定住につれ、やがて固定した場所（聖所）となる。これら伝承は、聖所の起源神話だろう。
- ・ 犠牲の儀式を行なうのは、族長である。（祭司階級ではない。）
- ・ 石の柱は、のちに、偶像とみなされる。

- ・ そう言えば、メルキツェデク王の信じる「天地の造り主エル・エルヨン」と、アブラムのいう「天地の造り主エル・エルヨンなるヤハウェ」とは、異なるはずだが、微妙に同じである。（もともとヤハウェ信仰は偶像崇拜の要素も持っていた？）(14:18-22)

創37) ヨセフの物語の読みどころ

○ヨセフの夢

- ・ ヤコブの子、夢みるヨセフは、異母兄弟に疎まれ、エジプトに向かう隊商に売られる。
- ・ 奴隷となったヨセフは主人のため尽くすが、主人の妻に言い寄られ、陥れられ、牢屋につながれる。同房の囚人に、夢判断の能力を示す。
- ・ ファラオの夢を解きあかし、大臣となって、凶作にそなえる。
- ・ 食糧を求めてやってきた兄弟たちと再会を果たす。

創41) ヨセフの、神の計画

- ・ a 「私はあなたがたがエジプトに売り渡した弟のヨセフです。…神があなたがたより先に私をここにお遣わしになったのです。」(45:4-5)

- ・ ヨセフは、自分の身にふりかかる苦難も、神の計画であると理解し受け入れる。

○ヤコブとヨセフの埋葬

- ・ ヤコブは、死後エジプトではなくカナンに葬られることを望む。ヨセフはヤコブをミイラにして、アブラハムやイサクの葬られている洞窟に葬る。
- ・ ヨセフも、自分の骨をカナンに送り届けることを望む。死んでミイラとなる。

ユダヤ教史年表

B. C. E. (Before Common Era)=B. C. (キリスト紀元前)
C. E. (Common Era)=A. D. (キリスト紀元後)

B. C. E.	事 項
3000ころ	シュメール人、文字を発明
29C~23C	エジプト古王国時代
2400~2250	北シリアのエブラ帝国
2334~2279	アッカドのサルゴンの治世
21C~18C	エジプト中王国時代
19C~18C	エジプトの「呪詛文書」
19C~17C	族長時代。ヘブル人アブラハムのカナン移住。「アブラハム契約」
18C	「マリ文書」(北メソポタミア)
1792~50	バビロニア王ハムラビの治世
1730~1570	ヒクソスのエジプト支配
17C(?)	ヤコブ(=イスラエル)のエジプト移住
1570~1305	エジプト第18王朝(新王国)
1490~36	エジプト王トットモシス3世、カナン征服
14C	アマルナ時代。「アマルナ書簡」
14C~13C	「ウガリット文書」
1305~1200	エジプト第19王朝(帝国)
1290~24	エジプト王ラメセス2世の治世
1250ころ	モーセの率いるヘブル人のエジプト脱出。過越祭の始まり。「シナイ契約」、モーセー神教の成立
1224~14	エジプト王メルネプタ。メルネプタが征伐したカナン住民の中に挙げられる“イスラエル”は聖書外資料初出例
13C末以降	ヨシュアの率いるイスラエル諸部族、カナンに侵入、定着
12C	「契約の書」
1150ころ以降	士師時代。デボラ、ギデオンなどの活動
1030ころ	エリの率いるシロ同盟、ペリシテ人に敗北
1020ころ	預言者サムエル、最初の王サウルを任命
1004ころ	サウル、ペリシテ人と戦い、ギルボア山上で敗死。ダビデ、ユダ王となる

B. C. E.	事 項
997ころ	ダビデ、イスラエル王となり、ヘbronからエルサレムに遷都。ペリシテ人を撃破
10C前半	ダビデ、東ヨルダンとシリアを征服して大帝國を建設。国内において、アブシャロムとシェバ、反乱を起こす。「ダビデ契約」「ヤハウィスト」「ダビデ出世物語」
967	ソロモン即位。「ダビデ王位継承物語」
965	ソロモン、エルサレム神殿建設を開始、20年後に完成
928	ソロモンの死後、統一王国、南ユダと北イスラエル王国に分裂。ダビデ家南ユダを支配、ヤラベアム、北イスラエル王になる
928~907	ヤラベアム、ベテルとダンを北王国の聖所に定める。エジプト王シシャクの侵攻を受け、ユダ王アビヤにも大敗を喫す
906~883	バアシャー、北王国の王位を篡奪、ユダ王アサと戦うが、アラム王ベンハダドに背後をつかれて敗北
882	ズィムリ、反乱して北王国の王位を篡奪、7日天下に終る
882~878	オムリとティヴニ、北王国の王位を争う
878~871	オムリ、サマリアに王都を築き、フェニキアのツィドン王国と同盟。北王国最初の安定王朝を創始
873~852	オムリの子アハブ、ダビデ家と友好条約を締結し、南北両王国間の戦争を終結。アハブが娶ったツィドン王女イゼベル、フェニキア人のバアル礼拝を導入してヤハウエ信仰を弾圧。これに反撥して、エリヤとエリシャに率いられた預言者運動起こる
853	侵攻して来たアッシリア王シャルマネセル3世に対し、ダマスコ、ハマテの王たちと同盟したアハブ、北シリアのカルカルで戦い、アッシリア軍を撃退
842	イエフーのヤハウエ主義革命
"	オムリ家出身の王母アタリヤ、ユダ王国の王位を篡奪、エルサレムにバアル神殿を建立
836	ヤハウエ主義革命により、アタリヤを打倒、ダビデ家のヨアン、王位を継承
817~800	北イスラエルのイエホアハズ、アラム王ハザエルの侵略を受ける
789~748	北イスラエルのヤラベアム2世と南ユダのウズィヤ(785~733)の下に、両王国は繁栄の絶頂を窮める
750ころ	最初の記述預言者アモスの活動
748~722	ヤラベアム2世の死後、北王国アナーキーに陥る。預言者ホセア

B. C. E.	事 項
735	の活動 ダマスコ王レツィンとイスラエル王ベカの同盟、エルサレムを攻めるが勝てない。ユダ王アハズ、アッシリア王ティグラトピレセル3世に援助を求め、アッシリアの属王になる。預言者イザヤの活動始まる
722	アッシリア王シャルマネセル5世、サマリアを攻略し、北王国滅亡。北イスラエル、アッシリアの植民地となる。北方諸部族の捕囚と外国人のサマリア植民
705	アッシリア王サルゴン戦死。アッシリアの属州で一斉に反乱起こる。ユダ王ヒゼキヤ、「申命法」(?)に基づく宗教改革を断行
701	アッシリア王セナケリブ、ユダ王国に侵攻、しかしエルサレムは攻略できない。イザヤの活動続く。預言者ミカの活動
698~642	ユダ王メナシェ、アッシリアの忠実な属王となり、異教祭儀をエルサレム神殿に導入
627	アッシリア王アッシュルバニパルの死後、アッシリア帝国の支配終る。預言者エレミヤの活動始まる
621	ユダ王ヨシヤによる「申命記」改革と、北イスラエルの併合
612	ニネヴェ陥落。アッシリア帝国の滅亡と新バビロニアの興隆
609	ヨシヤ王メギドで戦死。ユダ王国、エジプトの属国となる
597	バビロニア王ネブカドネツァル、エルサレムを包囲、降伏したユダ王イエホヤキンと指導者階級をバビロンへ連行(第1次捕囚)
586	エルサレム陥落、ユダ王国滅亡。ソロモンが建てた第一神殿の破壊。第2次捕囚
586~538	バビロニア捕囚時代。エレミヤの「新しい契約」「哀歌」。バビロニアにおいて、預言者エゼキエルの活動、「神聖法典」「申命記派歴史書」「祭司典」。末期に、預言者第三イザヤの活動始まる
539	新バビロニアの滅亡とペルシア帝国の興隆
538	ペルシア王クロスにより、捕囚民の祖国帰還を許す勅令が發布され、ツィオン帰還始まる。預言者第三イザヤの活動
520~515	ゼルバベルを助けて預言者ハガイとゼカリヤの活動
515	エルサレム第二神殿の再建工事完成
5C前半	「ヨナ書」「ルツ記」「マラキ書」
458	律法学者エズラ、バビロニアからエルサレムに派遣される
445	ネヘミヤ、ユダヤ州知事として着任。エルサレムの城壁の修理と

B. C. E.	事 項
430ころ	社会改革を行なう エズラ、「モーセの律法」を朗読。シナイ契約の更新により、エルサレム神政共同体を確立。外人をエルサレムから追放。サマリア人、ゲリズィム山にサマリア教団創立
400ころ	「トーラー」(律法)の結集
4C	「歴代志」「エズラ記」「ネヘミヤ記」
"	「箴言」「ヨブ記」「伝道の書」
4C~3C	「第四イザヤ」「ヨエル書」「第二ゼカリヤ」
331	アレクサンドロスのパレスチナ征服。ヘレニズム時代始まる
330	ペルシア帝国滅亡
3C	プトレマイオス家のパレスチナ支配。「ネヴィイーム」(預言者)の結集
280ころ	「トーラー」(律法)のギリシア語訳(七十人訳)アレクサンドリアで完成
240~18	ヨセフ・ベン・トビヤの活動
198	プトレマイオス軍パニウムで敗北、セレウコス家のパレスチナ支配始まる
2C初頭	サドカイ派の結成
190	セレウコス家、共和政ローマに敗北。支配民に対するセレウコス家の収奪支配始まる
175	アンティオコス4世エピファネス、オニアス3世に代えてヤソンをエルサレム神殿大祭司に任命、エルサレムのヘレニズム化を推進させる
171	アンティオコス、ヤソンに代えてメネラオスを大祭司に任命
168	アンティオコス、ローマの介入を受けてエジプト征服に失敗、帰途エルサレムを再征服、アクラ要塞を建設
167	アンティオコスのユダヤ教禁止令公布。ハスモン家のマッタティヤを指導者とするハスィディーム(敬虔主義者)の反乱開始
166	マカビのイエフダ反乱指導者になる。反乱中に「ダニエル書」
164	マカビのイエフダ、エルサレムを奪回、神殿の宮潔めを行なう。ハヌカ祭の始まり
161	マカビのイエフダ、ニカノールが指揮する遠征軍を破り、エルサレムを再占領、共和政ローマと同盟
160	マカビのイエフダの戦死。ヨナタン、指導者になる

日本人はなぜ論争が下手なのか

橋爪大三郎

言論のことは言論で決着させるといふ原則を認めたがらぬ日本人の深層に迫る。

日本人は、論争が下手である。まずこの事実を、はっきり認識しなければならぬ。日本人は日頃、日本人とばかりつきあっている。自分が論争が下手だと気がつかない。そもそも、論争をしようという発想がない。その証拠に、根回しが上手だとか、口がうまいとかいう人はいくらもいるが、論争が好きで仕方がないという人は見たことがない。

日本人が、論争が下手で、論争に関心がないのは、論争をしなくても生きていけるからである。むしろ論争などしないほうが「あの人は人間が出来ている」などと一目置かれて、社会的な評価が高まったりする。こんな変なことになるのも、日本社会が独特の歴史と文化を背負っているからだ。

論争とは何かという前提

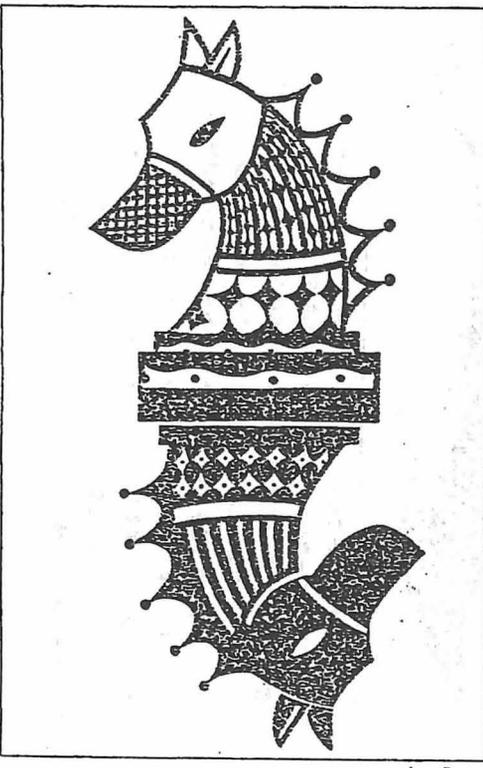
そこで以下、日本社会のどこがどう独特かを、いろいろ議論したいわけだが、その前提として、論争とは何なのか、という問

題をまず片付けておこう。

論争は、単なる口喧嘩や言い争いと違って、一般にどのような特徴をもっている。

- ① 論争の当事者は、互いの対立を自覚している。
- ② 双方の主張は、公開のかたちでのべられる。
- ③ 論争の目的は、「勝利」を収める（自分の優位を証明する）ことである。
- ④ 主張が論理的、かつ説得的であったほうが、「勝利」をうる。

Illustration=かわくせい



ひとこと言うならば、論争は、言葉や武器にした「戦争」である。言葉以外の武器を使わないこと。それに、言葉を使う場合にも、それなりのルールに従うこと。戦争であるからには「勝ち負け」がある。「勝利」をめざして全力をあげるのが、論争を闘う者の義務である。

論争で「勝利」を収めるのは、より「論理的、かつ説得的」に主張を展開したほうである。ただし、論理性と説得性とは、しばしば一致しない。論理的であるかどうかはどうでもよく、説得的なだけの言論は、単なるレトリックである。あべこべに、まったく説得的でない、論理的なだけの言論は、単なる屁理屈である。論理性と説得性が適切に組み合わせられないと、論争に勝

利できない。ただしこれを、どう組み合わせたらベストなのか、手堅な公式はないのである。

言論のことは言論で決着する

言論のことは、言論で決着する。この原則がいったん定着すると、論争術や論戦に勝ち負けが格段に進歩し始める。

古代ギリシア人たちは、ポリス（都市国家）の経営や哲学・数学の難問に頭をひねり、毎日のように論争を開いた。三段論法や対話法（弁証法）も言う、相手の矛盾を利用して議論を進める技術、修辭法（レトリック）、デマゴギーなど、論争のあらゆる技術がこの頃すでに揃っている。

いっぽう日本人が論争下手なのは、「言論のことは、言論で決着する」という原則が成り立つたために、言論と、それ以外のことがら（暴力などの実力行使、人間関係、感情、利害関係や打算など）が切り離されていなければならない。さもなければ、論争と

か、哲学とか、法學とか、科学とかいった言論のシステムが成り立つ余地がなくなってしまう。歴史を振り返ってみると、日本人はこうした言論のシステムに、あまり関心なかったことがわかる。それらが日本に紹介されたのは、たかだか一〇〇年あまり前のことなのである。

日本は小さな島国で、住民の同質性が高い。そのため、たいていの紛争は妥協すれば解決できた。妥協するのには、原則は邪魔になる。だから、どんなかたちの原則であれ、なかなか発達しにくいのである。

日本は、隣接する大國——中国の文化に、いっぽうで憧れを、またいっぽうで異和感を抱いてきた。中国には、正統なテキストを編纂し、それを読解する伝統（儒教の伝統）がある。また、独特の論争術も発達している。日本は中国から、文字もテキストもまるまる移入した。けれども、もともと根本的なところで儒教の伝統を受け入れなかった。その結果、中国流の論争術は、日本に根づくことができなかった。

また日本は、西歐文明を近代化のモデルとした。そしてその、科学技術や社会制度を移入した。西歐文明は、キリスト教を基盤としている。科学技術も社会制度も、この基礎のうえに形成されたものである。しかし日本は、キリスト教を受容しなかった。そのため、キリスト教に付随する論争術も受容できなかったのである。

キリスト教の論争術の特徴

キリスト教の場合、「悪魔」の概念がもつとも重要である。

キリスト教と、儒教。この二つは、異なった文明の異なった言論のシステムを代表している。日本はこのどちらからも、論争術を学ばなかった。また、それ以外の文明からも、学ばなかった。日本人が論争が下手なのは、要するに、論争の必要性も、論争の技術も、論争の経験も、欠けているからなのである。

それでは、キリスト教や儒教は、どのような論争術を築き上げたのだろうか。順にそれを考えよう。

キリスト教の場合、「悪魔」の概念がもつとも重要である。

唯一神が世界を創造したと考えると、この世の悪をどう説明するかがむずかしい。悪も神がつくり出したと考えるか、それとも悪は別の誰か（たとえば悪魔）がつくり出したと考えるか。ユダヤ教（旧約聖書）にはもともと、悪魔の考え方がなかったが、キリスト教には、いつの間にか悪魔の考え方が根を下ろした。これは、この世を善／悪の対立ととらえる、ゾロアスター教が姿を変えてもぐりこんだのではないかとされている。一神教の枠組みで悪を理解しようとするには、「善の欠如」と定義するのが神学的にはほんすっきりしている。しかし、一般民衆も、また異端審問に熱狂した宗教裁判所も、悪魔の存在を信じて疑わなかった。キリスト教は、打倒すべき敵、究極の反価値として、悪魔を知っているからである。

悪魔の特徴をまとめておこう。まず第一に、悪魔は人間でない。もとは天使で、神を賛美していたが、神に背いたため地獄に墮とされたという（堕天使）。ちなみに、神も人間ではなく、別種の生き物、キリスト教

は、神／天使／人間という、三種の知的存在を想定している。（第二に、悪魔は、人間と契約を結ぶことができる。これは、神が人間と契約を結ぶことと裏返しである。第三に、悪魔は、神と違い、さまざまに姿かたちを変えて、人間社会のいたるところに出没する。彼らの目的は、あらゆる機会をとらえて神に反対し、人間が神に救済されることを妨げ、人間を神に背かせることである。

ルターは、悪魔の存在を信じていた。カルヴァンはもとと敬虔して、悪魔を抽象化し善悪化した。カルヴァンによれば、人間はどうしようもないほど罪深く汚れており、よいところが少しもなく、神の助けがなければ何ひとつ正しいことができない。人間は人間を信じてはならず、神を信じなければならぬ。宗教改革は、人びとが互いを悪魔と見なす視線を、人びとのあいだに強固に張りめぐらした。

キリスト教の信仰は、悪魔との論争を通じてその正しさが証明され、鍛えられる。それは、宗教改革の発明でなく、もともとキリスト教の出発点だった。福音書の伝え

る荒野のイエスは、四〇日もの断食のあと、やって来た悪魔と論争する。悪魔は言う、「お前が神の子なら、石をパンに変えてみたらどうだ」。イエスは答える、「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」（申命記8:1-3）。「悪魔はまた言う、「お前が神の子なら飛び降りたらどうだ。神が天使たちに命じると、お前の足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手でお前を支える」（詩篇91:1）とある」。イエスは答える、「お前の神である主を試してはならない」（申命記6:16）とも書いてある。悪魔もイエスも、聖書を引用して議論する。イエスは悪魔との論争に勝ち、悪魔（サタン）を斥けた。そうである以上、イエスが神の側にあることは明らかだ。これは、イエスが神の子であることの、間接的な論証になっている。

イエスと悪魔との論争から出発したキリスト教。その論争術は、つぎの特徴をもつ。

① 権威あるテキスト——聖典——に正しさの拠点を置く。

② テキストを引用し、解釈し、論理展開する論争の主体は、あくまでも個人である。

ユダヤ教やイスラム教は、テキストのほかに、伝承（ユダヤ教のミシュナ、イスラム教のハディース）の権威を認めている。これらは、人びとをいかに集合的に伝わったものなので、論争は半統主体となり、個人を析出させにくい。これに対して、キリスト教はもとと個人救済の宗教であるうえ、聖書の権威を極端に重視する（律法や儀礼や伝承の権威を認めない）ので、神—テキスト—個人がストレートな関係に置かれる。

そして、①、②のテキストを、「観察可能な事実」に置き換えると、キリスト教の論争術がそのまま、実証的な学問（自然科学）の言論のシステムに変成するのがわかるだろう。

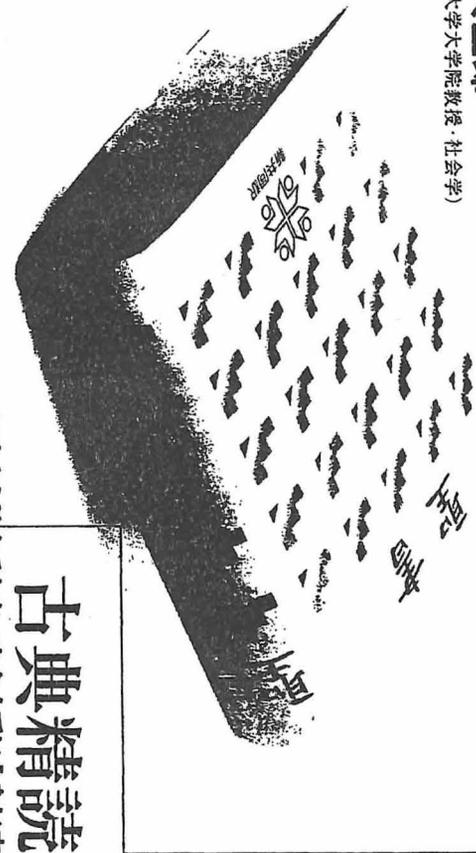
政治的影響を受ける
中国の言論のシステム

それでは、中国の言論のシステムはどうであろうか。

オノテの書

古典精読

いまさら読んでみたかったななんていえない本



『旧約聖書』

(監訳)新共同訳(下) 日本図書協会 2700円

子どもの頃から読んでみると
世界観に影響するのでは?
橋爪大三郎

(東京工業大学大学院教授・社会学)

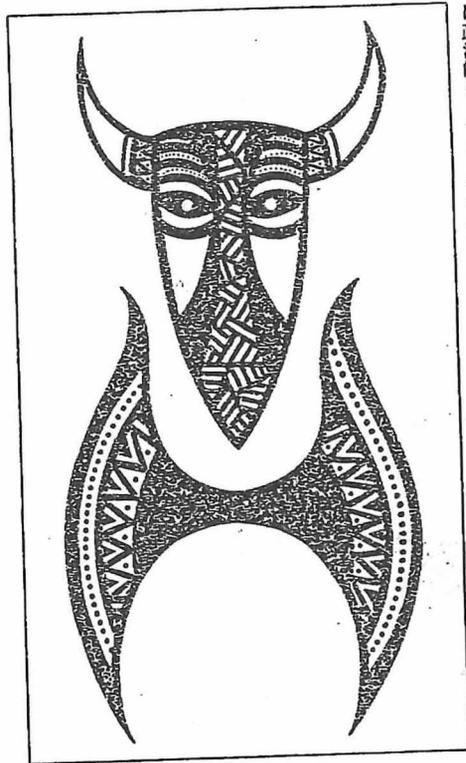
冒頭の創世記。天地創造に、アダムとイブ、アブラハムの物語だ。そのつぎは出エジプト記。映画「十戒」でおなじみだ。でもその先は、何だっけ？ 宗教に帯を手に入れた様子は、入植者たちがアムステルダムに入れた様子、なんともくうとい日本人の悲しいところである。

旧約聖書を開いてみると、以下、旧約聖書、申命記と続いている。いままでをモーセ五書(トラー)といひ、ユダヤ教の根本聖典である。その後にも、歴史書や預言者たちの書、詩篇などがあり、ついでに、旧約聖書、申命記と続いている。

イスラエルの民を率いたモーセは、約束の地を目指して、生涯を終えた。代わつてアブラハムを率いたのは、ヨシヤフである。ヨシヤフは、エジプトの町を偵察させた。町に逃げ込んだ底層は、遊女ラハフの家にかくまわれる。ラハフは一族の命を助けてくれと頼み、底層は約束して、いよいよ攻撃。城壁は崩れ、エジプトの住民は皆殺しとなり、ラハフの一族だけが助かる。エジプトに続き、家が同様の運命をたどっていく。

先住民にしてみれば、ユダヤ人たちは突然やってきたと考へた。けれども彼らは、その神の与えた約束の土地だといふ。そこで、王や兵士はあつちへ、女や子どもや老人まで皆殺しにしてしまふ。残虐なもようだが、古代の都市国家同士の間には、戦争はいつしたためたらしい。

子どもの頃から『旧約聖書』を、すまなむのは無理というものである。



「という言論のシステムが、いちおう成立した。しかしそれは、完全でない。というのは、中国の言論のシステムは、政治の部分から完全に独立しておらず、政治のシステムから影響を受けるからである。中国の論争術も、権威あるテキストに正しさを規準をおく。けれども中国の場合、一神教が成立しなかったため、その「権威」は政治的に、つまり社会的プロセスを通じて、決定される。儒教の基本テキストが確定したのは、秦漢帝国の統一と無関係でなかつたし、その権威は、政治情勢が変化するたびに、再確認されなければならなかつた。このため、中国の論争術は、いちじるしく政治的な色彩を帯びる。キリスト教では、正しさを規準は神・社会外的な不動の原則にあると信じられている。政治権力に対する個人的抵抗が正当化できる。これに對

して、中国では、正しさを規準が政治的に変動しうる。そこで論争では、自分を正当化できる政治的文脈(実力者の応援がある、類似の先例がある、...)をいかに採用するか、ひとつの重大なポイントになる。

中国のテキストは、権力の効果を増強したものである。権力は、テキストを固定することによって、その水鏡をはかる。これが歴史(史)であり、また古典である。いづれも権力は、テキストの効力によって束縛されることを望まない。法の支配(法治)がなかなか成立しないのはそのためである。中国でもたしかに、「言論のことは、言論で決算する」のだがそれは、人びとがそれを支持する政治的文脈を受け入れたためである。ただしそのことは、明確に言及されない。言論のシステムが独立しているという外見は、権力にとつても、言論を展開する本人にとつても、有利なことなのだ。

こうして、中国の論争術は、政治力学に對する(過度に)鋭敏な感覚を要求する。これは、異質な他者たちが共存を強いられ文化的に同化しきれないまま主導権を争い

続けた数千年の歴史の産物である。こういふ、他者に対するしたたかな感覚は、日本人に真似のできないものである。

他者を見失った日本人

日本人は、中国から漢字を学んだあと、「権威あるテキスト」の編纂にかかった。その目的は、朝廷(天皇の政權)を中国の王朝になぞらえて、正統化することである。けれども、出来あがった『古事記』『日本書紀』は、中国のテキストといくつかの点で異なる。まず朝廷の征服事業が、神話的な古代のものに包まれ、歴史的な事実であるのとはつきりしない。これは、当時から日本が、異族の生存を脅かしていなかったか、意識させなかったことを意味している。つぎに、このテキストは、いかなる意味でも人びとの生活を憂はれない。儒教のテキストが、中国人の行動原理を与えているのと、好対照である。要するに日本人は、社会を自然に運行させておけばよいと考え、それ以上の、相対的に独立した言論

のシステムを立ち上げなかつた。それでは、異族としての他者たちを見失った日本人は、個人としての自己に對する他者を見失ったのだろうか？

キリスト教は、悪魔の觀念によって、同じ民族、同じ社会、同じ集団のなかの自己と他者のあいだに、鋭い分断線を引きだした。これは、キリスト教がもつていた本来の可能性の、発展形態である。いづれも日本人は、同じ仲間である人と人とのあいだに、このような絶対的分断線が引けるといふ発想を、どうしても受け入れない。人間は同質で、「腹を割って話せばどんな紛争も解決できる」が、日本人お気に入りのイデオロギーである。

悪魔は、他者を、そして自己の内部の邪悪な部分を、徹底して異化する視線に對して与えられた名前である。この視線は、論争によって開うべき他者を発見する。そもそも論争とは、自己と他者を、互いに對立しあう両極と見とらへ、そこで勝利を争うためのよく組織された活動活動だった。論争は、自分が訴えかけるべき他者についての

論争は学びうる

幸か不幸か、論争は学びうる。少なくとも、科学を日本人がどうにかこなした程度には学びうる。気がつけば、日本は国際社会のなかで、まさに他文明に取り巻かれていくではないか。日本人が他者を発見しようとして見ているのだ。すでに論争は始まっている。賢明な日本人なら、論争のルールをいち早く理解し、少なくともルール違反で追いつかない程度には、論争の訓練にとりかかるとはいい。

The Reason Why We Japanese Are Poor At Debate, by D. Hashizume
Jan. 1991

第58回日米学生会
議直前合宿講演会
@代々木青少年セ
ンター4F401

アメリカの行動原理

2006.7.27
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカの理念、アメリカの価値

1) 自由 Liberty, Freedom

- ・自由はもともと、信仰の自由 自由に教会を組織し集まる権利 Bible Commonwealth
⇒封建的束縛からの自由、結社の自由、営利の自由
- ・戦争に巻き込まれない自由 新大陸/旧大陸 ×宗教戦争 ×植民地戦争

2) 民主主義 democracy

- ・王制のアンチテーゼ Kingdom ↔ Freedom Freeman : 資産と参政権をもつ人
クロムウェルの清教徒革命とその結末を、反面教師にピューリタン政権
- ・タウン自治 植民地政府は王制だったが、地方自治政府は民主制だった
- ・権力に対する不信 大統領/議会 任期と選挙
- ・人びとの合意(の集計)のみが、正統な権力を構成するとの信念

3) 資本主義 capitalism

- ・約束の土地 新大陸を約束の地と同一視 新大陸への移民=出エジプト
- ・資本主義: 禁欲倫理が世俗化したかたち 成功は神に選ばれたしるし
- ・豊かさ……アメリカの人びとが、選ばれた民であることの証拠

4) 人造国家アメリカ

- ・個人が集まって、国家をつくっていると、明瞭に意識している社会
- ・夫婦>親子 創世記のアダムとイブ(男女は二人でいるべき~神の命令)
- ・権力の委譲は条件つき 選挙、任期、手続き
- ・人類の最高の社会をつくるよう、神に依頼されて始めた実験場、という意識が強い

□2□ アメリカの矛盾

1) 安全と自治

- ・自己武装(防衛)権 家族が銃を持ち、外敵と戦う

- ・法の執行者は、権力者ではなくて自分たちであるべき 陪審制 司法取引
- ・タウン-カウティー州 (state, commonwealth) 三権のほかに州兵を持つ
- ・脅威……1) 侵略(新大陸なので安全)、2) 内乱(州の独立~南北戦争)
- ・孤立主義 → バランサーとしての役割 → 覇権国家・超大国
- ・二度の大戦と冷戦の教訓: 旧大陸の危険は芽のうちに摘んでおくべき

2) 多様性

- ・「アメリカ人」という人間はいない Native, Asian, Polish, Irish, Italian, Jewish, Hispanic, Indian, Russian, African, …… American
- ・民族集団ごとのコミュニティーの、集まりがアメリカ 政治的団体(憲法)
- ・アメリカの共通項: 英語、キリスト教、憲法への忠誠
- ・アメリカ人は、アメリカをさながら「世界」だとみなす → かえって閉じてしまう

3) 対立軸

- ・小さな政府/大きな政府 弱者優遇/自助重視 機会均衡/結果の平等
- ・リベラル/保守(伝統的価値観を重視~宗教/家族/地域/伝統/既得権/…)
- ・マイノリティ/マジョリティ 英語を学校教育で強制するか

□3□ 日米関係の1. 5世紀

1) ペリー来航と開国

- ・ペリー提督は最初から開国を意図していた 軍艦の回航 白旗伝説
- ・アメリカの反植民地姿勢を、日本は評価し、列強のなかで別格視
- ・中国での衝突 門戸開放政策/対支21ヶ条要求 ⇒ 日米関係は険悪に

2) 第二次世界大戦と冷戦

- ・ファシズム: 自由主義経済+一党独裁 共産主義: 社会主義経済+一党独裁
- ・全体主義(=ナチズム&スターリン主義) ~ハンナ・アレント『全体主義の起源』
- ・アメリカは、ドイツ、日本と戦うために、ソ連と同盟 ……プラグマティズム
それなら、ソ連と戦うために、日本と同盟したのも、プラグマティズムでは?
- ・日本はそのため、アメリカの価値観との合致を示すことが必要 民主化、アメリカ化

3) 戦後日本からポスト戦後日本へ

- ・「日本国憲法+日米安保条約」が、日本の constitution 米定憲法?
- ・冷戦が終結 → 日米安保の再定義 → アメリカが日欧と同盟して、世界を統治する
- ・日本、アメリカの相対的地位は低下 それを補うため、日米は互いを必要とする?

□4□ 日米対話の意義とは

1) 日本社会の価値前提を、まず自覚する

- ・対話が成り立たない、ということも、対話のあり方を学ぶうえで有意義
- ・対話すれば、自分の価値がわかる/自分の価値がわかれば、対話ができる
- ・どこまでも聞き続け/語り続ける 語り続ければ詰まる、それを相手が助けてくれる
- ・自分たちを規定する共通体験(歴史、文化、言語)について系統的に知る ×情報

2) 相手の価値前提を、系統的に理解する

- ・まったく異なる発想、異なる価値前提があることを知る cf 宗教、文化、習慣
- ・知識ではなしに、実感できることが大事 友人をもつこと

3) 異文化モードに切り換える

- ・日本の固有文化は、自己主張を抑制する美学をもっている ハイコンテクストな言語
- ・多くの社会は、自己主張を当然とする哲学をもっている ローコンテクストな言語
- ・日本人のほうが、国際社会に合わせないと、対話が始まらない

第37回広島県私学
教育研修会@近畿
大学附属福山高校

アメリカと中国
のいる世界

2006.8.21
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程
単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大
院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよ
いのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、
『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目
書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』
(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝
鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』
『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共
著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入
門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容
のレシビ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法
とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう
考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本
隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

URL <http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカ原論

1) アメリカの理念、アメリカの価値

- ・自由：もともとは信仰の自由 ⇒ 封建的束縛からの自由、結社の自由、営利の自由
- ・民主主義：王制のアンチテーゼ タウン自治/権力に対する不信/大統領vs議会/選挙
- ・資本主義：禁欲倫理が世俗化したかたち 成功は神に選ばれたしるし
- ・個人が集まって、国家社会を形成しているとなつねに意識 夫婦>親子(創世記)
- ・人類の最高の社会をつくるよう、神に依頼されて始めた実験場、という意識が強い

2) 人造国家、アメリカ

- ・一神教：神との契約(covenant) 垂直の契約 信仰=契約=法律(ユダヤ法)
- ・メイフラワール契約 ダビデ契約を真似て、Biblecommonwealth をめざす → 半途契約
- ・救済予定説 predestination 信仰は神の恩寵 → 信仰の外見(隣人愛)が重要に
- ・ピューリタンの世俗内禁欲の倫理 → 労働の聖化、勤勉、物質的豊かさの肯定
- ・公権力の役割…信仰の自由を守る 国家は世俗のもの/公権力は神が立てたもの

3) アメリカの世界戦略

- ・新大陸～旧大陸への反撥～旧大陸からの干渉を嫌う～孤立主義(世界への無関心)
- ・二度の世界大戦の経験…危機は芽のうちに摘んでおくべき → 冷戦の半世紀
- ・物質的豊かさ+軍事力+道徳的優位…覇権国家 介入/無関心、の二律背反

□2□ チャイナ原論

1) 文明としての中国/ローカル文化としての日本

- ・中国は、古代に成立した「中華共同体」(CU)である Cf EU
- ・中国の方言は、互に通じない 広東語/北京語/上海語≠英語/ドイツ語/仏語…
- ・表意文字である漢字が、中国を統一 中国語は人工言語(数・変化・時制などなし)

2) 中国社会の基本構造

- ・上部に官僚組織 貴族/地主/読書人/軍人/宦官 → 読書人が勝ち残る(皇帝専制)
- ・下部に地方組織 宗族(父系血縁集団・同姓) 承包(丸投げ)の体制

- ・数百年に一度、政治的混乱⇒王朝の交代 所有権の否定 セキュリティとしての親族
- 3) 儒教の本質

- ・差別道徳：重要な人間関係を選別、集団における権力と正統性の所在を明示
- ・君主に服従(忠/義)～官僚機構 年長者に服従(孝/長幼の序)～宗族
- ・忠と孝では孝が優先 君主が暴君なら討伐してよい(湯武放伐論)～孟子の革命説

4) 中華人民共和国とは何か

- ・毛沢東の革命 農民を主体に、地主を打倒：伝統的革命 農本主義的ユートピア
- ・共産党の官僚組織は、伝統的なものよりも、社会の下部に達している：「単位」制度
- ・社会主義市場経済……資本主義×一党独裁 歴史的概念としては「ファシズム」

5) 深化する改革開放 ←『隣のチャイナ』夏目書房

- ・経済成長/失業問題/農村問題/地域格差問題/腐敗問題/環境問題/政治指導者/国際関係/政治改革と民主化
- ・中国はアメリカを追い抜く 2020年のGDP 中国>アメリカ>インド>日本>…

□3□ 日本原論

1) 日本的価値

- ・人間の都合>神・仏[小室直樹テーゼ] 宗教よりも行政指導の権威が強い
- ・和(空気)……その時・その場にいる人びとの都合が優先 ×原則 ×哲学 ×歴史

2) 日本の古代化/日本の近代化

- ・固定した宗教や原則がないので、外部の制度や価値観を取り入れるのが容易
- ・制度や価値観は、日本的価値の文脈に置き換えられることで、変質する ex 仏教

□4□ 日・米・中の1. 5世紀

1) ペリー来航と開国

- ・ペリー提督は最初から開国を意図していた 軍艦の回航 白旗伝説 目標は中国
- ・アメリカの反植民地姿勢を、日本は評価し、列強のなかで別格視
- ・中国での衝突 門戸開放政策/対支21ヶ条要求 ⇒ 日米関係は険悪に

2) 第二次世界大戦と冷戦

- ・全体主義(=ナチズム&スターリン主義) ~ハンナ・アレント『全体主義の起源』
- ・アメリカは、ドイツ、日本と戦うために、ソ連と同盟 ……プラグマティズム
それなら、ソ連と戦うために、日本と同盟したのも、プラグマティズムでは?
- ・中国は、抗日戦争のプロセスで共産主義を選択 共産主義：近代化の方法論
近代化に有効でないことが証明されると、中国はためらわず市場経済を選択した

□5□ 世界のなかの日本

1) 戦後日本からポスト戦後日本へ

- ・「日本国憲法+日米安保条約」が constitution 冷戦が終結 → 日米安保の再定義
- ・日本、アメリカの相対的地位は低下 それを補うため、日米は互いを必要とする?

2) 21世紀前半の世界は米中関係が基軸

- ・アメリカ～新大陸/中国～旧大陸 対照的で相互補完的 アメリカの中国封じ込め
- ・日米関係、日中関係は、米中関係の従属変数 日本の対米、対中戦略を構想すべき

3) 「歴史問題」は、東アジアの主導権問題だ

- ・中国反日デモの背景…党の黙認/党の統制/対日問題(安保理拡大、MD)
- ・中韓は戦勝国でない～戦後処理に主導権を握れず 中国は靖国神社がうらやましい?
- ・国民党主席の直接選挙(2005.7)…台湾民主化の完成 ⇒ 共産党になぜできない?
- ・アメリカは台湾を防衛⇒日本も同調⇒中国は対米衝突を避けたいので、むしろ助かる

4) 長期的な対中戦略を

- ・地域的な重心は中国に傾く+韓国・朝鮮 アメリカは牽制してインド、日本にテコ入れ
- ・中国とアメリカが握手しても、喧嘩しても、日本は割りを喰う ⇒ その中間に活路

(学) 鉄鋼学園
人材開発センター
第61回管理者セミナー

日本の明日を考える

～アメリカと中国のいる世界～

2006. 8. 31
於: JFEメッセセンター
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣りのチャイナ』(夏目書房)ほか。
URL <http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカ原論

- 1) アメリカの理念、アメリカの価値
 - ・自由：もともとは信仰の自由 ⇒ 封建的束縛からの自由、結社の自由、営利の自由
 - ・民主主義：王制のアンチテーゼ タウン自治/権力に対する不信/大統領vs議会/選挙
 - ・資本主義：禁欲倫理が世俗化したかたち 成功は神に選ばれたし
 - ・個人が集まって、国家社会を形成しているつねに意識 夫婦>親子(創世記)
 - ・人類の最高の社会をつくるよう、神に依頼されて始めた実験場、という意識が強い
- 2) 人造国家、アメリカ
 - ・メイフラワー契約 ダビデ契約を真似て、Biblecommonwealth をめざす
 - ・救済予定説 predestination 信仰は神の恩寵 ⇒ 信仰の外見(隣人愛)が重要に
 - ・ピューリタンの世俗内禁欲の倫理 ⇒ 労働の聖化、勤勉、物質的豊かさの肯定
- 3) アメリカの世界戦略
 - ・新大陸～旧大陸への反撥～旧大陸からの干渉を嫌う～孤立主義(世界への無関心)
 - ・二度の世界大戦の経験…危機は芽のうちに摘んでおくべき ⇒ 冷戦の半世紀
 - ・物質的豊かさ+軍事力+道徳的優位…覇権国家 介入/無関心、の二律背反

□2□ チャイナ原論

- 1) 文明としての中国/ローカル文化としての日本
 - ・中国は、古代に成立した「中華共同体」(CU)である Cf EU
 - ・中国の方言は、互いに通じない 表意文字である漢字が、中国を統一
- 2) 中国社会の基本構造
 - ・上部に官僚組織 貴族/地主/読書人/軍人/宦官 ⇒ 読書人が勝ち残る(皇帝専制)
 - ・下部に地方組織 宗族(父系血縁集団・同姓) 承包(丸投げ)の体制
- 3) 儒教の本質
 - ・君主に服従(忠/義)～官僚機構 年長者に服従(孝/長幼の序)～宗族
 - ・忠と孝では孝が優先 君主が暴君なら討伐してよい(湯武放伐論)～孟子の革命説

4) 中華人民共和国とは何か

- ・毛沢東の革命 農民を主体に、地主を打倒：伝統的革命 農本主義的ユートピア
- ・共産党の官僚組織は、伝統的なものよりも、社会の下部に達している：「単位」制度
- ・社会主義市場経済……資本主義×一党独裁 歴史的概念としては「ファシズム」

□3□ 日・米・中の1. 5世紀

- 1) 日本の価値
 - ・人間の都合>神・仏[小室直樹テーゼ] 宗教よりも行政指導の権威が強い
 - ・和(空気)……その時・その場にいる人びとの都合が優先 ×原則 ×哲学 ×歴史
 - ・固定した宗教や原則がないので、外部の制度や価値観を取り入れるのが容易
- 2) ペリー来航と開国
 - ・ペリー提督は最初から開国を意図していた 軍艦の回航 白旗伝説 目標は中国
 - ・アメリカの反植民地姿勢を、日本は評価し、列強のなかで別格視
 - ・中国での衝突 門戸開放政策/対支21ヶ条要求 ⇒ 日米関係は険悪に
- 3) 第二次世界大戦と冷戦
 - ・全体主義(=ナチズム&スターリン主義) ～ハンナ・アレント『全体主義の起源』
 - ・アメリカは、ドイツ、日本と戦うために、ソ連と同盟 ……プラグマティズム
 - ・それなら、ソ連と戦うために、日本と同盟したのも、プラグマティズムでは？
 - ・中国は、抗日戦争のプロセスで共産主義を選択 共産主義：近代化の方法論
 - ・近代化に有効でないことが証明されると、中国はためらわず市場経済を選択した
- 4) 戦後日本からポスト戦後日本へ
 - ・「日本国憲法+日米安保条約」が constitution 冷戦が終結 → 日米安保の再定義
 - ・日本、アメリカの相対的地位は低下 それを補うため、日米は互いを必要とする？

□4□ 21世紀は、どんな世界になるのか

- 1) 科学技術は地球を救うか？
 - ・IT革命～情報コストの劇的低下(ブロードバンド) → 組織、国家の輪郭が曖昧に
 - ・地球環境制約の深刻化 気候変動～炭素税～熱縮 エネルギー価格高騰
 - ・人口爆発&農地の拡大困難 → 食糧不足 → 食料価格高騰(第三世界の不満増)
 - ・⇒ 情報価格↓×資源価格↑(資源/情報ギャップの拡大) 国際社会の緊張増大
- 2) 21世紀前半の世界は米中関係が基軸
 - ・アメリカ～唯一超大国としての軍事的優位 but 経済力の長期低落 → 多角的バランス
 - ・2020年のGNP予測 中国/アメリカ/インド/日本/…… 世界の中心はアジアへ
 - ・覇権国アメリカの、中国封じ込め 日米関係、日中関係は、米中関係の従属変数
- 3) 中国・東アジアの動向
 - ・統一コリアの誕生？ 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
 - ・中国の将来体制？ 社会主義/市場経済の矛盾 台湾問題 中国vsアメリカ
 - ・cf 日米ガイドライン 日本の「周辺事態」に対応 台湾が入るか「曖昧」政策
 - ・アメリカは台湾を防衛⇒日本も同調⇒中国は対米衝突を避けたいので、むしろ助かる
- 4) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・地域的な重心は中国に傾く+韓国・朝鮮 アメリカは牽制してインド、日本にテコ入れ
 - ・中国とアメリカが握手しても、喧嘩しても、日本は割りを喰う ⇒ その中間に活路
 - ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『アメリカの行動原理』(PHP新書)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> ☆東京財団ウェブページで宗教講義全10回を公開中。<http://www.tkfd.or.jp/division/public/nation/ibunka.shtml>

■ Part I 一神教 ■

キーワード 契約、審判、復活、神の王国

□1□ 宗教とは何か

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS)のようなもの 優れているから普及すると限らない
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒15億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
 - ・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

□2□ ユダヤ教

- 1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか
 - ・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を発明したか?
 - ・ヤハウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 ユダヤ民族にとって救済とは?
- 2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか
 - ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できる?
 - ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜)
- 3) 「予言者」「法学者」はどういう活動をするのか
 - ・予言者~神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…
 - ・パリサイ人~モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴークは教会なのか?
 - ・ラビ~世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動

□3□ キリスト教

- 1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか
 - ・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの礎
 - ・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」
- 2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか
 - ・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?
 - ・人間は死んだらどうなるのか 誰が「神の国」に入る?
 - ・なぜキリスト教は政教分離か? 教会(法律を守る) 皇帝(信仰を守る)
- 3) なぜ、いくつも教会があるのか
 - ・東方教会(正教)~ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)~ローマ教皇
 - ・プロテスタント教会 ルターが免罪符の販売に抗議
カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
 - ・英国国教会(アングリカン・チャーチ)
 - ・イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)~反宗教改革

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

- 1) ムハンマドは、教祖なのか?
 - ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
 - ・カリフ(神の使徒の代理人)：ムスリム共同体(ウンマ)の統治者
- 2) イスラム法は、合理的なシステム
 - ・法源：クルアーン/スンナ/イジュマ/キヤース 上位の法源が優先
 - ・スンナ：ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)
 - ・イジュマ：法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
 - ・キヤース：三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法
- 3) イスラム教は「原理主義」なのか
 - ・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制
 - ・救済：地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国
 - ・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

□5□ 聖書を読む

- 1) 創世記 Genesis
 - ・人間は、2通りに造られた 1.27 男と女の創造、2.21-23 男から女を創造
 - ・バベルの塔~言葉と民族の起源 11.1 同じ言葉 11.7 言葉をばらばらにする
 - ・神の言動はときに矛盾する 17.16 神の祝福 22.2 神はイサクの犠牲を命じる
- 2) 出エジプト記 Exodus
 - ・神には名前がない 3.6 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神
 - ・十戒 Ten Commandments 20.1-17 20.16 偽証してはならない(法廷での規範)
 - ・人道的律法 22.20-26 寄留者、寡婦、孤児、貧窮者の保護規定
 - ・偶像崇拜 32.1-6 金の子牛を造る 32.10 神は絶滅を決意し翻意 32.28 三千人を殺害
- 3) 新約聖書
 - ・イエスの系図 マ1.1-17 ダビデの子 マ 出生の記事なし ム1.18 独り子の神
 - ・悪魔の誘惑 マ4.1-11 →参考「日本人はなぜ論争が下手なのか」

■ Part II 仏教 ■

キーワード：法、戒律（波羅提木叉）、菩薩

□6□ 仏教

1) 初期仏教

- ・法前仏後 (cf 神前法後) 法～dharma → 覚り → 仏陀 (覚者) Bhudda
- ・釈尊 (釈迦牟尼世尊) 修行→中道 三 (四) 諦・八正道 無常 苦 × 輪廻 × 靈魂
- ・サンガ (僧伽) 羯磨 和合 戒律～波羅提木叉 授戒 阿含經 仏典結集
- ・經・律・論 三歸依 (仏・法・僧=三宝) 阿毘達磨
- ・部派仏教 仏像 仏塔信仰 (卒塔婆) 上座部 (南伝) / 大衆部 × 小乗

2) 大乘仏教

- ・大乘非仏説論 (富永仲基) 般若經→浄土經・法華經→華嚴經 大乘教仏塔信仰起源説
- ・菩薩 歴劫成仏 過去仏 現在多仏 (阿弥陀仏、阿闍仏、…) 極樂往生

3) 密教

- ・大日經～胎藏界曼荼羅 金剛頂經～金剛界曼荼羅 即身成仏 真言陀羅尼

□7□ 中国と日本の仏教

1) 天台宗

- ・漢訳仏典 教相判釈 天台の五時教判 禪宗～達磨大師 大乘戒

2) 禪宗

- ・達磨大師 戒律を否定→清規 只管打坐 不立文字 公案

3) 浄土宗・浄土真宗

- ・法蔵菩薩の四十八願 阿弥陀三尊 専修念仏 親鸞～非僧非俗 悪人正機説

4) 日蓮宗

- ・法華專持 (天台の五時教判の拡大解釈) 日本～仏国土 cf 仏教原理主義
- ・日蓮正宗 日蓮=本仏 (釈迦仏と同格) 仏典+御書 板曼荼羅=本尊 ⇒ 創価学会

Q オウム真理教は、仏教なのか？

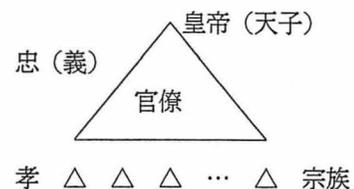
■ Part III 儒教 ■

キーワード：君子、聖人、天、孝/忠 (義)

□8□ 中国という社会 ……『隣りのチャイナ』チャイナ原論

1) 中国社会の基本構造

- ・全国を統一する官僚機構/底辺の宗族、の二重構造 ～ 差別道徳
- ・大陸平原の農耕社会 ⇒ 家族・親族を重視 (農村の地域的結合はむしろ弱い)



2) 中華共同体

- ・多民族の紛争社会 ⇒ 漢字の成立 漢字 (表意文字) は人為的な共通言語
- ・都市型の文明 統一政權が成立することによる公共サービス (政治) に依存
- ・商人、軍人に対して官僚が優位 土地所有權が不安定

□9□ 儒教

1) 孔子

- ・「伝統を重視する教育者」が、なぜ革新的な思想家だったのか
- ・經・論・疏 十三經 礼=政治制度 徳治主義 士・大夫 王道/霸道
- ・官僚制原理～義 (忠) vs 親族原理～孝 孝は絶対的だが、忠は条件つき

2) 孟子

- ・湯武放伐論 君主が暴君の場合、反逆は許される→易姓革命 文武両道

3) 朱子学

- ・太極→理・氣→五行→万物化生 読書人 (正氣を多く受けるひと) → 科挙 → 官僚
- ・正統論 南宋 (正統王朝) が元 (夷狄) に圧倒される 朱子は抗戦派

■ Part IV 日本教 ■

キーワード：忠孝一如、英靈

□9□ 日本儒学と国学

1) 日本儒学

- ・山崎闇斎 仏教→儒学→神道 幕府の正統性を否定 ⇒ 浅見綱斎『靖献遺言』
- ・伊藤仁斎 朱子の注釈を批判 孔子の原義に戻る ⇒ 荻生徂徠

2) 国学

- ・賀茂真淵 ⇒ 本居宣長『古事記伝』：古代日本語の復元 ⇒ 平田篤胤
- ・水戸学 『大日本史』 南北朝正閏論争、武家政権論争 ～ 『神皇正統記』

3) 日本は儒教社会なのか

- ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会 (年長者絶対) + 官僚制 (君主絶対)
- ・日本的儒学 忠孝一如 (父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒ 天皇制、日本株式会社 参考) 丸山眞男 1952 『日本政治思想史研究』 東京大学出版会
- 山本七平 1983 『現人神の創作者たち』 文藝春秋 → 1997 山本七平リヴイヴ

□10□ 神道

1) 神と仏を、同時に拝むことができるか？

- ・仏教…哲学的合理主義…世界の实在を否定 × 自己 × 靈魂 × 先祖崇拜 × 葬儀
- ・本地垂迹説：仏陀の神々 法華經の本仏思想がヒント
- ・切支丹弾圧 → 宗門人別帳 → 仏壇・位牌・葬式仏教

2) 「英靈」は神道の考えなのか

- ・垂加神道 (山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神の子孫
- ・平田神道 (平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 → 靈は現世に实在 ～ キリスト教
- ・「国事殉難者」を祭祀する儀礼：招魂社 (臨時) → 靖国神社 (常設) 英靈共同体
- ・国家神道：天皇を現人神とする儀礼 「神道は宗教にあらず」：1945までの公式見解

3) 政教分離とは何か

- ・もともと、宗教は強力なので、政治に干渉してはならない、という意味だった。 ⇒ 政治は強力なので、宗教に干渉してはならない、という意味になった。
- ・文化財としての神社仏閣に対する援助？ 宗教教育をする私立学校に対する助成？ 公共建築や土木工事の儀礼 (地鎮祭など)？ 閣僚が「公式参拝」をすること

松下政経塾
宗教・哲学
講座第5回

グロチウス『戦争と平和の法』

2006.11.9
橋爪大三郎
(東京工業大)

Hygonia Grotti 1625 *De jure belli ac pacis* Paris

Hugo Grotius n.d. *On the Law of War and Peace* Kessinger Publishing

グロチウス 一又正雄訳 1989 『戦争と平和の法』(全3巻) 酒井書店(復刻版)

□1□ グロチウスの生涯

めっちゃめっちゃな勉強家。しかし、ただの秀才ではない。度胸も根性もある。

資料編【1】を参照のこと。

□2□ グロチウスはなぜ人気がないのか

1) 『戦争と平和の法』の主張

- ・主権国家は、戦争をする権利がある。 →すべての戦争は合法。ただし、戦争のやり方に気をつけなさい。 ……戦争論者
- ・とは言え、戦争は、悲惨なので、なるべくやらないほうがいい。 ……平和論者

2) 日本国憲法と、戦後平和主義

- ・第九条「戦争放棄、軍隊は持たない」 Q: 放棄するのだから、交戦権があった?
- ・主権在民～日本国民は主権者
- ・「自衛権」論争……自衛権は、制定法(第九条)では廃棄できない固有の自然権だ

3) グロチウスは、自然法論者

- ・国際社会(主権国家の集まり)は、自然法にもとづいている。
- ・戦後世界……パリ不戦条約+ヤルタ・ポツダム体制: 戦争不法論(→東京裁判)
⇒ グロチウスに立脚すると、戦後の国際秩序を否定することになる?

★主権 sovereignty ……個人の自由や人権と並行して析出する、統治権力の性質。

中世: 濃厚な中間集団・伝統・共同体 ⇒ 近代: 主権国家/中間集団/自由な個人

□3□ グロチウスの法思想の特徴

1) 自然法論

- ・神の法/自然法/国王の法(制定法) 自然法: 神の法のうち理性が発見できる部分
- ・国際法は、自然法
万民法: すべての国家の、または、数多くの国家の法
意思法: 神の意思法(旧約聖書、新約聖書)+人間の意思法

2) 私法と公法が連続的

- ・物権法(所有の概念)と、国際法(正しい戦争の理由)とが連続している。

・ただし、国家(戦争をする権利がある)と私人(戦争する権利がない)を峻別。

3) 実務的、実際の

- ・多くの論拠(ギリシャ・ローマ法、聖書、学説)を公平に引用 人道的結論
- ・彼自身が政治犯で亡命者 →国家権力が人民を保護し、人民を迫害しないよう注意

□4□ 戦争

1) 戦争: 《力によって争う人びとの状態》1-45

- ・戦争は自然法に反しない ←その根拠 キケロ『目的論』/クセノフォン/ホラチウス/ルクレチウス/ガレン/ウルピウス/創世記14-20, 出エ17-9, 申命記20-10&15, 士師記11, ヘブル書11-33, サム前25-28, 創世記9-5, 4-14, 4-24 /テモテ前12-1, ロマ14-3, 使徒行伝4-25, 13-33, ……

・公戦: 《法権を有するものの権威によって行なわれるもの》1-130 ←→私戦

・主権 定義 1-143

2) 自衛のための戦争

- ・《戦争を行なう正しい原因は、危害を受けること以外》にはありえない。 1-244
- ・防衛のため、無害の者を殺害しうる 1-247
- ・財産を守るため、盗賊を殺害しうる 1-255

3) 危機的状態

- ・必要に迫られて生命のために必要な物を奪っても、盗賊行為にならない ニューリンズ
- ・敵が侵入する確実な危険があれば、平和な領土を占領できる 1-279 韓国

□5□ 条約

1) 条約 主権の命令によって結ばれる

要認条約 主権の承認(たとえば議会の批准)が必要

- ・不平等条約……あるものが他方に援助を与えるが他方より援助を受けぬ cf 日米安保

2) 使節権(外交権)

- ・使節権は、万民法から生ずる。
- ・《国家を構成しない海賊および盗賊は万民法を援用できない》 2-661

3) キリスト教

- ・《キリスト教を受入れようとしぬ者に…戦争を行なうことは正しくない》 2-756
- ・《キリスト教徒を…残忍に扱うものに対しては戦争は正しく行なわれる》 2-765

□6□ 戦争の原因

1) 不正な戦争の原因

×隣人の権力に対する恐怖 ×隣人の軍備

2) 疑わしい戦争の原因

意見がわかれている場合には、戦争をしないのがよい

3) 正しい原因があっても、戦争はしないほうがよい

□7□ 戦争の権利

1) 戦争でできること

- ・《戦争においては、目的のために必要なことは、許されうる》3-903
- ・敵の同盟者は、敵
- ・戦争に必要なものを敵に供給する者は、敵
- ・《海賊で一杯の船或は盗賊の充満した家は、たとえ…無害のもの達が…危険を受けるとしても、…破壊しうる》3-905

2) 戦争の作法

- ・宣戦 正式の戦争であるためには、宣言と通告が必要 cf 真珠湾

3) 敵を殺害する権利

- ・敵の身体と財産を害することは許される 捕まった兵士は、殺人・盗賊で処罰されぬ
- ・敵国の住民は、害しうる
- ・加害権は幼児・女子・捕虜にも及ぶ
- ・万民法は、毒殺を禁ずる。武器に毒を塗るのも禁止。戦場の婦女暴行は犯罪。

□8□ 捕虜

1) 万民法によると、戦争中に捕らえられた者は、奴隷 cf アメリカ黒人奴隷

⇒ 内乱では、捕虜は奴隷にならないので、多くが殺された

- ・戦後復権 戦争中に自国に向かって逃亡した捕虜は、自由になる

2) 戦敗者に対する支配権

- ・人びとの集団の全体を、従属させることができる

□9□ 戦争と平和と人道

1) 殺戮権の緩和

- ・《無辜なるものの死は、不慮の出来事によるといえども、可能な限り、防止するように配慮すべき》3-1090 ⇒ 子供、婦女、老人、聖職者、文筆家、農民、商人、捕虜…

2) 戦争の終了

- ・講和条約は、特段の取り決めがない限り、戦争の被害には賠償責任がない

□10□ 結論

1) グロチウスは、主権国家が国際社会において従うべきルールが存在を信憑させた

⇒ 国際法の父

2) 国際社会のルールは、必ずしも制定法や条約ではなく、習慣のような不文律である

3) 強国の行動と、戦争を行なう能力が、国際社会の秩序にとって本質的な意味をもつ

…… ホッブズのような、国家権力絶対観を前提にしつつ、相対的な世界をみつめる

【1】グロチウス (Hugo Grotius 1583-1645) の生涯

- 1583 オランダの名門フロート家に生まれる。父ヤンは市政に携わり大学の理事。
- 1594 11歳でライデン大学に入学。12歳のとき、母を新教に改宗させる。
ギリシャ・ローマの歴史、哲学、天文学、数学、宗教、法律を学ぶ。14歳で卒業。
- 1598 15歳で首相一行に随行しパリを訪れ、オルレアン大学で法学博士号を取得。
16歳で弁護士となる。
- 1601 オランダ政府国史編纂官となる。
- 1604 21歳で、『捕獲法註釈』を執筆。
- 1609 26歳で、『海洋自由論』を出版。
- 1612 29歳で、『ネーデルラント近代史』を執筆。
- 1618 35歳、神学論争に巻き込まれ、国家転覆の陰謀の罪で逮捕される。
- 1619 36歳、終身禁固、財産没収を宣告される。脱獄し、フランスに亡命する。
- 1623 40歳、『戦争と平和の法』を起稿。
- 1625 42歳、『戦争と平和の法』を出版。カトリック教会で禁書となる(～1901)。
- 1631 48歳、オランダに帰国したが逮捕状が出て、ハンブルグに逃れる。
- 1634 51歳、駐仏スウェーデン大使となる。パリで10年間、外交官として過ごす。
- 1645 62歳、旅先の北ドイツで病に倒れ、牧師の祈禱を求めて、死去する。

【2】目次

献辞

序言

第一巻

第1章 戦争とは何か、法とは何か

第2章 戦争を行なうことは、いかなる場合に正しいか

第3章 公戦と私戦の区別、主権の説明

第4章 従属者の優位者に対する戦争

第5章 いかなる者が合法的に戦争を行なうのか

第二巻

第1章 戦争の原因、第一、自己および財産の防衛

第2章 人びとに共通する属性について

第3章 物の原初的取得について、特に海および河川について

第4章 推定的抛棄およびこれに続く先占について、ならびに使用取得および時効取得との相違について

第5章 対人権の原初的取得について、ならびに親権、婚姻、結合、および従属者と奴隷に対する権利について

第6章	人間行為による承継的取得、ならびに支配権および支配権に属するものの譲渡について
第7章	法規によって行なわれた承継的取得、これには無遺言相続も含まれる
第8章	通常万民法より生ずると言われる取得について
第9章	支配権または所有権はいつ消滅するか
第10章	所有権より生ずる義務について
第11章	約定について
第12章	契約について
第13章	宣誓について
第14章	最高支配権を有するものの約定、契約および宣誓について
第15章	条約および要認条約について
第16章	解釈について
第17章	危害によって生じた損害、およびそれより生ずる義務について
第18章	使節権について
第19章	埋葬権について
第20章	刑罰について
第21章	刑罰の分配について
第22章	不正な戦争原因について
第23章	疑いある戦争の原因について
第24章	正しい原因のためにすら、戦争を無謀に行なうべきでないことについての忠告
第25章	他人のために行なう戦争の原因について
第26章	他人の支配権の下にあるものが行なう戦争の正しい原因について

第三卷

第1章	戦争においていかほどのことが許されうるか、自然法による一般的規則、ならびに奇計ならびに欺罔について
第2章	万民法によれば、従属者の財産は、いかにしてその支配者の債務によって拘束されうるか、ならびに報復について
第3章	万民法に従って正しい、あるいは正式な戦争について。さらに宣戦について。
第4章	正式の戦争において敵を殺害する権利、およびその他の身体に加えられる暴力について
第5章	荒廃と略奪について
第6章	戦争において捕獲したものの取得権について
第7章	捕虜に対する権利について
第8章	戦敗者に対する支配権について
第9章	戦後復権について
第10章	不正なる戦争において行なわれる事柄に関する警告
第11章	正戦における殺戮権の緩和
第12章	荒廃その他類似の事柄における緩和
第13章	捕獲物に関する緩和
第14章	捕虜に関する緩和

5

第15章	支配権の取得に関する緩和
第16章	万民法によって戦後復権を有さないものに関する緩和
第17章	戦争において中立なる者について
第18章	公戦における私人の行為について
第19章	敵相互間の信義について
第20章	戦争を終了せしめる公的信義について、ならびに平和条約について、抽籤について、合意による戦闘について、仲裁裁判、降伏、人質および担保について
第21章	戦争中の信義について、ならびに休戦、護照権、捕虜の償贖
第22章	戦争における下位権力者の信義について
第23章	戦争における私人の信義について
第24章	黙示的信義について
第25章	結論、信義と講和の勧奨

【3】内容のあらまし

3-1 自然法が国際法を基礎づける

1) ○序言 (プロレゴメナ)

○第一巻第1章 戦争とは何か、法とは何か

・自然法 (jus naturale) : 《正しき理性の命令》1-52

・意思法 (jus voluntarium)

神意法 (jus divinum voluntarium) : 《神の意思にその淵源を有する法》1-59

《最も聖なる法…は、自然法…よりも…いっそう道徳的》1-28

人意法 (jus humanum) → 国民法 (jus civilis) / 国民法より狭い法 / 万民法

・万民法 (jus gentium) : すべて、あるいは、複数の国家間の法 (大いなる世界 magna universitas) の利益を考慮する) 1-12

《敵国間においては成文法、すなわち国民法は効力を失うが、不文法、すなわち自然法が定め、または万民の合意が定立したところのものは依然効力を有する》1-16

・法の証明……自然法 / 万民法 / 国民法 アリストテレス / 歴史 / 聖書 / 宗教会議 / 法学者

・戦争 (定義) : 《力によって争う人びとの状態》1-45

2) ○第2章 戦争を行なうことは、いかなる場合に正しいか

○第3章 公戦と私戦の区別、主権の説明

・戦争は自然法に反しない。《自然の状態において自己を保有し…反するものを斥けるのは、第一の義務である。》1-76 ← 歴史・合意・万民法・神意法・福音書の法 / 教会

・公戦 : 《法権 jurisdictionem を有するものの権威によって行なわれるもの》1-130

私戦 : そうでないもの 公私混合戦 : いっぽうにおいて公戦、他方において私戦

・戦争が万民法によって正式である : 1) 双方の国家で、主権 summa potestas を有する者の権威によって行なわれること、2) ある形式を遵守すること。1-137

・主権 : 《ある者の行為が、他の者の権利に従属せず、従って他の者の人的意思の決定によって無効とせられえないとき、かかる権力》1-143

8

《たとえ主権を行使するものが、人民や神に対してある約束をしても、主権は最高であることをやめない》1-164

《主権は単一的で、それ自体分割しえない》1-166

《不平等同盟条約によって拘束されるものも、主権を保有しうる》1-174

4) ○第4章 従属者の優位者に対する戦争

- ・《優位者に対する戦争は、自然法によれば許されない》《国家は公の平和と秩序のために、普通の反抗権を禁じうる》1-203 ヘブライの法、福音書の法も同様
- ・《下位の長官は、より下位の者からみれば公人 *persona publica* であるが、より上位の者から見れば私人 *privatus* である。》1-211
- ・《もし王…がその主権を譲渡し、または明らかに抛棄するしたと考えられる場合》《王が全人民を破滅せしめんとする真の敵意を有する場合》、王は私人の地位に戻るので、王に対して戦争を起こすことができる。1-222f

3-2 自衛のための戦争

1) ○第二巻第1章 戦争の原因 第一、自己および財産の防衛

- ・《戦争を行なう正しい原因は、危害を受けること以外には他に何も存しえない》1-244
- ・《生命を危うくする目前の危害が加えられ、他の方法によって避けられぬ場合は、たとえ加害者の殺害を含むとも、戦争が許される…》《この防衛権は、自然が各人に対して与えたという事実…淵源を發するのであって、加害者の不正または犯罪から發するのではない。》1-247
- ・《防衛または逃亡のため…妨げとなる無害の者を、殺害し蹂躪しうるか…。自然のみを考慮するならば…個人の保全に対する考慮のほうが、確かにより大である。しかし…福音書の法規は、明らかにこれを許さない。》1-247
- ・《加害者が武器をとり、しかも殺害の意図が明らか場合は、その犯罪に対して機先を制することができる…。しかしすべての種類の恐怖に対して、機先を制して殺害を行なう権利を認める人びとは非常に間違っている》1-248
- ・《財産を守るために、盗賊を、必要ならば殺害しうることを、予は否定しない》1-255
- ・《私戦では…単なる防衛のみが考えられるが、公戦では防衛のみならず、復讐の権利をも有する》1-260
- ・《万民法に従えば…攻撃を受ける可能性が、攻撃を行なう権利を与えるということは、あらゆる衡平の原則にまったく反する》1-261

2) ○第2章 人々に共通に属する物について

- ・《海は、私有権に属しえない…。海は広大であってすべての人民の、用水、漁獵、航海などいかなる用途にも充分であるから》1-273
- ・《占有せられざる土地は、全体として人民によって保有されぬ限り、これを占有する個人に帰属する。》1-274
- ・《国民法は、自然的自由を制限を設け、自然によって許されるものを禁ずることができ、…自然法によって許容されるような所有権の取得さえも、予め妨げうる》1-275
- ・《最大の必要のある場合においては、原始的な物の使用権が、共有状態を続けるがごとくに復歸する…》《航海でもし食物が不足してくる場合は、各人が有するものは、すべ

て共有としなければならぬ…。火事が起こった場合は、予の建物の防衛のために、隣人の建物を破壊することもできる…。予の舟を捉えた綱や網を切断できる…。》1-276

- ・《必要に迫られて、その生命のために必要なものを、他人から奪っても、盗賊行為を犯したとはならない》1-277
- ・《敵がその場所に侵入し、かつ回復しえざる損害が生じるかもしれないという…確実なる危険が存在する場合…、平和なる領土を…占領することが許される》1-279
- ・《他人の領土を通過する必要がある場合、…最初に通過の許可を求むべきであるが、拒否されるならば、力によって通過しうる…》《通過を求めて来るものが、自己に向かって正式の戦争を行なうかもしれないという恐怖は、通過を拒否するに役立つものではない》《何人も、すべての民族に対して、他の遠隔の地にあるすべての民族と交易を行なうことを妨げる権利はない》1-281ff 通過する貨物に課税はできない
- ・《貨物を搬送する人々または通過する人々に対して、…一時滞在することを許すべき》《自己の定住地を追われて避難所を求める外国人に対しては、…その永住を拒否すべきではない。》1-285f

3) ○第3章 物の原初的取得について、特に海および河川について

- ・《河川は…先占しうる》《海もまた…両岸に土地を有するものが…先占しうる》1-304
- ・《自然的境界を有する土地においては、河川は、その流れを暫時的に変更することによって、領土の境界をも変更せしめる》1-311 cf新しい河床ができた場合は、以前にあった河床の中央が領土の境界である

3-3 宣誓・契約・条約

1) ○第13章 宣誓について

- ・《たとえある者が、贖神を指して宣誓したとしても、その宣誓は拘束力がある》2-552
- ・《宣誓する者は二つの方法で拘束される。…彼の言葉が彼の意図と一致すべきこと…。…その行為がその言葉と合致すること…。》2-554
- ・《海賊または暴君に対して宣誓を行なった者は、神に対して義務を有せず、との見解は排除される》2-555

2) ○第14章 最高支配権を有する者の約定、契約および宣誓について

- ・《王としての行為と、私人としての行為を区別しなければならない…。王がなした王としての行為はすべて、あたかも共同体がなしたと同様で…かかる行為に対しては、共同体自身によって制定された法規は何らの力も有しない。》2-571
《王の私的行為は、共同体の行為ではなくして、その一部の行為であり…法規の共通の規則に従うべき意図をもってなされた行為である》2-572
- ・《王は…宣誓をなした後においては、それを無効となしえない。》2-573
- ・《いかなる人民も、またいかなる真の王も、支配権を不正に奪った者の契約によっては拘束されない》2-582

3) ○第15章 条約および要認条約について

- ・《条約は、主権の命令によってなされる。《要認条約は、主権よりかかる委任を受けない者が、本来的意味で、主権に関係ある何事かを約定するときになされる》2-586
- ・《約定は、平等的か不平等のかである。》2-591 e. g. 攻守同盟

- 不平等条約…e.g. 《あるものが他方に援助を与えるが他方より援助を受けぬ》～従属
- 《条約を締結する権利は、すべての人々にとって共通である故、宗教より生ずる区別は認められない》2-594 ⇒旧約聖書に、異教徒との条約の例がある
- 《もし条約国が双方ともに正しからざる原因で戦う場合は…双方を援助することを差し控えるべき》、《もし二同盟者が他の者に対して戦争を行ない、その各々が正しい原因を有する場合は、もし可能ならば両者に対して、例えば金と兵士を送って、援助を与えるべき》2-602
- 《条約は満期となっても、黙示的に更新されると考えるべきではない。》2-603
- 《一方当事者が条約を侵犯した場合は、他方はそれから離脱することが可能》2-603

4) ○第16章 解釈について

- 《約定の相手方は、約定をなした者に対して、正しい解釈が意味することをなすべきように、強制する権利をもたねばならぬ》2-613
- 《他の推定を欠く場合は、言葉は、その通常の意味において理解されるべき》2-614
- 《たとえ国家の状態が王国に変わるとしても、条約は継続する…。首長が変わっても、体は同一たるを失わぬからであって、…王によって行使された支配権は、依然として人民の支配権である》2-625 《約定自体は、相続者をも拘束しうる》2-626
- 《書類は契約の実質的部分としてではなく、証拠として用いられる》2-638

3-4 使節・埋葬・刑罰

1) ○第18条 使節権について

- 使節権は、万民法から生ずる。
- 使節権は、最高支配権を有するものが、相互に使節を派遣する権利。不平等条約を締結したあとでも、使節権はある。《公戦に敗れ、王権…を奪われた王は使節権も失った》
- 《国家を形成しない海賊および盗賊は万民法を援用できない》2-661
- 使節権=1) 受諾されるべきこと～《理由なくして使節を斥けることを禁ずる》、2) 不可侵～《危険なことを企てる使節に対しては、防御することを許されるが、刑罰を課しえない》2-662 《使節は接受国の領土外にあるものとされる》2-665

2) ○第19章 埋葬権について

- 《万民法から、屍体の埋葬の義務が生ずる》2-678
- 《すべてのものは、公敵をすら埋葬すべきであると考える》2-683
- 《埋葬の否認によって戦争が合法的に行なわれた》2-688

3) ○第20章 刑罰について

- 《キリスト教を受入れようとしぬ者に対して戦争を行なうことは正しくない》2-756
- 《キリスト教徒を、その宗教のためにのみを以て残忍に取扱うものに対しては戦争は正しく行なわれる》2-765

3-5 戦争の原因

1) ○第22章 不正なる戦争の原因について

- 《正当化しうる原因 *causa justificata* と誘因 *causa suasoria* の区別》2-822
- 《これら二原因を欠く戦争は野蛮である》2-822

- 《ほとんどすべての場合…、戦争を行なう者は誘因を有するが、正当化しうる原因は、これを有することもあり、また有しないこともある》2-824
- ×隣人の権力に対する恐怖 ×隣人が…要塞を築造する ×利益
- 《正当化しうる原因を欠かぬ場合は、…戦争自体をも、本来的な意味における不法となすものではない。それゆえ、かかる戦争から賠償の義務は生じない。》2-834

2) ○第23章 疑いある戦争の原因について

- 《無辜のものを有罪とするよりも、有罪のものを放免するほうがまし》2-844
- 《戦争は、その結果、無辜のものにすら、通常多くの災害を与える…。それ故、意見が全く岐れている場合は、平和のほうに向かうべきである。》2-845
- 戦争を避ける方法……1) 会議、2) 仲裁、3) 抽選
- 《戦争は訴訟と同様、双方に正しいということはありません。…しかし両交戦国ともに不正に戦争を行なわないということが生じうる》2-851

3) ○第24章 正しい原因のためにすら、戦争を無暴に行なうべきでないことについての忠告

- 《はるかに強大であるもの以外は、処罰をさしひかえるべき》2-866
- 《余儀なき場合でなければ、戦争を行なうべきではない》2-867
- 《最大の好機において最大の原因を有する場合以外、戦争を行なうべきでない》2-867

4) ○第25章 他人のために行なう戦争の原因について

- 《戦争は従属者のため正しくこれを行ないうる》2-875
- 《戦争は、平等または不平等同盟条約国のためにも正しく行なわれうる》2-878
- 《原因の区別なく、いかなる戦争にも援助を与えるべき意図を以て約した軍事同盟は…許されえない》2-883

5) ○第26章 他人の支配権の下にあるものが行なう戦争の正しき原因について

- 《彼らが兵務につくことを命じられた場合、もし戦争の原因が不正であることが彼らに明らかであるならば、兵務につくことを全く避けるべきである》2-888
- 《敵が従属者の生命を助けることが可能なるにかかわらずこれも絶対に拒否するとき意図をもってやってくるのが確かな場合は、これらの従属者は、万民法によっては取り去られないところの自然法によって自らを防衛しうる》2-895

3-6 戦争の権利

1) ○第三卷第1章 戦争において、いかほどのことが許されうるか。自然法による一般的規則、ならびに奇計および欺罔について

- 《戦争においては、目的のために必要なことは、許されうる》3-903
- 《予に危害を加えるものに、その同盟者として、或はその従属者として加担するものは彼らに対して予を守る権利を予に与える》3-905
- 《海賊で一杯の船或は盗賊の充満した家は、たとえ同じ船または家のなかに僅少の幼児、女、…他の無害のもの達がそれによって危険を受けるとしても、…破壊しうる》3-905
- 《戦争に必要なものを敵に供給するものは敵側である》3-907
- 《戦争を行なうものは通常、彼らの原因の正しさとその権利の行使の意図を明らかにしめる目的を以て、他の人民に向かって公の宣言を行なう慣わしである》3-908

- ・《隠密は、特に国事を行なう者にとっては、全く必要であり、且つ不可避》3-911
- 2) ○第3章 万民法に従って正しき或は正式なる戦争について。さらに宣戦について
 - ・《正式の戦争の性質には、それが主権を有するものによって行なわれることが必要》
 - 《戦争が…正しくあるためには、…それが正式に宣言され、…この通告が…公的になされなければならぬ》3-953
- 3) ○第4章 正式の戦争において敵を殺害する権利、およびその他の身体に加えられる暴力について
 - ・《敵の身体と財産を害することは…許される。…外国の領土内で、たまたま捕らえられた者は、その原因のため、殺人者或は盗賊として罰せられえない…。》3-967
 - ・《現に武器をとるもの、或は戦争を行なっているものの従属者のみならず、さらに、敵国の領土内にあるすべてのものに適用される…。》3-970 cf戦争が開始された後に、戦争を知りながら敵国領土に入り来たった外国人
 - ・《他の領土の法が妨げない限り、敵の従属者はいづこにおいても、これを害しうる》
 - ・《加害権は、幼児と女にすら及ぼされる》3-972
 - ・《加害権は、捕虜に対してすら、いかなる時も及ぼされる。》3-973
 - ・《この権利は、無条件降伏したるものにすら及ぼされる》3-974
 - ・《万民法によれば、何人をも毒殺することは禁ぜられる》3-976 《武器に毒を塗り、或は水に毒を入れることは禁ぜられる》3-977
 - ・《戦争における婦女に対する暴行は、…平時におけると同様、戦争においても不罰であってはならない》3-981

3-7 捕虜

- 1) ○第7章 捕虜に対する権利について
 - ・《万民法によれば、正式の戦争中に捕らえられた者は、すべて奴隷になる》3-1031
 - 《かかる奴隷に対しては、いかなる苦痛を与えても咎めなく、あらゆる行為を、いかなる風にも命令し、強制しうる》3-1033
 - ・《内乱では、捕虜を奴隷にしえないために、多くの場合、彼らが殺害された》3-1034
 - ・《戦争の継続中自己の同胞に向かって逃亡するならば、戦後復権によってその自由を回復するが、もしその同胞以外のものに向かって逃亡するならば、或は講和がなされた後は、たとえ自己の同胞に向かってすら逃亡するとしても、その主人が彼を請求するときは、返還されるべきである》3-1035
 - ・《キリスト教徒は、その相互間に発生した戦争において捕らえられた者を奴隷にしないが、これを売買すること、苦役を強制すること、および奴隷にふさわしい事柄を課すことを全般に認めている》3-1038
- 2) ○第8章 戦敗者に対する支配権について
 - ・《人々の集団の全体を、或は単に国家的、或は単純に個人的、或は混合的たる従属によって、自己に従属せしめ得る》3-1042
- 3) ○第9章 戦後復権について
 - ・《領土は戦後復権によって回復される》3-1059

3-8 戦争と人道、講和

- 1) ○第11章 正戦における殺戮権の緩和
 - ・《無辜なるものの死は、不慮の出来事によるといえども、可能な限り、防止するように配慮すべき》3-1090 →子ども、婦女、老人、聖職者、文筆家、農民、商人、捕虜…
 - ・《無条件にて降伏する者もまたこれを助命すべきである》3-1097
 - ・《すべて無用なる戦闘は避けるべきである》3-1101
- 2) ○第19章 敵相互間の信義について
 - ・《敵が何たるやを問わず、敵に対して信義を守るべきである》3-1180
 - ・《信義は不信なる者に対してすらこれを遵守すべきである》3-1190
- 3) ○第20章 戦争を終了せしめる公的信義について、ならびに平和条約について、抽籤について
 - ・《王国においては、講和締結権は王に属する》《貴族国または民主国においては、講和締結権は多数者に属する》3-1200
 - ・《別段のことが合意されない限り、すべての講和条約においては、戦争によって生じた被害のためには、何らの賠償責任がないと…取り決められていると考えなければならぬ》3-1206
- 4) ○第21章 戦争中の信義について、ならびに休戦、護照権、捕虜の償贖について
 - ・《休戦は、戦争の継続中、一時戦争行為を差し控えるところの協定である》3-1236
 - ・《もしも休戦の信義が一方当事者によって侵犯された場合は、被害者が戦争を宣言することなく、武器をとる自由を有する》3-1243
 - ・《私人の行為は休戦を破棄しない》3-1244
- 5) ○第25章 結論。信義と講和の勧奨
 - ・《戦争においては、常に講和を目標とすべきである》3-1274 《またたとえ損害を受けるとも、講和を受諾すべきである。……これは戦敗者にとって有利である。これは、戦勝者にとっても有利である。》3-1274f
 - ・《講和は、締結されたる時は、最高の慎重さを以て守るべきである。》3-1276

松下政経塾
宗教・哲学
講座第6回

アレント『全体主義の起源』

2006.11.16
橋爪大三郎
(東京工業大)

Hannah Arendt 1951 The Origins of the Totalitarianism, Harcourt, Brace & World.

Hannah Arendt 1955 Elemente und Ursprünge totaler Herrschafts, Europäische Verlagsanstalt.

ハナ・アレント 1972-1974『全体主義の起源 1~3』大久保和郎・大島通義・大島かおり訳、みすず書房

川崎 修 1998『アレント 公共性の復権』講談社 →2005『アレント 公共性の復権』(現代思想の冒険者たち Select)講談社

□1□ ハナ・アレント(Hannah Arendt 1906-1975)の生涯

- 1906 ドイツのハノーヴァー郊外に生まれる。ユダヤ系の中流家庭で、両親は社会民主党員。
- 1913 父パウル、病気で死亡。
- 1919 スパルタクス団蜂起でローザ・ルクセンブルク殺害される。ワイマール憲法施行。
- 1924 マールブルク大学で、ハイデガーの学生となり哲学を学ぶ。恋人同士となるが、翌年には解消。ハイデルベルク大学でヤスパースの学生となる。
- 1926 シオニストのクルト・ブルクレーンフェルトと出会う。
- 1928 博士論文「アウグスティヌスにおける愛の概念」を完成。
- 1929 ギュンター・シュテルンと結婚。数年で破綻。
- 1933 反ナチ活動で逮捕。母と共にフランスに亡命。ハイデガーがフライブルク大学総長に就任、ナチ党員となる。
パリでシオニズム運動に加わる。アレクサンドル・コジェーヴ、サルトル、アルベール・カミュ、ベンヤミンらと親交。
- 1940 ハインリッヒ・ブリュッヒャーと再婚。
- 1941 フランスを脱出、アメリカに亡命。評論活動を行なう。
しだいにシオニズム運動から離れる。
- 1945 「ユダヤ文化再建委員会」に従事。
- 1950 ドイツにハイデガーを訪問。
- 1951 アメリカの市民権をうる。『全体主義の起源』出版。
- 1958 『人間の条件』出版。
- 1963 『イェルサレムのアイヒマン』出版。
- 1968 ニュースクール・フォー・ソーシャルリサーチの教授に就任。
- 1975 心臓発作で死去(69歳)。

□2□ I 反ユダヤ主義 Antisemitism

1) ☆緒言 (一九六八年の英語分冊本より)

- ・《十九世紀の世俗的なイデオロギーとしての反ユダヤ主義…この反ユダヤ主義という名称は一八七〇年代以前には知られていなかった…と、…宗教的なユダヤ人憎悪とは、明らかに同一のものでない。》(iii)
- ・《ユダヤ人の…キリスト教の環境からの疎隔は、…キリスト教徒や非ユダヤ人の敵意ではなく、…自発的な分離によるところが大きかった》(vii)
- ・《シオニズムは一種の反イデオロギー、つまり反ユダヤ主義に対する回答だった》(ix)

2) ☆第一章 反ユダヤ主義と常識

- ・×《反ユダヤ主義がナチイデオロギーの核心…をなしたことは偶然でしかなかった》(1)
- ×《反ユダヤ主義をショービニズム(排外主義)や外国人嫌いと同じ視》(2)
- 《反ユダヤ主義は伝統的な国民感情…が強度を失っていくのに正確に比例して成長》
- ・《反ユダヤ主義は、ユダヤ人が社会生活のなかでその機能とその影響力を失い、富のほかにもはや何ものも所有しなくなったときに頂点に達した》(4)
- ・《テロルというものが…敵を威嚇し追払うため…ではなく、完全に従順な大衆を…支配する恒久的な支配手段となっているということが、全体主義的な支配形式》(6)
- 中間段階…《テロルはイデオロギー的に正当化されねばならぬ》(7)
- ・《近代反ユダヤ主義の成立と成長は、ユダヤ人の同化の過程、ユダヤ教の…世俗化および消滅…と時を同じくしている》(9)

3) ☆第二章 ユダヤ人と国民国家 ☆1 解放の曖昧さとユダヤ人の御用銀行家

- ・《宮廷ユダヤ人はすでに十七世紀にごく普通のものになりはじめ…十八世紀中葉には…ヨーロッパのほとんどすべての宮廷に属していた》(18) 特権～請願
 - ・ユダヤ人は《産業資本にはほとんど…参加していなかった》(21)
 - ・十九世紀、《絶対主義君主制は…国民国家に変わった》(24) ⇒《ブルジョワジーも国家業務から遠ざかっている…という贅沢な真似はできず、…ユダヤ人は帝国主義時代の最初の二三十年間、つまり十九世紀末葉のあいだに、国債および国家への貸付業務における独占的地位を急速に失った》(25)
 - ・《ユダヤ人と国家との関係の異常性は、みずからの政治的代表を持たない一つの民族がある政治的役割を無理やりに負わされてしまったという事実》(40)
 - ・ユダヤ人の経験…《地方官庁に頼るよりも一国の最高権威に依存するほうが有利で安全であり、真の危険はつねに下層民から来る》⇒しかし、予想外なことに《国家の権威によって指導された合法的な反ユダヤ主義》(41)が現れた。
《国家の権威と衝突したすべての社会階層は反ユダヤ主義的になった》(46)
 - ・ロスチャイルド家 《国際的な商業カースト…家族的コンツェルンとしてのユダヤ人の観念は繰返し現れ、やがて…全能の秘密結社といった幻想に変わる》(50)
- #### 4) ☆2 プロイセンの反ユダヤ主義からドイツにおける最初の反ユダヤ主義まで
- ・《反ユダヤ主義とユダヤ人憎悪は同じものではない。…かすかなユダヤ人憎悪すら感じなかった反ユダヤ主義者が存在した…もっとも危険》(51)
 - ・《近代の反ユダヤ主義の最初の徴候》～1807年敗戦後のプロイセン～ユダヤ人解放

改革→貴族の苦境→持参金を持ったユダヤ娘を妻に→《自由主義的市民階級が…ユダヤ人と貴族と…同一視》(58)→《人々が歓迎し必要とするユダヤ人と…望ましくないユダヤ人との…区別》(58) メッテルニッヒの体制 金融ユダヤ人/貧乏ユダヤ人

- ・19世紀末の反ユダヤ主義←《プロイセン君主制をドイツ国民国家に変える…改革》(63)
- ・《ヨーロッパにおけるすべての急進的小市民運動・政党…銀行資本に反対する…は…はっきりと反ユダヤ主義的だった》(67)
- ・《初期の反ユダヤ主義政党は、…重要でないように見えたが…自分らは…「諸政党の上にある政党」であると…言明した》(69)…《ファシスト運動の…最初の明確な例》(70)《国家に対する敵意…の点で初期の反ユダヤ主義政党は…帝国主義運動と濃厚な類似を示している》(71)《民族・国家・領土というネーションの三位一体をぶちこわし…国民国家の組織を破壊するような民族概念をみつけようとする傾向が…認められる》(73)←→労働者運動～経済問題は自国内で解決～国際的な志向はうわすべり
- ・《ユダヤ民族の特殊なあり方が、反ユダヤ主義者の超国民的な計画と…社会主義者の連邦主義的な観念に…手本となった》(76)

5) ☆3 左翼の反ユダヤ主義

- ・ハプスブルグ帝室～宮廷ユダヤ人 ⇒《帝室…と対立した民族は、まず第一にユダヤ人を攻撃》(79)⇒《反ユダヤ主義はオーストリアには、…ドイツにおけるのとは格段に違った激しさではいって行った》(79)《オーストリアの汎ゲルマン主義者は…ドイツの反ユダヤ主義政党や汎ドイツ主義者と共有していた民族概念からすでに真の意味で帝国主義的な結論をひきだしていた》(84)
- ・《フランスの反ユダヤ主義は…二十世紀においてもなお、十九世紀の国民国家的な思考の…限界と範疇のなかにとどまっていた》(84)
- ・《ナチ独裁は…ドイツ的な…ヘーゲル的な<国家崇拜>によって説明されるという馬鹿げた偏見がまかり通っている。実は《全体主義の運動は<国家崇拜>どころか普通の公民的な心情すら崩れ去ってしまってからでなければ成り立たない》(86)

6) ☆4 黄金の安定期

- ・黄金の安定期：《第一次大戦前の…反ユダヤ主義の一時的な消滅をともなった…二十年間》(94)《ユダヤ人の影響力が国家機構から文化事業の領域へ…急速に移っていった》(96) ⇒《ユダヤ人は社会一般の象徴となり、…指導的な地位から締め出されているすべての人びとの憎悪の的になった。…反ユダヤ主義は…山師やえせ治療師どもの手に完全に握られてしまった》(100)

7) ☆第三章 ユダヤ人と社会

- ・《社会の偏見は、ユダヤ人が同化したと称して市民社会のなかに浸透しようとする度合いに応じて増大した》(101)《人種妄想は…平等の概念がすべての人を自分と同じものとして認めることを要求することに対する反動でもあった》(103)

8) ☆1 例外ユダヤ人

- ・《社会はユダヤ人ではなく、ユダヤ民族の例外者——例外ユダヤ人——に対してのみサロンを開いた》(105)《ユダヤ人はすべての人間は人間であることの証明になった》(107)《例外的ユダヤ人のカーストの高慢さは徐々に出来あがった》(122)
- ・《ユダヤ人実業家は事業をなし得るためには何としてもユダヤ人としてとどまらねばな

らなかったが、…ユダヤ人知識人も飢え死にするのがいやだったらせめて外見だけでもユダヤ人たることを放棄しなければならなかった》(125)

9) ☆2 ベンジャミン・ディズレリーの政治的生涯

- ・《この例外的ユダヤ人にとっては、ユダヤ人だけが秘密結社であるのではなかった。…彼は世界中の闘争は実は秘密結社のあいだで行なわれているのだという考えだった。》(146)《後に反ユダヤ主義者が考えたユダヤ人の世界制覇のイメージが…どれほど…完全にディズレリーの頭のなかに描かれていたかを見れば人は啞然とするだろう》(147)
- ・《富裕な家の出のユダヤ人たちが左翼政党に向かう傾向…。彼らの父親は工業家でなく商人および銀行家だったので、労働者階級と公然と衝突することは…なかった》(148)

10) ☆3 フォーブル・サン＝ジェルマン

- ・《プロイセンの貴族はユダヤ人のサロンへやってきたのに対して、フランスのユダヤ人は貴族のサロンへ出かけて行かなければならなかった》(155)
- ・《例外的ユダヤ人の歴史はフォーブル・サン＝ジェルマンのサロンで終わる》(169)

11) ☆第四章 ドレフュス事件

- ・《一八九四年末、フランスのユダヤ人参謀将校アルフレッド・ドレフュスは軍事法廷でドイツ帝国のためのスパイ行為を告発され、悪魔島への終身流刑を言渡された》(172)《ピカール大佐が参謀本部情報部長に任命され…一八九六年五月に…参謀総長ボワフデルにドレフュスの無罪と…エステラジー大佐の有罪を確信すると打ち明けた。…ピカールはチュニスへ追放された。》(173) →クレマンソー、ゾラ、…
- ・《ドレフュス事件の名残…は、ユダヤ人に対する憎悪と、…国家機構全体とに対する軽蔑だった》(178)

12) ☆1 ユダヤ人と第三共和制

- ・パナマ運河開鑿会社の破産→五〇万人の中産階級の生活破綻 《パナマ運河会社…と国家機構との斡旋は…独占的と言えるほどユダヤ人の手で行なわれていた》(184)

13) ☆2 軍・聖職者 対 共和国

- ・《貴族階級の社交界へ…ユダヤ人が入り込んだことの直接の結果として、ユダヤ人たちは…高級将校への進路を求めた。→《教会の力の及ぶことのないユダヤ人将校たちが高い地位に進むことにたえられないイエズス会の意志にぶつかった》(198)《ドレフュスは参謀本部に入った最初のユダヤ人》(200)

14) ☆3 民衆とモップ

- ・《モップはありとあらゆる階級脱落者*クラッセ* からなる。…モップは自分を締め出した社会と、自分が代表されていない議会を憎んだ》(204)
- ・《参謀本部によるモップの組織化は驚くべきものだった。…学生、王党派、事件屋、暴力団を組織し街頭へ繰り出させた。…ゾラの家が投石される。…ケストネールは街頭で襲われ、…「ユダヤ人を殺せ！」の呼び声は…都市に響きわたった》《反ユダヤ主義の突撃隊は街頭を支配し、ドレフュス派の全ての集会を本物の戦闘で終わらせた》(210)
- ・《当時の人びとにとって目新しく意外だったのは…モップの組織であり、モップの指導者たちに上流社会とエリートが示した英雄崇拜だった》(212)《モップが議会主義の圏外で組織化され、一握り…のドレフュス派にテロルを加え始めたとき、…阻むものはなかった》(214)

15) ☆5 大いなる和解

- ・《フランスのユダヤ人のあいだにドレフェス派がほんの少ししかいなかった》(223)
∴同化ユダヤ人は、非ユダヤ人社会が彼らに距離を置いたように、「東方ユダヤ人」に対して距離を置き、反感を彼らに転嫁できると信じた。

□3□ II 帝国主義 Imperialism

1) ☆第一章 ブルジョワジーの政治的解放

- ・《帝国主義とは通常一八八四年から一九一四年に至る三十年間を指して》いる。(1)
《ヨーロッパ…においては、ブルジョワジーの政治的解放が帝国主義時代の国内政治上の中心的出来事だった》(2)

2) ☆1 膨張と国民国家

- ・《政治の不変最高の目標としての膨張が帝国主義の中心的政治理念である》(6)
→《工業生産と経済取引の絶えざる拡大》(6)
- ・《国民国家は征服者として現れれば必ず被征服民族のなかに民族意識と自治の要求を目覚ませ…これに対しては国民国家は原理的に無防備だった》(8)
- ・《真の帝国の構造…は、本国の政治諸制度が…帝国に移しかえられて帝国の骨組みを作る…が、…帝国主義の場合には、本国…に…監督権は認められているものの、植民地行政がそれから切り離されているのが特徴である》(14)
- ・イギリス海外領土の分類 1) オーストラリア、カナダ settlements, colonies 2) インド trade stations 3) 喜望峰 maritime and military stations (17)

3) ☆2 ブルジョワジーの政治的世界観

- ・帝国主義…《輸出資本の利潤が従来の純粋な商業利潤よりはるかに大きい》(22)
- ・《権力は…政治体から切り離されて暴力として輸出されたとき、政治的行為の一つの要素からその本質となり、政治理論の一つの問題からその中心問題にのしあがった》(27)
ブルジョワジー：政治的無関心→政治支配 ホッブズの政治理念に共感
- ・《無限に進行する富の蓄積は「抵抗しえない権力」に基づいてはじめて維持されうる》(36)

4) ☆3 資本とモップの同盟

- ・《過剰となった資本と過剰となった労働力…を結びつけ…故国を離れさせたのは、帝国主義だった》(47)
- ・アフリカ争奪戦(1880年代) 国民国家は抵抗、大企業・銀行・知識人は賛成
《在外資本に対する国家の保護を要求》(46)
- ・《帝国主義政策に対する…民衆の反対が全然なかった…。…膨張は分裂した国民に再び共通の関心を与え、いま一度統一をもたらす…とさえ思われた。》(50)

5) ☆第二章 帝国主義時代以前における人種思想の発展

- ・《人種主義が帝国主義の政治的武器であることは余りにも明白な事実》(62)、《人種思想は最初からナショナルな性質の境界を、地理的境界であれ、言語的境界であれ、あるいは伝統的慣習によって決まっていた境界であれ、まったく無視していた》(63)

6) ☆1 貴族の「人種」対 市民の「ネーション」

- ・18世紀フランス最初の人種思想：ブーランヴィリエ伯 《ゲルマン系民族が、それより古い原住民族のゴール人を征服》、∴《没落しつつある貴族階級の代弁者として第三身分…に対抗し、貴族の支配の正当性を新しい論拠によって実証しようとした》(65)

7) ☆2 国民解放としての種族的一体感

- ・ドイツの人種思想 《政治的解放を勝ち取ることに失敗したドイツ市民階級は、せめて社会的解放を遂げることによって、…貴族の驕慢から逃れようとした…。この闘いの最適の武器が「持って生まれた個性」》(76)
- ・《「持って生まれた個性」の欠如、気の利かなさ、生産性の不良、生得の商売人根性など、要するに貴族が市民階級のものとして嘲笑していた属性のすべてが、今度は…ユダヤ人に押しつけられた》(77)

8) ☆3 ゴビノー

- ・《ゴビノーの『人種不平等起源論』は一八五三年に出版されたが、有名になったのはその五十年後》(79)
- ・《なぜ貴族がその地位を失…ったか…。その必然性を説明するためにゴビノーが発明したのが…人種退化説》(82) 《アリア人種は非アリア系の下層階級による民主主義化の途上で絶滅させられる危機に瀕している》(83) 《過去の歴史的出来事は、各個人における人種混合として、自分自身の魂の深層の葛藤において跡をたどることができるようになった》(86)

9) ☆4 「イギリス人の権利」と人権との抗争

- ・《イギリスのナショナリズムが階級闘争…によって妨げられずに発展できた理由は…名門貴族と市民階級との中間に位置していた…ジェントリーがブルジョワジーの上層部を絶えず同化し貴族化させ…貴族への上昇可能性が開けていた…。この過程によって貴族は国民の一部となり…強い国民的責任感を抱くようになった》(89)
- ・《結果…、淘汰とか生物学的遺伝子とかの観念がイギリスの人種理論では…支配的になった。…優生学はすべてイギリスに起源をもっている。》(89)
- ・《ヨーロッパ人がアフリカやオーストラリアで初めて原始的民族にぶつかったとき、人類成立についての聖書神話は…深刻な試練に立たされた》(90)

10) ☆第三章 人種と官僚制

- ・帝国主義時代の《官僚制とは、政治に代わって行政が、法律に代わって政令が、決定者の責任が問われうる公的・法的決定に代わって役所の匿名の規定が登場する支配形態》(104) 《ナチ支配において人種妄想と官僚制との幾重もの関係を目撃してきたわれわれにとっては、この二つの原理が本来の帝国主義にあってはそれぞれ別個に発展してきたことを認識することが重要》(106)

11) ☆1 暗黒大陸の幻影世界

- ・ケープコロニーのブーア人…《十七世紀半ばにオランダ人の移民がここで下船させられ》た。彼らは《短時日のうちに現地の野蛮な生活と余り変わらなくなってしまった。…家族単位に孤立し、広大な土地に依存した生活を営むようになり、…氏族組織へと分解していった。》(115)
- ・《アフリカ型の奴隷労働が…違う点は、奴隷が単に賤しい労働だけでなくあらゆる種類

の生産労働に使われたこと》(116) 《他人の労働への完全な依存、あらゆる生産に対する絶対的蔑視は…オランダ人家族を、…ブーア人へと変えてしまった。》(117)

《彼らは旧約聖書、特に…イスラエル宗教が民族宗教として最も強くその姿をあらゆる箇所を抛り所にした。》(118)

- 《大陸全体に犇く住民としての黒人を見たときのヨーロッパ人を襲った根源的恐怖は、他に比すべきものを持たなかった。》(121)

12) ☆2 黄金の血

- 《一八七〇年頃にキンバリーでダイヤモンド鉱床が発見された。…金鉱の発見がこれに続いた。》(124) 《ユダヤ人は…帝国主義発展の初期段階にとってきわめて重要な金融家の地位をほとんど独占していた…。ブーア人の外来人憎悪がユダヤ人に集中し反ユダヤ主義がブーア人の人種世界観に組み込まれるようになったのは当然…だった。…「白人」と区別されて一つの特異な「人種」と見られ…白人と有色人との…区別を混乱に陥れる悪魔的原理の化身のように扱われることになった》(130)

13) ☆3 帝国主義的伝統と帝国主義的性格

- 《帝国主義伝説の創作者はラディヤード・キプリング…。エリートは伝説…に…惹きつけられ、…平均的人間はイデオロギーに…、…モップは地下の世界帝国の陰謀団の暗躍物語にうつつをぬかした》(138)
- 《収奪者と被収奪者は…ともかくも同じ世界に生き…ている…。完全…な隔絶は》…《支配される側の人間を…純然たる管理対象にまで貶めてしまう》(144)
- 《官僚制…の特徴は、合法性、つまり普遍妥当性をもつ法律の不易性が放棄され、その代わりに…次々に乱発される政令が登場するという点》(149)
- アラビアのロレンス

14) ☆第四章 大陸帝国主義と汎民族運動

- 《ナチはオーストリア版の汎ドイツ運動(汎ゲルマン主義)から、…決定的影響を受けている》…《またスターリン流のボルシェビズムが汎スラブ主義に負うところは大きい》(161)
- 《大陸帝国主義は、おそらく海外帝国主義への反動として成立し…、最初から人種主義の方向をとった》(164) 《海外帝国主義は、国民国家の…政治的組織形態をとにかくも保存し…た。それに対し大陸帝国主義…は終始一貫して国家に敵対しており、…汎民族運動は…当時の革命運動の一つとみなされるべきである》(166)
- 《具体性の欠如と誇張された擬似神秘主義は汎ゲルマン主義と汎スラブ主義双方の…著しい特質》(167)
- 《帝国主義時代の特徴をなすモップと資本の同盟においては、南アフリカを例外として主導権は資本の代表者の側にあった。汎民族運動では…もっぱらモップが主導権を握っていた》(168)
- 《種族的ナショナリズムは中欧および東欧のすべての国と民族の国民的感情を決定的に規定…するものとなった》(168) 民族自決権の口実 ←膨張と征服の下心

15) ☆1 種族的ナショナリズム

- 《大陸帝国主義と汎民族運動の原動力をなしている種族的ナショナリズムは、西欧型のナショナリズムと…決定的な違いを見せている》(174) 《社会学的に言えば国民国家

は、解放されたヨーロッパ農民階級に正確に対応する政治体》(175)

- 《種族的ナショナリズムはこれら民族の根無し草的性格から生まれた》～東南欧(179)
- 《汎民族運動は自民族の起源が神にあることを説き、…人間の起源が神にあることを信ずるユダヤ教・キリスト教に対抗した》(181) 神は人間を造ったか民族を造ったか
- 《同時に起こったのが…諸民族はヒエラルヒーを構成するとみなし、その中で各民族は…「自然」に生まれながらの特性を与えられていると考える「国民的使命」の観念だった。人種イデオロギーに至っては、遂に人類の共通の起源を完全に否認し…た》(183)
- 《同じ民族に生まれたすべての人間は…同一家族のように相互に信頼しあえるという観念が登場した》(184) ～社会的故郷の代用品
- 《反ユダヤ主義は比較的後になって運動のなかに入っている》(190) 《種族主義理論…からすれば、ユダヤ人こそ民族の唯一のモデル》(191) 《同化ユダヤ人の意識こそ…種族主義ナショナリズムに驚くほど似ていた》(192)

16) ☆2 官僚制——専制の遺産

- 《汎スラブ主義の「哲学」の中心に立つのは神性と権力の同一視…。権力への奉仕はここでは文字通り神への奉仕であ…る》(206)

17) ☆3 政党と運動

- 《汎民族運動の決定的な発明は…政党制に対し根本的に異なる組織形態を対置しようとしたことである》(211)
- 《二大政党制においては一方の政党はつねに政府と同じ…。政党はここでは一時的に国家とな…る(213)。《大陸の政党制は、各政党はみずからを全体の一部と自覚的に規定し、全体は政党をこえた国家によって代表されるとする》(214)
- ファシスト党独裁 特殊利害を背景に《一党独裁のかたちで権力すなわち国家機構を握ることだけを目指していた》(219)
- 《ナチは自分たちがイタリアのファシズムの忠実な弟子以外の何者でもないというふりを出来るだけ長く装いつけるのが有利であることに気がついた》(220)
- 《現在では忘れられがちであるが、第二次世界大戦の勃発に際してヨーロッパのほとんどの国は政党制を廃止し…この革命的変革は革命的蜂起なしに行なわれた》(228)

18) ☆第五章 国民国家の没落と人権の終焉

- 第一次大戦とオーストリア・ハンガリー帝国の解体の結果 《どの民族も互いに、…近い民族を憎み合…った。》(237)
- 《少数民族…無国籍者と亡命者…の異常性は、…いかなる国家によっても公式に代表されず保護されないという点にある》《全体主義政権は…国民国家を内部から崩壊させるためこの無国籍者のグループを増大させるべく意識的に努力した》(238)

19) ☆1 少数民族と無国籍の人びと

- 《少数民族は自分たちの仲間が国家民族となっている隣国を頼り領土併合を求めたのに対し、構成民族のほうは国家機構の奪取をめざす激しい戦いと断乎たる分離運動を展開し始めた》(242)
- 《ヴェルサイユ平和会議の目的はヨーロッパに現状を回復することだったため、西欧の原理を東欧に適用する以外に…なかった》(244)
- 《国家は帰化市民に対しては自国領土に生まれた市民と同じ奪うべからざる諸権利を認

める用意がなかった》(253)

- ・《ナチ・ドイツではニュルンベルク法が帝国市民（完全な市民）と国籍所有者（政治的権利のない二級の市民）の区別を設けたが、これによって…「異種血統の」国籍所有者が政令により国籍を剥奪される道がひらかれた》(268)
- 20) ☆2 人権のアポリア
- ・《人権は譲渡することのできぬ権利、奪うべからざる権利…。人権を守るための特別な法律を作ったとすれば理に反することになる》(272)
 - ・《ところが今、政府の保護を失い市民権を享受しえず、…生まれながらに持つはずの最低限の権利に頼るしかなくなった人びとが現れた瞬間に、彼らにこの権利を保証しうる者はまったく存在…しないことが…明らかとなった。》(273)
 - ・亡命者は《そもそも自分が亡命者であることを証明することができなかった》(277)
 - ・《完全に罪ない人間から法的な人格を奪うことのほうが、その他いかなる人間から…奪うよりも明らかに容易である》(277)
 - ・《諸権利をもつ権利…というようなものが存在する》(281) 《…この人間としての特質の喪失に対応する権利、これまで人権として言及されたことすらない権利は、十八世紀の諸カテゴリーでは把握することができない。》(282)
 - ・「世界政府」は解決にならない。《人間を一人残さず…一つの組織に統合するようになった人類が、ある日…民主的な方法で…人類全体にとっては一部の人間を抹殺するほうがよいと決定する…ことは考えられないわけではな…い》(285)

□4□ III 全体主義 Totalitarianism

1) ☆第一章 階級社会の崩壊

- ・《全体主義の指導者は、自分の過去の犯罪を比類のない率直さで自慢し将来の犯罪を比類のない正確さで「予告」することで、出世のスタートを切る》(4)
《現代の大衆をモップから区別しているのは…没我性と自分の幸福への無関心》(5)
- 2) ☆1 大衆
- ・《全体主義運動は大衆運動であり、…すべての政党と異なっている》(6)
×利益政党、世界観政党（国民国家の階級代表） ×二大政党制（アングロ・サクソン）
 - ・全体的支配…歴大な数の人間が余っているとき / 全体主義運動…大衆が存在するとき
《全体主義運動の興隆に特徴的な点は、…政治的には全く無関心だと思われていた大衆…からメンバーをかき集めたことである。》(10)
《政治的プロパガンダに内戦の手法を持ち込む…。論駁する代わりに殺害し、…説得する代わりにテロルで嚇す》(12)
 - ・《全体的支配…にとっては、大衆の組織化を人種の名において行なおうと階級の名において行なおうと、…それほど重大な違いはない》(14)
 - ・《階級制度の解体は自動的に政党制度の崩壊を意味していた。これらの政党は…代表すべき利益がなくなってしまった。…政党は世界観的な「原理」しか訴えるものがなくなったため…プロパガンダは硬直しファナティックとなり、弁解がましさを帯びる》(18)
 - ・《種族的ナショナリズムも敵意…に満ちたニヒリズムも、…モップを…容易に虜にし…

たが、…大衆に対しては…それほどの威力を発揮…できない》(23)

- ・《スターリンが…とった方法は、インターナショナリズムの名において新しい少数民族を、階級なき社会の名においてソ連の新しい諸階級を絶滅したことだった》(28)
 - ・《肅清の大波が荒れ狂っている間は人々が自分自身の信頼性を証明する手段はただ一つ…自分の友人を密告すること》(35)
 - ・《どんなにマルクスとレーニンの理論を学ぼうと、党の方針が明日はどの方向…かの予測には役に立たず、…重要な知識は…前の日にスターリンが言ったことを毎朝伝える新聞からしか得られない…は、…ヒトラーが内容の論議を拒否したのと同じ効果》(38)
《考えと意志をもつのは命令者で…、彼の考えと意志を説得か権威か…暴力で、思考も意志も持たない人々に遂行させる》(39)
- 3) ☆2 モップとエリートの一時的同盟
- ・《全体主義運動の行動主義は、…テロル活動への偏愛に特にはっきり現れており、彼らはテロルをその他すべての政治的行動に優るものと看做している。》(49)
《知的エリートがモップと同じく全体主義のテロルに惹き寄せられたのは、…真の意味におけるテロリズム、一種の哲学となったテロリズムがあったから》(49)
 - ・《大衆はいわゆる職業的犯罪者よりもはるかに大きな犯罪——その犯罪が完璧に組織されて日常的な仕事にまで変えられていさえすれば——を犯す能力を持っていた》(58)
 - ・《ヒトラーにもっとも近い側近のうちには、モップの代表は一人も入っておらず、ヒムラーとゲッベルスを除くと古参党员は全然いなかった。…かつてのモップ層…は初期のナチ運動に最も有用な共犯者を供給したにもかかわらず、…ゲッベルスを除くと誰一人として真に全体主義的となった支配にふさわしく身を処す術を知らなかった》(58)

4) 第二章 全体主義運動 ☆1 全体主義のプロパガンダ

- ・《モップ分子とエリート分子に対して全体主義運動が揮う魅力はプロパガンダとほとんど無関係で…、既成のものすべてを革命とテロルの嵐に投げ込む…行動力が与える魅力である。それに反して大衆はプロパガンダによってしか獲得できない。》(63)
- ・《全体主義運動は政権を握ると…テロルは…無差別に誰にでも向けられるようになる》(64) 《例えばボルシェビキ政権が…とった方法は、プロパガンダで失業者はいないと言いくるめるのではなく、…失業給付を一切廃止してしまう…方法だった》(64)
- ・《プロパガンダは確かに「心理戦争」の不可欠の要素である。しかし…テロルは依然として基本的に全体主義政権の支配形式である。》(67)
- ・《内容がいかに荒唐無稽であろうと、…その正しさを証明しうるのは不確定の未来のみだとされる…と、…プロパガンダはきわめて強大な力を発揮する。》(71)
- ・《大衆の基本的特質は、…何らの社会的組織にも政治体にも属さず、…個別的な利害の真の混沌を示している、という点にある》(74)
- ・《殺すつもり相手の死にかけた者と定義するこの方法は、…全体主義的独裁の条件のもとでのみ完全に貫徹される》(77)
- ・《首尾一貫性の虚構の世界…は現実そのものよりもはるかによく人間の心情にかなっていて、…根無し草の大衆は…世界に適應することが可能になる》(83)
- ・《全体主義の指導者は…デマゴグではないし、…ウェーバーのいう「カリスマ的指導者」でも…ない。彼らが抜きんでているのは、事実と対立する完全な虚構の世界を築く

に適切な要素を既成のイデオロギーから選び出す…確かさなのである。》(96)

《ナチは実際の行動において、あたかも世界はユダヤ人に支配されており、それに対抗する陰謀をもってしか世界を救うことはできないかのように振舞った》(97)

- 《イデオロギーとしてのナチズムは運動の組織と第三帝国の組織のなかで余すところなく「実現」されていたため、…実際にナチの虚構が崩れ去ったときには、…あとかたもなく消え失せた》(99)

5) ☆2 全体主義組織

- 《全体主義運動の組織形態は他に類のない独創性を示している。…本質的に新しい独創的な組織方法として注目をひくのは、党員とシンパサイザーの区別である。》(100)

《ナチの用語で言えば、全体的支配の「最高の法」となるのは、…ダイナミックな「総統の意志」である(彼の命令ではない)。》(101)

《できる限り多くの同伴者を…かき集め、他方、党員そのもののほうは可能な限り制限する》(102)

- 《前面組織は、党員に対して外部世界の本来の性格を欺くのと全く同じように効果的に外部世界に対しては運動の本来の姿を隠蔽する役割を果たす》(104)

シンパ/党員/精鋭組織(SA/SS/行動部隊/髑髏隊/公安部/人権・移住本部)

《絶えず新しい階層や機関をつけ加え、…権力中枢を移動させる流動的ヒエラルヒー》

- レーム: 《権力奪取後はSAを直接に国防軍に編入しよう》(110) → 肅清 (107)
- 《重複組織をつくるという技術は、…全体主義国家にとっては非常に大きな意味を持っている。運動の擬制的世界を完璧化するのに役立ち、…まだ全体主義化していない社会の…職業部門の…職業倫理を破壊するこの上ない道具となる。》(112)
- 《精鋭組織の任務は外部世界に運動の危険性をはっきり示し…隊員に対しては共犯者とすることによって…運動に絶対的に縛りつけること》(115)
- 《指導者側近の者たちは彼の個人的能力について何の幻想も抱いていない…が、…無条件の忠誠をいささかも変えはしない。…指導者の最高の任務は…運動の一員や幹部が行なった一切の活動…悪行に対して、全面的な責任を一身に引き受けること》(118)
- 《指導者は、自分の部下に対する批判を許すことができない。…過ちを修正しようと望むなら、その執行にあたった者を抹殺してしまう以外に方法がない》(119)
- 《全体主義の指導者は運動の内部にあっては過激派中の最高の過激論者となりながら、外部に対しては尊敬すべきナイーブな共感者といったふりをすることができる》(120)
- 《全体主義政権が軍ではなく警察をもっとも信頼できる支柱とみ…るのは、陰謀的な秘密結社と…秘密警察との…本質的な類似性に起因している。》(128)
- 《シンパサイザーは外部世界に対し、…嘘を…ある程度まで信じられそうに見せかけてくれるし、運動内の段階的なシニシズムは、指導者が…いかさまの紳士から正真正銘の紳士になってしまう危険を取り除いてくれる》《党員は…党外向けの公式発表を一切信じないが…あの包括的説明とイデオロギー的ステロ版を固く信じている》(134)
- 《全体主義の指導者は、…たとえ自分が殺そうと決めた当の相手からでも絶対的な献身を期待しうる。》《理由は、全体主義政権においては後継者問題が相続法その他の法によって規定されていないという点にある。…宮廷革命の成功が戦争での敗北と同じような破壊的結果を運動にもたらす可能性がある。》(138)

6) ☆第三章 全体的支配

- 《全体的支配はまず第一に、権力掌握によって全体主義運動がその組織構造もそのイデオロギーも変えなかったこと、インタナショナルな運動から国境のなかでの政党への転換が行なわれなかったことを意味する。》(142)

- 《永久革命…を単にスローガンとして受け取るならば、国家と運動…との矛盾、世界支配の野望と半分だけ正常な対外政策…との矛盾を全体的支配が解決するのに用いた技術を的確に言いあらわす言葉は…見つかるまい。…一方では…運動の擬制的世界を…日常生活全体を支配する確固たる現実として確立しなければならず、…他方…この新しい革命的世界が自分勝手に安定して日常となることを妨げねばならない。》(144-146)
- 《全体的支配の逆説は、権力掌握ということと、一国内で国家機構と暴力とを占有しているということが、…有利である…と…同じ程度に危険でもあるということ》(146)

7) ☆1 国家機構

- 《第三帝国の初期…ナチは…重要な官庁はすべて二つ設けて、同じ職務が一つは官吏によって、もう一つは党員によって執行されるようにすることに熱心だった》(154)

《この支配機構の特徴としては無構造性しかない》(158)

- 《全体的支配機構の内部での運動の機動性は、指導部が真の権力中枢を絶えず移動し、別の組織に移し、しかもこうして権力を奪われた集団を解体…しなかったことから来ている》(160)

- 《(ソ連では)あらゆる業務部門にその独自の秘密警察部が付置され、…党員もその他の職員も監視しなければならない…。…ほかに党自身は、秘密警察の探偵をも含めてすべてのものを監視する秘密調査部を保持する。この二つ…は隠密に活動するから、双方…とも相手…のことを全然知らない。…報告はすべて最後には、モスクワの中央委員会と政治局に行く。…権限を与えられるのは…党のスパイ機構かもしれないし、…地域当局かもしれない。》(165)

- 《同一の任務を与えられている各機関の競争は、支配者への反対やサボタージュをほとんど不可能にする。》(166)

- 《とにかく全体主義を誤って専制政治の意味に解する…、ギャングもしくは徒党の政権であると…思いやすい。…個人の孤立化とアトム化が指導部の最上層にまで及ぶ》(171)

- 《(ナチスの末期)国防軍所属者の入党禁止は解かれ、…軍隊は事実上SS指揮官の隷下に置かれた。…国防軍軍人たちもますます大量虐殺に関与させられた。》(178)

- 《外国領土を占領した場合には…遡及的な立法が行なわれ、自国…法規が、すべての国に適用されうる法として公布された》(185)

8) ☆秘密警察の役割

- 《全体主義的な支配機構(ナチとボルシェビズム)…は、他のさまざまな独裁的、圧制的、専制的な暴力とは本質的に異なる。…一党独裁から発展してきたものではあるが、…真に全体主義的な特徴はそれまでになかったもので…、単一政党支配から導き出しうるものではない。…全体主義運動は、はじめから国家と運動の本質的な相違を維持し、…国家機構と融合することなしにいかにして国家機構を掌握するかという問題を、…重要でない党員だけを国家機構のなかに登用するというやり方で解決した。》(193)

- 《全体主義支配機構の権力中枢…唯一の機関は、秘密警察である。…目立つことはまず…軍に対する奇妙なまでの軽視である。…軍は一貫して警察機構に籍をおく官僚の命令

- 権下に置かれ、…国防軍…は警察が配置した精鋭組織の下風に立たされる。》(195)
- 《全体主義特有のテロルと真の秘密警察支配は、…反対派が…存在しなくなったときにやっと始まる》(197)
 - 《政権掌握以前から…展開していたイデオロギーに賛同するか否かによって敵味方を規定する…ことは、全体主義運動の本質である》(200)

《全体主義の警察は犯罪を摘発するという任務を持たない。いかなる犯罪が行なわれ、…誰がその時点で犯人…かを決めるのは最高指導者である。》(206)
 - 《全体主義社会の昇進の仕方…。…スパイの昇進にしかみられなかったような原則…。すべての高級官僚が肅清のおかげで、…その地位をえている…。》(215)
 - 《人が罰することのできるのは犯罪人で…、望ましからぬ者や生きる資格のない者は…地表から抹殺してしまう…。》(222) 《殺害が行なわれた、もしくは誰かが死んだことを教える屍体も墓もなかった。》(224)

9) 強制収容所

- 《強制収容所および絶滅収容所は全体的支配機構にとって、人間は全体的に支配されるものであるとする全体主義体制の主張が正しいかどうか実験される実験室》(230)

《科学的に厳密な条件のもとで人間の行動様式…自発性を排除し、…動物ですらないものに変える恐るべき実験》(231)
- 《強制収容所は決して全体主義運動の発明したものではない。…はじめて出現したのはブーア戦争のとき…、さらに南アフリカおよびインドで好ましからざる分子を収容するために利用された》(234)
- 《生き残りの報告はたくさんあるが…理解不可能だというアパシーに突き落とされてしまう。》(232) 《経験それ自体は陳腐なニヒリズムしか伝ええない…。そのもとではもはや人間が生きられえないような状態を打ち破ること…を戦争の必要を認める唯一の基準と…すること》(237)
- 《強制収容所は…正規の刑執行とは別の枠に入れられ、被収容者は「刑法に触れる…」収容所に送られることはありえない。》(246)

強制収容所は、1)法的人格、2)道徳的人格、3)個性性、を破壊し生きた屍を作り出す《強制収容所は死そのもの…を無名とすることで、死…の意味を奪った。》(234)

《犯罪者、政治囚…ユダヤ人たちが収容所運営を大幅にゆだねられ、…自分たちの友人を死に送るか…知らない別の人間の虐殺に手を貸すかという解決不能の葛藤を味あわされた》(235)
- 《自然発生的な野獣性(SAの拷問)は、SSが収容所の運営にあたるようになってから次第々々に後退し、それに代わって人間の尊厳を破壊するために人間の肉体をきわめて冷徹に…計画的に…破壊する方法がとられた》(257)
- 《全体主義の運動の内部では、「死滅する」階級や寄生人種をや頽廢した民族を実際に死滅させることほど論理的な首尾一貫したことはない》(262)
- 《全体的支配は、通常の推論の…意味連関をことごとく破壊するいっぽう、超意味とでもいうべきものを作り上げる。》(263)
- 《全体主義…のなかでは利潤動機も権力渴望も決定的な役割を演じない。全体的支配は自己の領土を拡張し…最終的には地球全体の支配を遂げようと努力はするが、…もっぱらイデオロギー的理由から…フィクティブな全体主義世界を地球全体の上に打ち建てる

ためなのだ。》(264)

10) ☆第四章 イデオロギーとテロル —新しい国家形式—

- 《当事者すべてが主観的には罪を感じないやり方で数百万人の殺戮を組織する…。死刑も無意味である。殺害者は決して人殺しの動機で行動しているわけではない。》(269)

→《責任を負うことができない》
- 《政治的には一国の政府はすべてその前任政府の行なったことについて責任を負う。…そのような引き継ぎなしには歴史の連続性…は決して存在しない…。われわれが知らず手もかさぬうちに人間が世界のどこかで犯した罪についても責任を引き受けねばならない。そうでなければ人類の統一性…は存在しまい。》(270)
- 《全体主義…の出現によってわれわれの政治学の範疇が粉碎された》(271)
- 《全体主義の法律は最初から…運動に内在する掟たることを定められている…。すべての法律が政令となってしまった》(273)
- 《全体主義の支配は歴史あるいは自然の過程を發進させその運動法則を人間社会のなかで貫徹させるためにテロルを必要とする。…テロル…は全体主義の支配の固有の本質》(276)

君主制～合法的統治／共和制～立憲的統治／専制～法なき支配／全体主義～テロル

- 《全体主義の支配の本質をなすものはそれ故、…あるがままの人間たちを無理やりテロルの箍のなかに押し込み、…行動の空間を消滅させてしまうことにある》(281)
 - 《イデオロギー的思考は、いったんその前提…が確定すると、原則的にいかなる経験からも影響を受けないし、いかなる現実からの教訓も受け付けない》(288)
- #### 11) ☆エピローグ (英語版第四章 イデオロギーとテロル—新しい国家形式—)
- 《自分自身の実定法をも含めてあらゆる実定法を無視する全体主義の態度は、なんらの consensus iuris(合意による法の承認)なしにあらゆることをなしようと…信じており…無法と専断と恐怖の専制国家に陥ると…思っていないことを意味している》(304)
 - 《ナチが自然の法則を、ボルシェビキが歴史の法則を語るとき…、自然も歴史も…安定的な権威の源泉ではなく、…運動そのもの》(304)

The Japan Foundation Middle East Fellowship Program for
Intellectual Exchange 2006 (MEFP November 2006)

The Society in Postwar Japan

by

Daisaburo Hashizume

(Professor of Sociology, Tokyo Institute of Technology)

hashizm@valdes.titech.ac.jp

Nov. 10, 2006

A few of the topics below will be chosen according to the audience's interest.

1) Religious life

Japanese people often say that they have no faith. But in reality ...

key words : Shintoism, Buddhism, Sokagakkai, Aum the Supreme Truth

2) Family

Japanese women were regarded to be gentle and obedient, but recently ...

key words : "ie" system, baby boomers, low reproductivity, feminism

3) Bureaucracy

Bureaucracy is the most powerful sector in Post-war Japan, however ...

key words : career/non-career, seniority system, GONGO, Japan corporation

4) Education

Japanese are well educated with high literacy rate, still there are some...

key words : entrance exam hell, deviation value, unattendance, shutting in

5) Literature

Balance between tradition and innovation is expected in novels, but ...

key words : Mishima Yukio, Oe Kenzaburo, Murakami Haruki, Yoshimoto Banana

6) History and modernity

How was the process of making nationality of the Japanese? The answer is...

key words : Shogunate government, Meiji restoration, Tenno, work ethics

7) Post-war thoughts

When the WWII was over, all waves of thoughts came into Japan, and ...

key words : Marxism, liberalism, socialism, conservatism, post-modernism

8) Minorities

Some are out-castes, others are ethnic minorities, therefore ...

key words : Ainu, Buraku (discriminated villages), Korean Japanese, Okinawans

9) Royal Family

Empress Michiko is the first commoner who married to the Crown Prince, ...

key words : Empress Michiko, Princess Masako, successor Problem, R.F.Code

10) Constitution Reform

Two thirds of the House of Rep. are necessary, and after LDP's victory ...

keywords : Article 9, Self Defence Forth, US-Japan Security Treaty

11) Subculture

Instead of dominant culture in mass media, after 80's young Japanese are ...

Key words : Manga(cartoon), Anime(animation film), Otaku, Akiba

朝日カルチャーセンター 旧約
提携講座@東 聖書
工大西9-W934

『出エジプト記』を読む

2006. 11. 10
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学教授。同、世界文明センター副センター長。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 旧約聖書とは

- 1) TANAKH (タナハ) = Torah + Nevi'im + Kethuvim トーラー+預言者+諸書
…ユダヤ教の聖典 キリスト教の旧約聖書 Old Testamentは配列が多少異なる
- 2) 構成
 - ・トーラー(Pentateuch モーセ五書) : 創世記/出エジプト記/レビ記/民数記/申命記
 - ・預言者: ヨシュア記/士師記/サムエル記上/サムエル記下/列王記上/列王記下/イザヤ書/エレミヤ書/エゼキエル書/十二小預言者書(ホセア書…)
 - ・諸書: 詩篇/箴言/ヨブ記/雅歌/ルツ記/哀歌/伝道の書/エステル記/ダニエル書/エズラ記/ネヘミヤ記/歴代誌上/歴代誌下
- 3) 成立年代
 - ・古代ヘブライ語で書かれる モーセ五書はバビロン捕囚(前6世紀)前後に成立
 - ・マソラ本文(10世紀の写本)、ギリシャ語訳(七十人訳)、ラテン語訳(ウルガダ訳)、欽定訳(KJV)、文語訳、口語訳、共同訳、新共同訳、など
 - ・本日使用するテキスト
 - a 木幡藤子・山我哲雄訳『出エジプト記 レビ記』(旧約聖書2) 岩波書店、2000
 - b 新共同訳『聖書 旧約聖書統編つき 引照つき』日本聖書協会、1987
 - c 文語訳『舊新約聖書』日本聖書協会、1887
 - d Tanakh: A New Translation of the Holy Scriptures according to the Traditional Hebrew Text, Jewish Publications Society 1985
 - e The Holy Bible: King James Version, Ivy Books 1991 (初版1611)
 - f Good News Bible: Today's English Version, Collins/Fontana, 1966
 - g Metzger, Bruce M. and Murphy, Roland E. eds. The New Oxford Annotated Bible with the Apocryphal/Deuterocanonical Books: New Revised Standard Version, Oxford University Press, 1991

□2□ 『出エジプト記』 Exodus

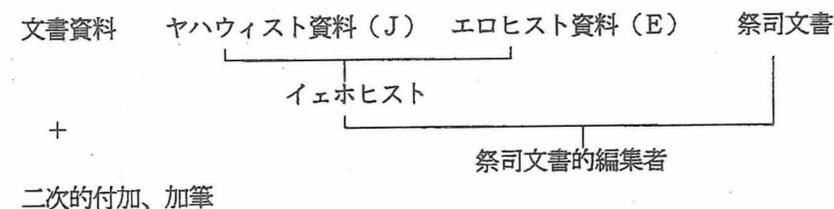
- 1) トーラーの二番目の書物
 - ・エジプトからの脱出/荒野の生活/シナイ山と律法、の三部よりなる。
 - ・ヤハウエ資料(J)、エロヒム資料(E)、祭司文書(P)、などが編集されたようだが、はっきりしない。
- 2) 成立の状況
 - ・エジプトからの脱出はラメセス二世の時代(前13世紀)と思われる。編集されたのは、前10世紀～前5世紀と、諸説がある。
- 3) モーセ五書の一体性
 - ・『創世記』『レビ記』『民数記』『申命記』と一体にとらえたときに、神との契約や律法の意味がよく理解できる。

内容構成

第一部	エジプトからの脱出(1: 1-15: 21)
1	エジプトでの圧制(1)
2	モーセ誕生から召命まで(2: 1-4: 31)
3	ファラオとの交渉そして召命再び(5: 1-7: 7)
4	奇蹟と災禍(7: 8-11: 10)
5	過越(12: 1-13: 16)
6	海の奇蹟と歌二首(13: 17-15: 21)
第二部	荒野において(15: 22-18: 27)
1	荒野生活の諸問題: 水と飢えと戦い(15: 22-17: 16)
2	神の山におけるモーセとイエトロ(18)
第三部	シナイにおいて(19: 1-40: 38)
1	シナイ山における神の到来(19)
2	二つの法集: 十戒と契約の書(20: 1-23: 33)
3	契約を結ぶ(24)
4	聖所の建設と祭儀についての指示(25-31)
5	金の若い雄牛像作製事件と再度の契約と法(32-34)
6	聖所の建設と祭儀についての指示の実行(35-40)

□3□ 『出エジプト記』の成立

- 1) モーセがモーセ五書を書いたのか
 - ・モーセは、歌の作者だったり、演説をし律法を与えたり、律法を書き記したりするが、モーセ五書のなかで、それ全体の作者であると言われてはいない。
 - ・のちにユダヤ教のなかで、モーセが五書の著者であるという伝承が生まれ、キリスト教もこの伝承を継承した。
 - ・モーセ五書には、著者がモーセであることと抵触する事実が含まれている。
 - i) 律法の多くは、放浪時代ではなく、定住し農耕している時代状況を反映
 - ii) 申命記の終わりにモーセの死亡と埋葬の記事がある
 - ・12世紀のユダヤ学者イブン・エズラ、16世紀改革派のカールシュタット、17世紀のホップズ、スピノザらはこの事実を指摘。しかし、一般に認められるのは18世紀。
- 2) モーセ五書の著者は誰か



3) 文書資料ごとの違い

- ・ヤハウィスト～《神に向き合おうとしない者に向かって…語りかけ、…人間に決断の自由を与えている。》→神といえども、未来を予知することはできない
- ・祭司文書～神の一方的介入 神は結末を見通している。人間はおおむね神に従うが、人間のたまさかの不服従が神の新しい行為を引き出す。

□4□ 「エジプトからの脱出」の読みどころ

- 材料1) モーセは決して理想の人物ではない
- ・生まれてすぐ、河に捨てられ流されて、ファラオの娘に育てられ、養子となる。
 - ・ヘブライ人が外国人寄留者として重労働させられ、迫害されているのを見て、カットな

- り、監督のエジプト人を殺害してしまう。指名手配され、砂漠に逃亡。
- ・異教徒のメディアン人イェトロの娘ツィボラと結婚し、子供二人をもうける。
- ・口下手 《以前から…口達者ではありません。…口も重く、舌も重いのです。》(4:10)

料外2) ヤハウェがモーセに現れ、エジプト脱出を約束

- ・モーセは、イェトロの家畜を追ってホレブ山に来て、ヤハウェと会う。《神は茨の灌木の真ん中から彼に呼びかけて言った、「モーセ、モーセ」。モーセは言った、「はい、ここにおります。」彼は言った、「ここに近づくな、足から草履を脱げ。あなたが立っているところは聖なる大地なのだから。」(3:4-5)
- ・ヤハウェは、先祖の神であると名のる。《「わたしは、あなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」》(3:6)
- ・《わたしは降りて来た。エジプト人の手から彼らを救い出すため、そして彼らを導き上げるため、この地から、よい広い地へ、乳と蜜の流れる地へ、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、イェブス人の所へと。》(3:8)
- ・モーセは神の名を問うが、神ははぐらかして答えない。a 《神はモーセに言った、「わたしはなる、わたしがなるものに」》(3:14) エフィエ アシエル エフィエ
b 《神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また…》
c 《神モーセにいひ給ひけるは我は有りて在る者なり又いひ給ひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし我有りといふ者我を汝らに遣はし給ふと》
d 《And God said to Moses, "Ehyeh-Asher-Ehyeh". He continued, "Thus shall you say to the Israelites, 'Ehyeh sent me to you'".》
e 《And God said unto Moses, I AM THAT I AM: and he said, Thus shalt thou say unto the children of Israel, I AM hath sent me unto you.》
f 《God said, "I am who I am. This is what you must say to them: 'The one who is called I AM has sent me to you'".》
g 《God said to Moses, "I AM WHO I AM". He said further, "Thus you shall say to the Israelites, 'I AM has sent me to you'".》

料外3) モーセは、兄弟のアロンと協力する。

- ・アロンの子孫(レビ人)だけが正統な祭司となったと信じられている。
《レビ人であるお前の兄弟、アロンがいるではないか。わたしは、彼がよく語ることを知っている。…お前が彼に語り、彼の口に言葉を置く。わたしはお前の口と彼の口と共にいる。》(4:14-15)
- ・ヤハウェは、突然モーセを殺そうとする ←不可解な箇所
《途中、野営でのことである。ヤハウェがモーセを襲い、殺そうとした。ツィボラ(モーセの妻)は尖った石を取り、自分の息子の包皮を切り…言った、「あなたは私にとって血の花婿(割礼を受けた者)です。」》(4:24-26)

料外4) モーセは奇蹟を起こすが、ファラオは頑固で、出国を許さない。

- ・杖が蛇に変化する奇蹟 ファラオの呼んだ魔術師も杖を蛇に変えるが、モーセの蛇に飲まれてしまう
- ・水が血に変化して飲めなくなる奇蹟 エジプトの魔術師も同様に行なう
- ・蛙の奇蹟 ファラオは出国を約束するが翻意する
- ・ぶよの奇蹟 ・あぶの災難 《ゴシェンの地を別に扱おう》(8:18) ・疫病の災難
- ・腫れ物の奇蹟 ・雹の災難 ・蝗の災難 ・暗闇の異変 ・初子の災難
- ・過越し 《あなたたちは、それ(羊)を生で、あるいは、ゆでて食べてはならない。火で炙りなさい。》(12:9) ~レヴィ=ストロース『料理の三角形』……構造主義
《七日間、種入れぬパンをあなたたちは食べなさい。》(12:15)

料外5) エジプトからの出発

- ・《イスラエルの子らは、ラメセスからスコトに向けて出発した。…男子だけで徒歩の者が約六十万人だった。》(12:37)
60万人(イスラエルの全員)とするのは後世の立場。国境を警備したエジプト側に記録はなく、少人数だったと思われる。
- ・過越しの食事 《異国人は誰もそれを食べてはならない。銀で買われた男の奴隷は、あなたが彼に割礼を施せば、それからは食べてよい。》(12:43-44)
- ・《ヤハウェの律法があなたの口にあるためである。》(13:9) →律法を小箱に入れ額に巻き付ける(厳格派)
- ・《モーセは、ヨセフの骨を携え持った》(13:19)

料外6) 海の奇蹟(解説403)

- ・古い伝承(ヤハウリスト)…「海の水が退いて乾いたところに陣営を張っていたエジプトの軍隊が、海の水が戻って覆われて死滅した」
- ・ヨシュア記3~4章(ヨルダン河の水のあったところが乾き、また水が戻った)の影響+イスラエルの人びとが乾いたところを通り抜ける
- ・「海が二つに割れ、イスラエルの人びとは無事通り抜けたが、追ってきたエジプトの軍隊は海に呑まれた」祭司文書は、この物語に合った地形を探してあてはめた
- ・民衆はモーセに不平を言う 《お前は、荒野で死ぬようと俺たちを連れ出したのか》(14:11) ほかに同様の箇所あり 16:3, 17:2, 民数記2:1, 14:1など
- ・モーセはヤハウェに勝利の歌を歌う(15:1-18)
- ・アロンの姉妹ミリヤム(女預言者)が、タンバリンを持ち踊り歌う。

□5□ 荒野の生活

料外7) 荒野での試練

- ・ヤハウェはシナイ山より早く、荒野で律法を与えた 《ヤハウェはイスラエルに掟と法を提示し、そこでイスラエルを試した。「…あなたの神ヤハウェの声をよく聞き、…彼のすべての掟を守るなら…」》(15:25-26) ←後代の加筆部分
- ・荒野でうずらとマーン(マナ)が与えられる
マーン: ギョリウ科のマナ・タマクリスの木の葉から樹液を摂取したアブラムシ科の昆虫の分泌物。夜気温が下がると固まり、集めることができる。(注74四)
- ・岩から水が湧き出る 《みよ、わたしはそこであなたの前に、ホレブの岩の上に立つ。あなたはその岩を打ちなさい、…水がそこから出て来て、民は飲むことができる》(17:6)
- ・アマレク人と争う ヨシュアは神の杖を手を持って戦闘を指揮する
- ・モーセの舅イェトロ、妻、二人の子が訪れる。イェトロはヤハウェを祝福する。イェトロはモーセの裁判のやり方を改め、千人隊長、百人隊長…が裁くように提案する。

□6□ シナイ山と律法

料外8) モーセは、ヤハウェから、シナイ山で十戒を授かる

- ・ヤハウェは、火に包まれて、シナイ山に降りてくる。(19:18)
- ・ヤハウェは、十戒を授ける。(十戒という言葉は、34:28, 申命記4:13, 10:4にある。)十戒は、文書資料と無関係に伝承されていたものが、20章に挿入されたと思われる。
他の神々を拜んではならない 殺してはならない
偶像を造ってはならない 姦淫してはならない
ヤハウェの名をみだりに唱えてはならない 盗んではならない
安息日を守れ 隣人に対して偽証してはならない
父と母を尊敬せよ 隣人のものを欲しがってはならない

科ト9) 契約の書 (20:22-23:33) ~社会的弱者の保護

- ・祭壇のつくり方を指定する ノミや階段を使わない 異教の習慣を禁止するため
- ・奴隷の処遇 奴隷の権利を擁護する規程 《ある男が自分の男奴隷か女奴隷を杖で打ち、その場で死んだ場合、男は必ず復讐される。ただ、もし奴隷が一日か二日生きているなら、男は復讐されなくてすむ。》(21:20) オリエンタ法に類例なし
- ・泥棒に対する実力(22:1)
- ・女呪術師、動物と寝る者、神々のために犠牲を献げる者は、死刑(22:17-19)
- ・《寄留者を、あなたは圧迫してはならない。…なぜならあなたたちは、エジプトの地で寄留者であったのだから。》(22:20)
- ・《もし銀をあなたが…貧しい者に貸すのなら、…利子を課してはならない。もし、あなたの隣人の上着を担保に取るようなことがあっても、日の入りまでにそれを彼に返さない。》(22:24-25)
- ・《社会的弱者を、彼の訴訟でえこひいきしてはならない。…あなたが、あなたを憎んでいる者のろばが重荷の下にうずくまっているのを見た場合、…あなたはそれを彼と共に助け起こさない。》(23:3-5)
- ・安息年、安息日 巡礼祭
- ・《子山羊をその母の乳の中で煮てはならない》(23:19) ←異教の習慣の禁止と思われる
- ・《わたしは、あなたの領土を葦の海(アカバ湾)からペリシテ人の海(地中海)まで、荒野から大河(ユーフラテス河)までとする。》(23:31)
- ・イスラエルの民は、神の法に服従を誓う。モーセ、アロンや長老七十人は、イスラエルの神の前に進み出、一緒に飲食した。(24:9-11)

科ト10) 聖所の建設と祭儀についての命令 (25~31章)

- ・ケルビム(ケルブの複数形)の像を、契約の箱や天幕に飾りつける。ケルビムは、翼を持ち、半人半獣の姿をした天使的・神話的存在
- ・寸法や材料、工程について大変に詳細で具体的である。
- ・メノラー(七脚のランプ台)の製作
- ・天幕、骨組みの詳細な設計、祭壇
- ・祭司が身につける祭服の設計と仕様
- ・祭司の任職式の手順 全焼の供儀のやり方 日ごとの供物 香
- ・人口調査と徴税をモーセに命令
- ・職人たちを指名
- ・安息日の厳守

科ト11) 金の雄牛をつくる

- ・モーセの帰りが遅いので、人びとはアロンに、偶像をつくれと要求する。アロンは、人びとの金装品を集めて、金の雄牛を造る。(32:1-6)
- ・ヤハウェが怒るのを、モーセがなだめる。《「ヤハウェよ、なぜあなたの怒りは燃えるのですか。…なぜにエジプト人が言ってよいでしょう、『ヤハウェは、彼らを悪意をもって導き出し、山で彼らを殺害し、大地の面から彼らを断った』と。…あなたの民に災いを思い止まって下さい。あなたの僕たち、アブラハム、イサク、イスラエルを想い起こして下さい。…」》(32:11-13) ←預言者は神と論争をしてもよい。
- ・山を降りたモーセは怒って、契約の石版を投げ捨て、レビ人を集めて、民のうち三千人を殺させた。モーセはそれをヤハウェに報告する。

科ト12) もうひとつの十戒

- ・ヤハウェはもう一度、モーセに契約の石版をつくらせる。

・ヤハウェは、もうひとつの十戒を授ける。 ←祭儀的十戒と呼ばれる

- ・モーセは、ヤハウェと40日を過ごした。山を降りてきたモーセの顔は輝いていた。《モーセの手には証書の石版二枚があった。モーセは、自分がヤハウェと話している間に、自分の顔の皮膚が光り輝いたのを知らなかった。》(34:29) ←ウルガダ訳は「角が生えた」と誤訳した。 ∴ミケランジェロのモーセ彫像は角がある
- ・安息日に火を灯してはならない。 →厳格派は、安息日に電気もつけない
- ・ヤハウェの指示通りに、聖所、幕屋、メラノー、祭壇、祭服、中庭、そのほかが製作された。(35-40章)

科ト13) モーセは約束の地に入ることができなかった

- ・《ヤハウェはモーセに告げて言った。「あなたは…モアブの地にある…ネボ山に登り、わたしがイスラエルの子らに所有地として与えるカナンの地を、見なさい。あなたは、登っていくその山で死に、あなたの民に加えられよ。…あなたたちが…メリバト・カデシュの泉で、不信の罪を犯したからであり、あなたたちが、…私を聖としなかったからである。》(申命記32:49-50)
- ・《ヤハウェの僕モーセは、ヤハウェの言葉の通り、このモアブの地で死んだ。》(申命記34:5)
- ・モーセとアロンの神に対する不信とは、メリバの水での言動による。《ヤハウェはモーセに告げて言った、「杖を取り、あなたとあなたの兄アロンは、会衆…の目の前で岩に水を湧き出すように命じなさい。…」…そこでモーセは、ヤハウェの前から杖を手を取った。…「聞くがよい、反逆者たちよ。ああ、この岩から、私たちが、あなたたちのための水を湧き出させてやらねばならないのか。」それから…岩を二度にわたって打った。すると、大量の水が湧き出した。するとヤハウェは、モーセとアロンに言った、「あなたたちは、私を信頼せず、イスラエルの子らの目の前で私の聖性を示そうとしなかった。それゆえあなたたちは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に連れて行くことはできない。》(民数記20:7-12)
- ・上記のどこに、モーセが約束の地に足を踏み入れることを許されないほどの罪があるのかははっきりしない。諸説あるが、冒瀆的な表現が和らげられている可能性もある。

□7□ 『出エジプト記』の影響

1) アメリカ建国

- ・奴隷的拘束状態からの解放(自由) →指導者による建国(理想国家の建設)
- ・∞イスラエル:ユダヤ人(外国人寄留者)が約束の地に自分たちの国家を建国

2) マルクス

- ・《フランス社会内部での階級戦は、諸国民の相対峙する世界戦争に転化する。…革命はこの国で終結するのではなく組織的に始まるのであるが、それは息の短い革命ではない。今日の世代は、モーセが砂漠を越えて導いて行ったユダヤ人に似ている。それは一つの新世界を征服しなければならないだけでなく、新世界に対処しうる人に席を譲るために滅んでゆかなければならない。》「フランスにおける階級闘争」『全集』7:76-77.
- ・B・ラッセルは、マルクス主義をユダヤ教にたとえた。モーセのマルクス、エジプトの資本主義、約束の地の共産主義、イスラエルの民のプロレタリア、…

3) フロイト

- ・最晩年の「トーテムとタブー」「人間モーセと一神教」において、原父殺害説を展開。
- ・モーセはユダヤ人でなくエジプト王宮の高官/エジプトではイクナートンによる一神教が失敗し、モーセも失脚/モーセはユダヤ人を解放するかわりに、一神教(割礼、十戒など)を押しつけた/ユダヤ人はモーセを殺害し、その事実を隠蔽した/ユダヤ人の神は、父殺害にともなうトラウマを覆い隠す超自我である……

東大仏教青年会
第258回公開
講座@会館ホール

世界のなかの日本仏教

2006. 11. 21
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『アメリカの行動原理』(PHP新書)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> ☆東京財団ウェブで宗教講義全10回を公開中。<http://www.tkfd.or.jp/division/public/nation/ibunka.shtml>

□1□ 一神教と仏教

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 一神教 monotheism の基本構造
 - ・宗教=神との契約=法律 ヤハウェア：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 聖典/預言者/食物規制/安息日/終末=最後の審判/政教分離/宗教改革
- 3) 仏教の基本構造
 - ・法前仏後 (cf 神前法後) 法~dharma → 覚り → 仏陀 (覚者) Buddha 輪廻/三(四)諦/八正道/無常/三宝/三帰依/僧伽/羯磨/戒律~波羅提木叉
- 4) 神と仏の関係
 - ・神God と仏は本来相いれない 神∩仏=φ
 - ・ところが日本では、神々と諸仏諸菩薩とは同じものと考えられてきた(神仏習合)

□2□ 運動としての仏教 ~富永仲基：加上の説

- 1) 基本仏教 覚りはあるのか 覚りはゲームのなかで実在する
cf L・ヴィトゲンシュタイン『哲学探究』にいう、言語ゲーム language game
 - ① 覚りを尋ねあうゲーム
 - ② ブッダを覚りの標準とするゲーム
 - ③ ブッダの言説を伝持するゲーム
 - ④ ブッダの戒律を守るゲーム
 - ⑤ 戒律違反を告白しあうゲーム
- 2) 大乘仏教：基本仏教を部分ゲームとする、拡大ゲーム
 - ・菩薩行を重視(サンガの相対化)、成仏を重視(声聞乘の相対化) cf 仏塔信仰起源説
 - ・空観、現在他仏(阿弥陀仏ほか)、久遠実成仏、曼荼羅

- 3) 密教
 - ・宇宙方程式(象徴するもの∞象徴されるもの) 覚っているから修行ができる
- 4) 中国仏教
 - ・天台宗 五時教判 すべての仏典を釈尊の真説と考えて教理を体系化
 - ・禪宗 具足戒を廃し、勤勞を修行とする 自力厚生

□3□ 日本仏教の特質

- 1) 神仏習合
 - ・日本の神々が発願し、仏門に帰依し、出家する
 - ・本地垂迹説 インドの諸仏諸菩薩が日本の神々として垂迹 → 逆本地垂迹説
- 2) 鎌倉新仏教
 - ・浄土宗~浄土真宗 出家の全否定~道場~地上の信仰共同体~一揆 非僧非俗
 - ・日蓮宗 天台宗の五時教判にもとづく仏教原理主義 天台本覚/靈山浄土
- 3) 江戸幕府と仏教
 - ・邪宗門 切支丹、不受布施派、真言立川流、…
 - ・宗門人別帳 檀家制度
 - ・江戸後期に、国学系の廃仏思想が出て、神仏分離や神道への改宗が進む
- 4) 明治政府と仏教
 - ・神仏分離 神社の等級づけ、神社整理 僧侶妻帯
 - ・国家神道の創出 「神道は宗教にあらず」政策 大日本帝国憲法 教育勅語
 - ・平田神道→東京招魂社→靖国神社 英霊 GHQ 神道指令
 - ・西洋仏教学の流入 大乘非仏説が深刻な衝撃を与えず cf 富永仲基『出定後語』

□4□ 日本仏教の現状

- 1) 日本仏教の低迷
 - ・現実社会との乖離 江戸時代は儒学国学、明治以降は洋学がフロンティアに
 - ・仏教を深化発展させようとするエネルギーの涸渇 仏教に対する期待がない
- 2) 近代仏教学の発展
 - ・姉崎正治、鈴木大拙、木村泰賢、宇井伯寿、中村元、…
 - ・だが、修行と信仰のシステムとしての仏教は、南伝仏教やチベット仏教に押され気味
- 3) 新興宗教の隆盛
 - ・創価学会~SGI 立正佼成会 霊友会
 - ・オウム真理教 幸福の科学

□5□ 日本仏教と世界

- 1) 地球と科学技術文明の危機
 - ・仏教的生命観 因果~法則 輪廻~生態系 ミクロコスモス~現象学
 - ・欲望に対するコントロール
- 2) 知性による救済
 - ・主知主義 万人対等 思想の自由
 - ・仏典の創造的解釈 科学・技術・近代国家の仏教的位置づけ
- 3) 非西歐的・普遍知性としての仏教
 - ・宗教間対話、文明間対話
- 4) 家庭でできる法事法要
 - ・2DKマンションのキッチンでできる仏式メモリアル

平成18年度石川県
高等学校教頭会金
沢地区研究協議会
@ KKRホテル金沢

いま高校に何ができるか

—選択・責任・連帯の教育改革—

2006. 11. 24
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学教授。同、世界文明センター副センター長。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめの構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(ちくま文庫)、『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』(共編著・勁草書房)、『寛容のレシピ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 教育のなにが問題か

教育についての精神論は、無意味で有害

1) 時代が制度を追い越した

- ・6・3・3・4制は、教育を改善・平等化……義務教育9年制、高校進学、男女平等
- ・高校進学率の上昇→全入化 ⇒ 高校格差の顕在化 小学校落ちこぼれ、中学の暴力
- ・初等中等教育は、人びとに意欲や機会を分配する代わりに、機会と意欲を奪うものに

2) 統一的な戦略と責任主体が欠如

- ・文科省～県・市町村教育委員会～校長・教員(官僚制) ↔ 教育(人・対・人)
- ・指導要領(プロセスの管理) → 結果の評価なし 進学偏重・卒業当然 → 単位制空洞化
- ・公教育の機能不全 ⇒ 学校外教育(塾・予備校)の隆盛 ⇒ 所得格差の再生産

3) なぜ改革ができないか

- ・国民(家族=親+子ども)が主体でない 文科省は、教育権は国にあると思っている
- ・幼稚園・保育園/小中学校/高校/大学 利害や発想がばらばら 文科省も担当が別
- ・受験体制は裏のシステム(自生的秩序) ⇒ それを改革する方法論がない

□2□ 選択・責任・連帯の教育改革

～1999年勁草書房刊【完全版】より

1) 基本的な考え

- ・小中高教育は国民の標準学力→意欲を育て、達成度を評価 大学は選択的→自己負担
- ・選択(親と子の主体性)+責任(親子・教師・行政が任務を全う)+連帯(協力信頼)

2) 小中学校の改革

- ・学区をなくす→学校選択制 校長の権限(人事権・予算権・カリキュラム権) 学校理事会
- ・教員の年俸制と自由採用→校長を中心とするチーム 外部評価(成績・ガバナンス)

3) 高校の改革

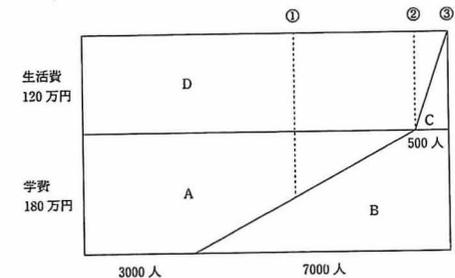
- ・入試を廃止 コアカリキュラム+選択コース 高検(高卒資格検定試験)に一本化
- ・校長の権限(人事権・予算権・カリキュラム権) 選択コース:才能教育/進学準備/職業教育

4) 大学の改革

- ・学生定員と入試を廃止→絶対評価にもとづく入学審査 全員に奨学金or奨学ローン
- ・大学ごとに目的を明確化 教育…原則は受益者(学生)負担 研究…競争的資金

(a) 年間の学費を180万円とした場合

- ① ハーフ・スカラシップ 学費180万円→90万円(成績375番/1万人)
- ② フル・スカラシップ 学費全額免除(成績500番/1万人)
- ③ 特待生 学費全額免除+生活費120万円給付



□3□ いま高校に何ができるか

1) 目標の明確化

- ・×不本意進学の増加: 高校入試+高校新設⇒偏差値輪切り⇒進学校/中堅校/底辺高
- ・×卒業への強い期待: 出席重視+外部評価なし+進学・就職重視 ⇒ 授業のお荷物化
- ・○教育の原点に帰れ: 必要な教育をする→評価 連帯回復(教員は生徒の目標支援)

2) 教育の柔軟性

- ・学年、クラスは必要か 単位制～生徒本位のカリキュラム 複数校連携～単位互換
- ・学校外教育(予備校)との連携 公立校現役で志望校入学を可能に 出張授業
- ・職業・専門教育の充実(専門学校との連携) 高校～専門学校～大学 進路支援

3) 学校文化の改革

- ・業界ルールを廃止 官僚制→機能集団(公設民営) 教育のプロ/経営のプロ
- ・学校は共同体でない 生徒を学校に一体化→学校格差の実体化→個人支援に失敗
- ・いつでも、誰でも 公立高校は、地域と市民に開かれた場 教える/教わる

□4□ いま高校は何をすべきか

1) 独自カリキュラムの展開 指導要領に縛られてはなにもできない

- ・小中の補習プログラム 大学への準備プログラム 課外活動で構わない ×教科書

2) 高校ガバナンスの革新

- ・校長の公募とオーディション 生徒・父兄・社会への説明責任 結果責任

3) 学校間の自由競争

- ・転校の自由 チャータースクール(教員有志の学校設立) 教員FA制

同志社大学経済学部
公開レクチャー・第2回
「宗教と資本主義」

宗教と資本主義：再考

2006. 12. 8
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』『橋爪大三郎コレクションI~III』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣のチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> ☆東京財団ウェブで宗教講義全10回を公開中。<http://www.tkfd.or.jp/division/public/nation/ibunka.shtml>

□1□ マックス・ウェーバー「宗教と経済倫理」学説

1) 禁欲的プロテスタンティズム

- ・カルヴァン J. Calvin 1509-1564 救済予定説 predestination ……人間個々人の救済は神のみが定め、人間は関与できない。⇒ローマ教皇の権威を否定。
- ・世俗内禁欲：世俗の職業に従事しつつ、合理的な禁欲の生活を送る 自由意思の否定
- ・神の恩恵 経済的成功(利潤)は救済の証⇒投資=資本の再生産へ 勤労の倫理

2) 資本主義とは何か

- ・生産要素(労働・土地・資本)の市場 複式簿記/割引手形/科学技術/…
- ・マルクス『資本論』～森嶋通夫『マルクスの経済学』 搾取法則 利潤率低下の法則
- ・崩壊のシナリオ 利潤率低下⇒独占価格⇒帝国主義⇒戦争⇒同時革命 ～レーニン
- ・社会主義の崩壊 自由経済の効率性/ケインズ(有効需要)政策/新技術～開発者利益

3) ウェーバーの宿題

- ・20世紀の初頭、ロシアを破った新興資本主義国・日本をどう位置づけるか
- ・マルクス：英独の革命vsアジア的生産様式 アジアの資本主義/共産主義は想定外
- ・韓国・台湾・シンガポール(儒教圏?)→中国・インド 宗教は資本主義の必要条件か?

□2□ 山本七平「勤勉の哲学」説

- 1) 勤勉のエートス 山本七平1979『勤勉の哲学』→1984 PHP文庫+小室直樹解説
- ・鈴木正三：禅宗の僧、武士、排キリシタン論者 世俗内労働は仏道修行である
- ・石田梅岩：労働により自分の生活を支えることは自然の道理 四民日用
- ・日本に、禁欲的プロテスタンティズムの「機能的等価物」が存在すると想定

2) 小室直樹による修正

- ・文庫版解説 pp272-356では、山本七平説を前提に、ウェーバーの学説を紹介
- ・東京財団のTV番組では、「日本人はもともと勤勉だった、神話をみよ」と山本説を否定
- ・日本人は神中心ではなく、人中心。∴神中心の「宗教改革」と同型の出来事は起きない

3) 日本型の資本主義とは

- ・伝統社会における勤勉の素地 米作農業 自作農中心の村落 イエ制度 高識字率
- ・規律訓練(軍隊・学校・天皇制) 集団への帰属と献身(家族の相対的な軽さ)
- ・労働神聖観 利潤を超えた組織目的を想定(教会や宗教的靈性の相対的な弱さ)

□3□ グローバル化する資本主義：宗教倫理は必須なのか

1) 宗教の定義は、むずかしい

- ・橋爪の定義：宗教＝「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- ・宗教は、人類の大集団(文明)を動かす基本OS 境界でコンフリクトを発生する
- ・資本主義は、初発の条件をこえて、これら大集団をひとつの経済に統合しつつある

2) グローバル資本主義

- ・帝国主義～資源と製品の移動(情報や資本や人間は緩慢に移動) 本国/植民地の区別
- ・グローバリズム～資源や製品に加え、情報・資本・人間の移動 拡大する国際分業
- ・自動化資本設備、管理(規律訓練)の移転 資本主義的行動様式が脱文脈化する

3) 労働の電子化

- ・戦闘ロボット 歩兵の究極性(クワゼット) →ヒト型ロボットの代行→陸戦規程の想定外
- ・マニファクチャ →ライン→オートメーション→コンピュータ制御→ハイテクノロジーコンプレックス ……勤労倫理の電子化
- ・宗教はテクノロジーにとって代わられるのか 反例) イスラム、アフリカ、南米

□4□ 宗教と資本主義はどこへ行くのか

1) 資本主義はどこまで変質するか

- ・バイオサンエンス～人体的自然の操作～健康と寿命は、先進国/途上国で格差拡大
- ・情報～ナノ技術～ロックダウンや修理が効かない～先進国キャッチアップは絶望的
- ・食糧・エネルギー～生産が困難～人口増に対して不足～資源価格の高騰～構造的貧困
- ・単純労働力の付加価値が生存水準に低下⇔高付加価値労働 窮乏化理論の再現?

2) 21世紀、宗教はどういう役割を果たすか

- ・《イスラムの原則に忠実なイスラム原理主義が、過激なテロと結びつくのではと欧米社会では恐れています》2001.6
- ・宗教：イメージーションを用い、現実をもうひとつの現実と接合する 意味の錬金術
- ・グローバル化経済(蟻地獄の21世紀)、人びとはキメラ宗教を喜んで迎えるだろう

3) 希望をつくりだす文明へ

- ・合理的な前進の筋道を立てる：希望の創出 希望がなければ、敵意が増殖
- ・合理性 市場メカニズム(合意と既得権の尊重) +科学(普遍知識の尊重) +多元主義(異なる価値の共存を認める) +連帯(人類社会の一体性への信頼)
- ・主権国家の枠組みでは、連帯の構築は不充分 ⇒国家をこえる枠組みを模索すべき

COMPO
研究会@百
年記念館2F
第5会議室

中国がアメリカを追い抜く日

—— 胡錦濤—温家宝政権の発展戦略 ——

2006. 12. 9
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめの構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著、廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(A・グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』『アメリカの行動原理』(以上、PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著、朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『隣りのチャイナ』(夏目書房)ほか。

<http://www.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ チャイナ原論

1) 文明としての中国/ローカル文化としての日本

- ・中国は、古代に成立した「中華共同体」(CU)である Cf EU
- ・中国の方言は、互に通じない 広東語/北京語/上海語=英語/ドイツ語/仏語…
- ・表意文字である漢字が、中国を統一 中国語は人工言語(数・変化・時制などなし)

2) 中国社会の基本構造

- ・上部に官僚組織 貴族/地主/読書人/軍人/宦官 →読書人が勝ち残る(皇帝専制)
- ・下部に地方組織 宗族(父系血縁集団・同姓) 承包(丸投げ)の体制
- ・数百年に一度、政治的混乱⇒王朝の交代 所有権の否定 セキュリティとしての親族

3) 儒教の本質

- ・差別道徳: 重要な人間関係を選別、集団における権力と正統性の所在を明示
- ・君主に服従(忠/義)~官僚機構 年長者に服従(孝/長幼の序)~宗族
- ・忠と孝では孝が優先 君主が暴君なら討伐してよい(湯武放伐論)~孟子の革命説

4) 中華人民共和国とは何か

- ・毛沢東の革命 農民を主体に、地主を打倒: 伝統的的革命 農本主義的ユートピア
- ・共産党の官僚組織は、伝統的なものよりも、社会の下部に達している: 「単位」制度
- ・社会主義市場経済……資本主義×一党独裁 歴史的概念としては「ファシズム」

□2□ 深化する改革開放 —— 胡錦濤—温家宝政権の課題

* この内容は、胡鞍鋼 Hu AnGang 『影響決策的国情報告』『新発展観』をもとに、最近出版した『隣りのチャイナ 橋爪大三郎の中国論』(2005. 11、夏目書房)に基づきます。

1) 経済成長

- ・1978年から年率9%の成長が続く 実質で日本を追い抜き、アメリカに追いつく勢い
- ・ボトルネック要因…失業や貧困/腐敗/伝染病/水資源/資源価格/金融/海外投資/台湾問題など政治的緊張 ジニ係数は80年代初の0.28→1999年の0.44に急上昇

2) 失業問題

- ・1993~1997年のレイオフ累計は1200万人、失業率は7% 国有企業整理の峠は越えた
- ・東北三省(遼寧省、吉林省、黒竜江省)と中西部では、国有企業の比重が高く失業深刻
- ・全人代: 2003年に800万の職場創出 労働集約産業/中小企業/非公有/非正規就業
- ・給与年金の遅配欠配 全労働者の六分の一 国有企業が退職者の生活を支え負担が大

3) 農村問題

- ・戸口(戸籍)制度: 農村から都市への移動制限(1958年から厳格に適用)
- ・農民工: 累計1億人 農村非農業人口1億7千万人 改革開放で2.4億人が都市へ
- ・三農問題(農業、農村、農民) 農産物価格の40%下落(1997-2000) インフラ投資の遅れ

4) 地域格差問題 「一個中国、四個世界」 小康社会→和諧(調和)社会

- ・北京・上海(2.7%)/天津、浙江省…(21.8%)/山東省…(27.8%)/四川省…(50.6%)
- ・貧困人口は20% 「小康社会」: 十六大の重点目標に 富裕/小康/温飽/貧困
- ・先富論⇒共同富裕論 西部大開発 ひとつの大切、五つの優先 富民為本=雇用確保/社会保障改革/社会の安定/分配の公平/都市の低所得層の利益、を優先する

5) 腐敗問題

- ・「官倒爺」(官僚の横流し)→許認可をめぐる不正→「壟断」(官僚主導の寡占独占)
- ・腐敗による経済損失はGDPの13~16% 汚職/関税逃れ/壟断(電気代など)/税の未納/税の無駄/公共投資の損失/国外逃亡資金/違法な徴収/金融の損失
- ・電力改革: 政企分離/廠網分解/全国ネット 鉄道改革 電信改革 航空改革

6) 環境問題

- ・土壌流出(国土の38%)/荒地地拡大/森林赤字/砂漠化(草原の1/3が消滅)/大気汚染と酸性雨/水質汚染 原因…人口増加+都市化+経済成長+貧困

7) 政治指導者

- ・鄧小平が終身制を廃止 江沢民が定年制・任期制を採用 →幹部の交代が予測可能に
- ・若返り 十二大73.8歳→十三大63.6歳 高学歴化 十二大10.3年→十五大15.9年
- ・閣僚級幹部のうち、85%が、省級幹部経験者 ただし地域に偏りがある

8) 国際関係

- ・2020年、中国は強盛期に 経済的実力+総合的国力+生活水準 党と大衆の結合
- ・中国はアメリカとの友好関係を必要とするが、すでにアメリカと戦略的対抗関係に

9) 政治改革と民主化

- ・「人民内部の矛盾」「人民大衆を敵とみなすのは誤り」(劉少奇)
- ・中国建国以来の誤り 1)階級闘争を優先 2)性急な経済建設 3)人口政策の失敗 ~毛
- ・2002年十六大報告: 意思決定の科学化・民主化を進めよう

□3□ 世界のなかの日中関係

1) 21世紀前半は米中関係が基軸

- ・アメリカ~新大陸/中国~旧大陸 対照的で相互補完的 アメリカの中国封じ込め
- ・日米関係、日中関係は、米中関係の従属変数 日本の対米、対中戦略を構想すべき

2) 「歴史問題」は、東アジアの主導権問題だ

- ・中国反日デモの背景…党の黙認/党の統制/対日問題(安保理拡大、MD)
- ・中国は靖国神社がうらやましいのでは 人民英雄記念碑 地方での追悼は禁止
- ・安倍首相の訪中・訪韓 中国も関係修復を歓迎 ポスト金正日へのカウントダウン

3) 台湾問題

- ・国民党主席の直接選挙(2005.7)…台湾民主化の完成 ⇒共産党になぜできない?
- ・アメリカは台湾を防衛⇒日本も同調⇒中国は対米衝突を避けたいので、むしろ助かる

4) 長期的な対中戦略を

- ・地域的な重心は中国に傾く+韓国・朝鮮 アメリカは牽制してインド、日本にテコ入れ
- ・中国とアメリカが握手しても、喧嘩しても、日本は割り喰う ⇒その中間に活路